

基本計画書

基 本 計 画												
事 項		記 入 欄							備 考			
計 画 の 区 分		大学の収容定員に係る学則変更										
フリガナ 設 置 者		ガッコウキリシト オキナワキリストキョウガクイン 学校法人 沖縄キリスト教学院										
フリガナ 大 学 の 名 称		オキナワキリストキョウガクインダク 沖縄キリスト教学院大学										
大 学 本 部 の 位 置		沖縄県中頭郡西原町字翁長 777 番地										
大 学 の 目 的		建学の精神に基づいた聖なるものへの畏敬の念を持ち、多様性の中に調和をもたらす人材を育成する。また人間の福祉向上に貢献し、新時代に柔軟性をもって対応できる人材を育成する。										
新 設 学 部 等 の 目 的		沖縄キリスト教学院大学人文学部に観光文化学科を設置届出により新たに設置するため、収容定員を変更する。なお、既設の英語コミュニケーション学科の収容定員に変更はない。										
新設学部等の概要	新設学部等の名称		修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又は 称号	開設時期及び 開設年次	所 在 地			
	人文学部		年	人	年次 人	人		年 月 第 年次				
	英語コミュニケーション学科		4	90	3 年次 15	390	学士(英語コミュニケーション学)	平成 16 年 4 月 第 1 年次 平成 18 年 4 月 第 3 年次	沖縄県中頭郡西原町字翁長 777 番地			
	観光文化学科		4	90 (0)	－ 3 年次	360 (0)	学士 (観光文化学)	令和 6 年 4 月 第 1 年次	同上			
	計			180 (90)	15 (15)	750 (390)			※令和 6 年 4 月設置届出予定			
同一設置者内における 変 更 状 況 (定 員 の 移 行 、 名 称 の 変 更 等)			沖縄キリスト教短期大学 英語科（廃止）(△100) ※令和 6 年 4 月 学生募集停止 令和 6 年 4 月 学科名称変更予定 保育科→地域こども保育学科									
教育 課程	新設学部等の名称		開設する授業科目の総数					卒業要件単位数				
			講義	演習	実験・実習	計						
	－		－科目	－科目	－科目	－科目	－単位					
教員 組 織 の 概 要	学 部 等 の 名 称				専任教員等					兼 任 教員等		
					教授	准教授	講師	助教	計	助手		
	新 設 分	人文学部 英語コミュニケーション学科				人 10 (10)	人 5 (5)	人 0 (0)	人 0 (0)	人 15 (15)		人 0 (0)
		観光文化学科				3 (3)	5 (5)	1 (1)	1 (1)	10 (10)		0 (0)
		計				13 (13)	10 (10)	1 (1)	1 (1)	25 (25)		0 (0)
	既 設 分	該当なし				－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)		－ (－)
		計				－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)		－ (－)
		合 計				13 (13)	10 (10)	1 (1)	1 (1)	25 (25)		0 (0)
	職 種		専 任			兼 任			計			
事 務 職 員		22 人			11 人			33 人				

			(22)		(11)		(33)								
	技 術 職 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)								
	図 書 館 専 門 職 員		1 (1)		2 (2)		3 (3)								
	そ の 他 の 職 員		2 (2)		3 (3)		5 (5)								
	計		25 (25)		16 (16)		41 (41)								
校 地 等	区 分		専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計		沖縄キリスト 教短期大学(必 要面積 2,000 ㎡)と共用 (収容定員:200 人)				
	校 舎 敷 地		0 ㎡		11,863.47 ㎡		0 ㎡		11,863.47 ㎡						
	運 動 場 用 地		0 ㎡		1,033.66 ㎡		0 ㎡		1,033.66 ㎡						
	小 計		0 ㎡		12,897.13 ㎡		0 ㎡		12,897.13 ㎡						
	そ の 他		0 ㎡		319.09 ㎡		0 ㎡		319.09 ㎡						
	合 計		0 ㎡		13,216.22 ㎡		0 ㎡		13,216.22 ㎡						
校 舎			専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計		沖縄キリスト 教短期大学(必 要面積 2,350 ㎡)と共用 (収容定員:200 人)				
			881.57 ㎡ (881.57 ㎡)		10,104.12 ㎡ (10,104.12 ㎡)		1,066.42 ㎡ (1,066.42 ㎡)		12,052.11 ㎡ (12,052.11 ㎡)						
教 室 等	講 義 室		演 習 室		実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設		大学全体				
	22 室		10 室		3 室		1 室 (補助職員0人)		2 室 (補助職員0人)						
専 任 教 員 研 究 室			新設学部等の名称				室 数								
			大学全体				25 室								
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕 冊		学術雑誌 〔うち外国書〕 種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕		視聴覚資料		機械・器具		標本		大学全体
	大学全体		29,587 [9,634] (27,179 [9,114])		21 [10] (19 [12])		2 [2] (2 [2])		794 (788)		(0)		(0)		
	計		29,587 [9,634] (27,179 [9,114])		21 [10] (19 [12])		2 [2] (2 [2])		794 (788)		(0)		(0)		
図 書 館			面 積		閱 覧 座 席 数				収 納 可 能 冊 数				大学全体		
			1,271.06 ㎡		166				166,667						
体 育 館			面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要							大学全体			
			1,403.78 ㎡		該当なし										
経費の 見積り 及び維持方法 の概要	経費 の見 積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	大学全体					
		教員1人当り研究費等		200千円	200千円	200千円	200千円	—	—						
		共同研究費等		1,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	—	—						
		図書購入費	3,311千円	3,311千円	3,311千円	3,311千円	3,311千円	—	—						
	学生1人当り 納付金	設備購入費	9,326千円	9,326千円	9,326千円	9,326千円	9,326千円	—	—	図書費には電 子ジャーナル・デー タベースの整備費 (運用コスト含 む)を含む。					
		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次								
		975千円	830千円	830千円	850千円	—千円	—千円								
学生納付金以外の維持方法の概要				私立大学等経常費補助金収入、手数料収入、雑収入等											
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称		沖縄キリスト教学院大学												
	学 部 等 の 名 称		修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開 設 年 度	所 在 地					
	人文学部		年	人	年次 人	人		倍 0.95		沖縄県中頭郡西					

	英語コミュニケーション学科	4	90	15	390	学士(英語コミュニケーション学)	0.95	平成 16 年度	原町字翁長 777 番地	
	大学院 異文化コミュニケーション学研究科 異文化コミュニケーション学専攻 (修士課程)	2	5	—	10	修士(異文化コミュニケーション学)	0.00	平成 20 年度	沖縄県中頭郡西原町字翁長 777 番地	
	大 学 の 名 称	沖縄キリスト教短期大学								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又は 称号	定 員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
	英語科	年	人	年次 人	人	短期大学士(英語)	倍	昭和 38 年度	沖縄県中頭郡西原町字翁長 777 番地	
保育科	2	100	—	200	短期大学士(保育)	0.52	昭和 42 年度			
※令和 6 年度より学生募集停止(英語科) ※令和 6 年度より名称変更(保育科→地域こども保育学科)										
附 属 施 設 の 概 要		該当なし								

学校法人沖縄キリスト教学院 設置認可等に関わる組織の移行表

令和5年度

	入学 定員	編入学 定員	収容 定員
--	----------	-----------	----------

沖縄キリスト教学院大学			
人文学部			
英語コミュニケーション学科	90	3年次 15	390
計	90	3年次 15	390
沖縄キリスト教学院大学大学院			
異文化コミュニケーション学研究科			
異文化コミュニケーション学専攻(M)	5	-	10
計	5	-	10
沖縄キリスト教短期大学			
英語科	100	-	200
保育科	100	-	200
計	200	-	400

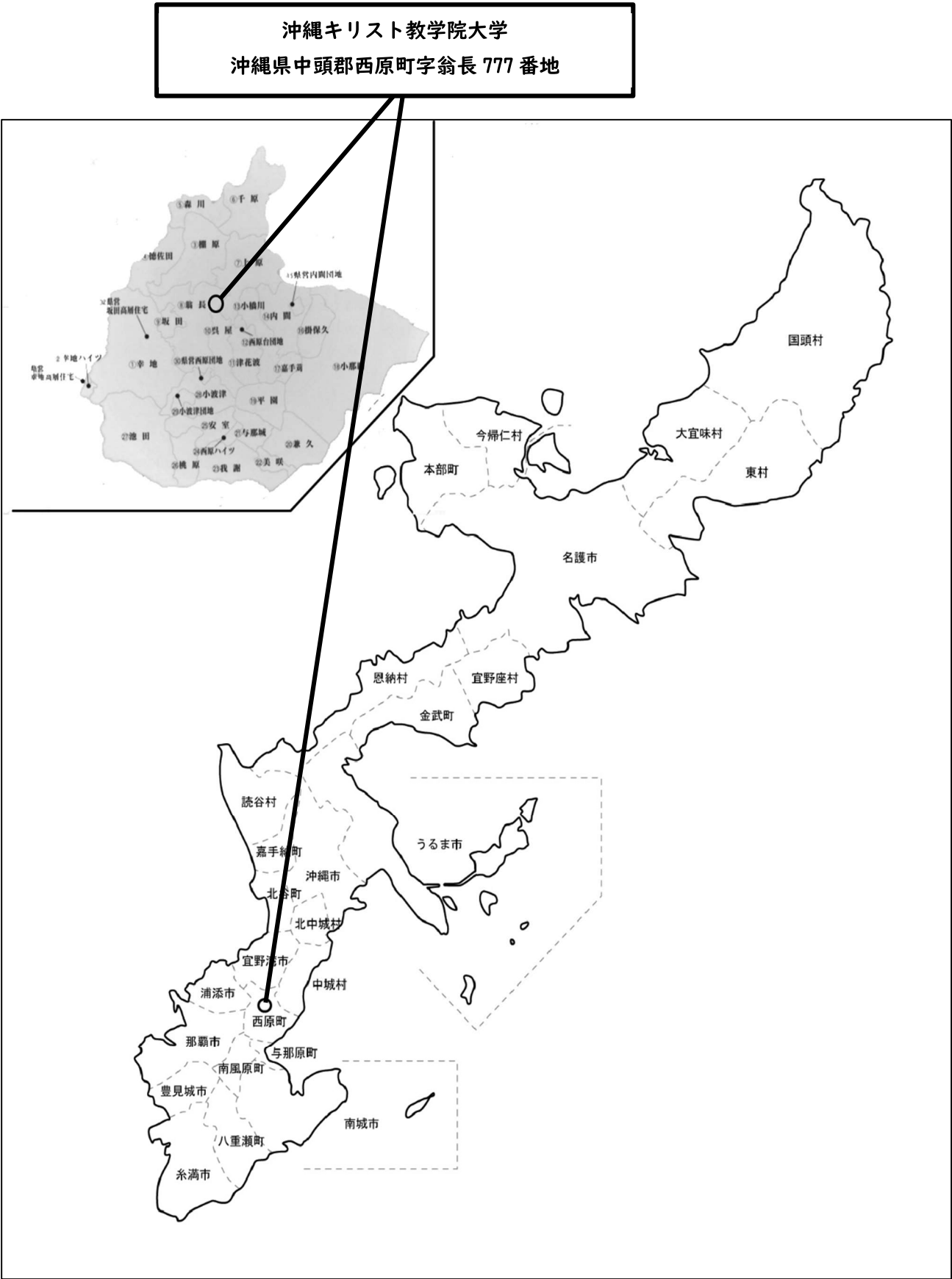
令和6年度

	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
--	----------	-----------	----------	-------

沖縄キリスト教学院大学				
人文学部				
英語コミュニケーション学科	90	3年次 15	390	
観光文化学科	90	3年次 -	360	学科の設置(届出)
計	180	3年次 15	750	
沖縄キリスト教学院大学大学院				
異文化コミュニケーション学研究科				
異文化コミュニケーション学専攻(M)	5	-	10	
計	5	-	10	
沖縄キリスト教短期大学				
	0	-	0	令和6年4月学生募集停止
地域こども保育学科	100	-	200	名称変更
計	100	-	200	

校地校舎等の図面

1. 都道府県内における位置関係の図面

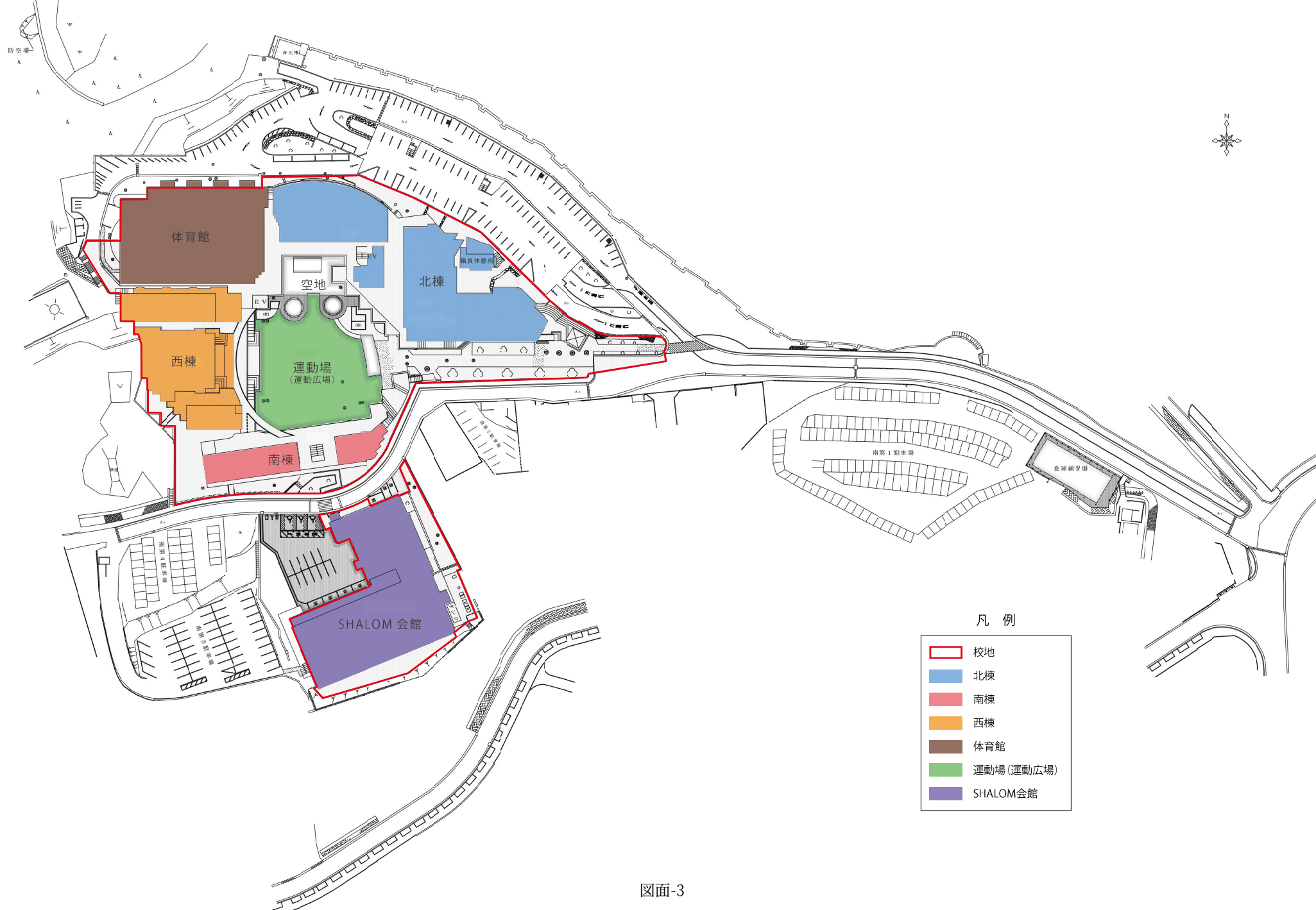


図面-1

2. 最寄り駅・バス停からの距離と交通機関が分かる図面



3. 校舎，運動場等の配置図



図面-3

沖縄キリスト教学院大学学則（案）

第 1 章 総 則

（目的）

第1条 沖縄キリスト教学院大学（以下「本学」という）は、教育基本法及び学校教育法に従い、キリスト教精神に基づいた学校教育を施し、人格の完成をめざし、社会に有用なる人材を育成することを目的とする。

第 2 章 自己点検・評価・改善等

（自己点検・評価、改善等）

第2条 本学は、前条の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動の状況について自ら点検及び評価を行い、それに基づいて改善を実施し教育水準の向上を図る。

- 2 前項の自己点検・評価を行うため、前項の趣旨に即し適切な項目を設定し実施する自己点検・評価・改善委員会を置く。
- 3 公的認証評価機関の評価を積極的に受け、教育の改善に努めるものとする。
- 4 自己点検・評価・改善委員会に関する必要な事項は、別に定める。

（第三者評価協議会の設置）

第3条 削除

- 2 削除
- 3 削除

（自己点検の目的）

第4条 削除

（教育研究上の目的の公表等）

第5条 本学は、学部、学科ごとに人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を定め、公表するものとする。

- 2 本学は、教育研究の成果の普及及び活用の推進に資するため、その教育研究活動の状況について、刊行物やその他広く周知を図ることができる方法によって情報を公表するものとする。

第 3 章 組 織

（学部、学科、入学定員及び収容定員）

第6条 本学に次の学部・学科を置き、定員は次のとおりとする。

学 部	学 科	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
人文学部	英語コミュニケーション学科	90 人	15 人	390 人
	観光文化学科	90 人	—	360 人
合 計		180 人	15 人	750 人

(教育研究上の目的)

第6条の2

1 人文学部の教育研究上の目的

本学は、建学の精神、大学の使命・目的、及び基本理念を踏まえ、人文学部の教育目的・理念を以下のように定める。

- (1) 聖なるものへの畏敬の念を養う。
- (2) 多様性の中に調和を求める心を養う。
- (3) 人類の福祉の向上に貢献できる能力を養う。
- (4) グローバル化・情報化・複雑化社会に対応する能力を涵養する。

2 英語コミュニケーション学科の教育研究上の目的

国際化・グローバル化する世界の文化・経済・政治等の国際交流の場において、事実上の国際共通語 (de facto international language) となっている英語において、高度のコミュニケーション能力をもつて、効果的かつ分別をもって運用できる人材を育成する。

3 観光文化学科の教育研究上の目的

「光を観る」という観光の学びとして、歴史・文化の本質を理解したうえで、文化資源及び観光資源の光の価値を認識し、国内外へ発信できる人材、さらに、他地域との比較によりそれらに対する新たな価値を創出し、文化振興及び観光振興に貢献できる人材を育成する。また、実践的な教育の取り組み強化により、大学の教育・研究と地域社会の実態との乖離を無くし、観光産業発展に寄与できる優れた人材を育成する。

第 4 章 職 員 組 織

(職員)

第7条 本学に、学長、教授、准教授、講師、助教、事務職員その他の職員を置く。

(事務組織)

第7条の2 事務組織については別に定める。

(学長)

第8条 学長は、本学の校務をつかさどり、職員を統督する。

- 2 学長に事故あるとき又は欠けたときは、学長があらかじめ定めた者が順位に従い、学長の職務を代理又は代行する。
- 3 学長の選任について必要な事項は別に定める。

(部長等)

第9条 本学に、人文学部長、宗教部長、教学支援部長、学生支援部長、図書館長を置く。

- 2 学部長の選任について必要な事項は別に定める。
- 3 学部長以外の部長等は学長が任命する。
- 4 部長等の職務等については別に定める。

(名誉教授)

第10条 本学に多年勤務し、教育上・学術上功績のあった者に名誉教授の称号を授与することができる。

- 2 名誉教授称号授与に関する規定は別に定める。

第 5 章 大学運営協議会、教授会等

(大学運営協議会)

第 11 条 本学の管理運営に関する重要な事項を審議するため、大学運営協議会を置く。

2 大学運営協議会の下に、大学運営各種委員会を置く。

3 大学運営協議会及び大学運営各種委員会に関する必要な事項は別に定める。

(教授会)

第 12 条 本学に教授会を置く。

2 教授会は本学専任の教育職員をもって組織する。

3 教授会に関する必要な事項は別に定める。

第 6 章 開学記念日、学年、学期及び休業日

(開学記念日)

第 13 条 本学の開学記念日を 4 月 1 日とする。

(学年)

第 14 条 学年は 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終わる。

(学期)

第 15 条 学年を次の 2 学期（セメスター）に分け、学期ごとに授業科目を開設し完結する。

前学期 4 月 1 日 ～ 9 月 30 日

後学期 10 月 1 日 ～ 3 月 31 日

(休業日)

第 16 条 休業日は、次のとおりとする。

(1) 日曜日

(2) 国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号第 3 条）に規定する休日

(3) 慰霊の日 6 月 23 日

(4) 春期休業日 2 月 10 日 ～ 3 月 20 日

(5) 夏期休業日 8 月 1 日 ～ 9 月 20 日

(6) 冬期休業日 12 月 24 日 ～ 1 月 4 日

2 学長は第 1 項の規定にかかわらず、特別の必要があると認めるときは、臨時に休業日を設け、又は休業日を変更し、もしくは休業日に授業を行うことができる。

(1 年間の授業期間)

第 17 条 1 年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め 35 週にわたることを原則とする。

第 7 章 修業年限及び在学年限

(修業年限及び在学年限)

第 18 条 本学の修業年限は、4 年とする。

2 在学年限は、前項修業年限の 2 倍とし、8 年を超えて在学することはできない。

3 前項の規定にかかわらず、編入学、転入学及び再入学により入学を許可された学生は、入学後の在学すべき年数の 2 倍を超えて在学することはできない。

4 職業を有している等の事情により修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し卒業することを申し出たときは、第 1 項の規定にかかわらず修業年限を 2 年を超えることができる。

第 8 章 入 学

(入学の時期)

第 19 条 入学の時期は、毎年 4 月とする。

2 英語コミュニケーション学科は、必要と認めた場合、学期の区分に従い入学することができる。

(入学資格)

第 20 条 本学に入学することができる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者又は通常の課程以外の課程により、これに相当する学校教育を修了した者
- (3) 外国において、学校教育における 12 年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 文部科学大臣の指定した者
- (6) 高等学校卒業程度認定試験に合格した者
- (7) その他、相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると学長が認めた者

(入学の出願)

第 21 条 本学に入学を志願する者は、本学指定の期日までに、本学所定の書類に入学検定料を添えて学長に提出しなければならない。

(入学者の選考)

第 22 条 前条の入学志願者については、別に定めるところにより、選考を行う。

2 選考による合格者の決定は、教授会の議を経て学長が行う。

(入学手続及び入学許可)

第 23 条 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに、本学所定の書類を提出するとともに、所定の学費を納付しなければならない。

2 学長は、前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。

(編入学)

第 24 条 本学に編入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 大学又は短期大学の課程を卒業した者
 - (2) 大学に 2 年以上在学し、60 単位以上を修得した者
 - (3) 高等専門学校課程を卒業した者
 - (4) 学校教育法施行規則第 186 条に規定する専修学校の専門課程を修了した者（大学入学資格を有する者に限る）
 - (5) 大学に 1 年以上在学し、30 単位以上を修得した者
 - (6) 外国において、学校教育における 14 年の課程（日本の通常の課程による学校教育の期間を含む）を修了した者
 - (7) 外国の短期大学を卒業した者及び外国の短期大学の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を我が国において修了した者（学校教育法第 90 条第 1 項に規定する者に限る）
- 2 前項の各号に該当する者の編入学の決定は、教授会の議を経て学長が行うものとする。
- 3 編入学に関する必要な事項は、別に定める。

(転入学)

第 25 条 本学に転入学を志願する者があるときは、学長は欠員のある場合に限り、選考のうえ教授会の議を経て、相当年次に入学を学長が許可するものとする。

(転学科)

第 25 条の 2 学生は、各々の所属している学科から他の学科への変更は、原則として認めない。ただし、特別の理由により転学科を志願する者については、欠員がある場合に限り試験を行い、教授会の議を経て、学長はこれを許可することがある。

2 転学科に関する規定は別に定める。

(再入学)

第 26 条 退学した者又は除籍された者が再入学を志願したときは、欠員のある場合に限り、教授会の議を経て、学長がこれを許可することがある。

(編入学等の場合の取扱い)

第 27 条 前第 24 条、第 25 条、第 26 条の規定により入学を許可された者の既に修得した授業科目及びその単位数の取扱い、履修すべき授業科目並びに在学すべき年数については、教授会の議を経て学長が決定する。

第 9 章 教育課程、履修方法、学外単位等

(教育課程の編成方針)

第 28 条 学部及び学科の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設し、体系的に教育課程を編成するものとする。

2 教育課程の編成に当たっては、学部等の専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮するものとする。

(教育課程の編成方法)

第 28 条の 2 本学の教育課程は、各授業科目を必修科目、選択科目及び自由科目に分け、これを各年次に配して編成するものとする。

2 授業科目の種類及び単位数等は次によるものとする。

(1) 英語コミュニケーション学科については、別表第 1 及び別表第 4 (教職課程) のとおりとする。

(2) 観光文化学科については、別表第 2 及び別表第 3 のとおりとする。

(履修科目の登録の上限)

第 28 条の 3 学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、卒業の要件として学生が修得すべき単位数について、学生が 1 学期に履修科目として登録することができる単位数の上限は、別に定める。

(単位の計算方法)

第 29 条 各授業科目の単位数は、1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

(1) 講義及び演習については、15 時間から 30 時間までの範囲で定める時間の授業をもって 1 単位とする。

- (2) 実験、実習及び実技については、30 時間から 45 時間までの範囲で定める時間の授業をもって 1 単位とする。
- (3) 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、前 2 号に規定する基準を考慮して大学が定める時間の授業をもって 1 単位とする。
- (4) 前項の規定にかかわらず卒業研究等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

(単位の授与)

第 30 条 授業科目を履修し、その試験に合格した者には、所定の単位を与える。ただし、前条第 1 項第 4 号の授業科目については、別に定める適切な方法により学修の成果を評価して単位を与えることができる。

(成績の評価)

第 31 条 各授業科目の履修成績は、毎学期末授業担当者がこれを評定する。評価は、期末試験成績、随時試験・平常の学習状況・レポート等により総合的に行う。

2 成績の評価は 100 点満点とし、評価の結果は次のとおり表示する。

秀	(90 点以上)
優	(80 点 ～ 90 点未満)
良	(70 点 ～ 80 点未満)
可	(60 点 ～ 70 点未満)
不可	(60 点未満)

3 海外研修、ボランティア実習等の評価についても、秀・優・良・可・不可であらわす。

(授業の方法)

第 31 条の 2 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 前項の授業は、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

3 第 1 項の授業を、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。

(成績評価基準等の明示等)

第 31 条の 3 学部及び学科は、学生に対して、授業の方法及び内容並びに 1 年間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする。

2 学部及び学科は、学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。

(教育内容等の改善のための組織的な研修等)

第 31 条の 4 本学又は学部は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

(履修方法等)

第 32 条 授業科目の履修方法その他必要な事項は別に定める。

(他の大学又は短期大学における授業科目の履修等)

第 33 条 学長が教育上有益と認めるとき、他の大学又は短期大学との協議に基づき、学生が当該大学又は短期大学において履修した授業科目について履修した単位を 60 単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定は、本学の学生が外国の大学又は短期大学に留学する場合にも準用する。

(大学以外の教育施設等における学修)

第 34 条 学長が教育上有益と認めるときは、本学の学生が他の短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

2 前項により与えることができる単位数は、前条により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて 60 単位を超えないものとする。

(入学前の既修得単位等の認定)

第 35 条 学長は教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学において履修した単位授業科目について修得した単位(科目等履修生として修得した単位を含む。)を、本学における入学した後の授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 学長が教育上有益と認めるときは、学生が入学する前に行った前条第 1 項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

3 前 2 項により与えることができる単位数は、編入学、転入学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第 33 条第 1 項及び第 2 項並びに第 34 条第 1 項により本学において履修したものとみなす単位と合わせて 60 単位を超えないものとする。

4 第 33 条、第 34 条及び前 3 項に規定する単位の認定は、当該教授会においてこれを行う。

第 10 章 教育職員免許状

(教員免許状の所要資格を取得するための課程)

第 36 条 教育職員免許状の所要資格を取得するため教職課程を置く。

2 教育職員免許法(昭和 24 年法律第 147 号)の規定に基づく普通免許状の所要資格を取得しようとする者は、同法及び教育免許施行規則(昭和 29 年文部省令第 26 号)の定めるところによって別表第 4 に定める課程を修得しなければならない。

3 本学において取得できる普通免許状の種類は、次のとおりとする。

学 科	取得できる普通免許状	教科の種類
英語コミュニケーション学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	英語 英語

第 11 章 休学、復学、転学、留学、退学及び除籍

(休学)

第 37 条 病気その他やむを得ない理由により学業を継続することができない者は、学長の許可を得て休学することができる。

2 疾病のため修学することが適当でないと認められる者については、学長は教授会の議を経て、当該学生に休学を命ずることができる。

3 休学の期間は、引き続き 2 年を超えることができない。ただし、特別の事由がある場合は、学長の許可を得て、1 年を限度として延長することができる。

- 4 休学の期間は、通算して4年を超えることはできない。
- 5 休学の期間は、第18条に規定する在学年限に算入しない。
- 6 休学期間の学費は、免除する。ただし、別に定める在籍料を所定の期日までに納入するものとする。

(復学)

第38条 休学期間中にその理由が消滅した場合は、学長の許可を得て復学することができる。

- 2 復学の時期は、学期の始めとする。

(転学)

第39条 他の大学等への入学又は転学を志願しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

(留学)

第40条 外国の大学又は短期大学で学修することを志願する者は、別に定めるところにより、学長の許可を得て留学することができる。

- 2 前項の許可を得て留学した期間は、第18条に規定する在学期間に含めることができる。
- 3 第33条の規定は、第1項の許可を得て留学する場合にも準用する。

(退学)

第41条 病気その他やむを得ない理由により退学する者は、保証人連署のうえ願い出て、学長の許可を受けなければならない。

(除籍)

第42条 次の各号の一に該当する者は、教授会の議を経て、学長が除籍する。

- (1) 第18条による在学年限を超えた者
- (2) 第37条第4項による休学期間を超えて、なお復学することができない者
- (3) 休学及び休学延長の許可を得ない者
- (4) 授業料の納付を怠り、督促してもなお納付しない者
- (5) 死亡した者又は長期間にわたり行方不明の者

(その他)

第43条 第37条から第42条に関して必要な事項は別に定める。

第12章 卒業及び学位

(卒業・学位)

第44条 本学に4年以上在学し、英語コミュニケーション学科においては、別表第1、観光文化学科においては、別表第2及び別表第3に掲げる所定の授業科目数及び単位数を修得した者には、教授会の議を経て学長が卒業を認定する。

- 2 前項の規定により、卒業の要件として修得すべき所定の単位数のうち、第31条の2第2項に規定する授業の方法で履修し修得した単位は、60単位を超えない範囲で認定する。
- 3 学長は、第1項の卒業を認定した者に対して、卒業証書・学位記を授与する。
- 4 卒業の認定及び卒業証書・学位記授与は、3月及び9月に行う。

(学位の授与)

第45条 学長は、卒業を認定した者に学士の学位を授与する。

- 2 学位の授与については、別に定める。

第 13 章 特別学生

(科目等履修生)

第 46 条 本学において、一又は複数の授業科目の履修を希望する者があるときは、選考のうえ、教授会の議を経て学長は、科目等履修生として履修を許可することができる。

2 高等学校在校生で、本学において授業科目の履修を希望する者があるときは、当該高等学校との協定に基づき、学長は、科目等履修生として履修を許可することができる。

3 学則第 28 条の 2 第 2 項に規定する授業科目について、科目等履修生は評定を受け、合格者は単位を修得することができる。

4 本学に入学する以前に本学において単位を修得した者が、引き続き本学に入学した場合、その修得単位が 30 単位以上あり、授業科目の履修が体系的で、正規の学生と同様の教育効果をあげていると認められる場合、第 18 条の規定にかかわらず、教授会の議を経て、2 個学期を超えない範囲で修業年限に通算することができる。

(研究生)

第 47 条 本学において、特定の専門事項について研究することを志願する者があるときは、選考のうえ、教授会の議を経て学長は、入学を許可することができる。

2 研究生となることを志願することができる者は、大学を卒業した者又はこれと同等以上の能力があると学長が認めた者とする。

(委託生)

第 48 条 本学において、官公庁、学校、団体等からその所属する職員に特定の事項について研修させるため委託があるときは、選考のうえ、教授会の議を経て学長は、委託生として入学を許可することができる。

(特別聴講学生)

第 49 条 他の大学又は短期大学（外国の大学又は短期大学を含む）との学術交流協定、又はその他の協議に基づき、当該他の大学等の学生が、本学の授業科目の一部について履修を志願するときは、当該教授会の議を経て、特別聴講学生として学長が履修を許可することができる。

2 特別聴講学生の履修できる単位数は、通算して 30 単位を超えないものとする。

(外国人留学生)

第 50 条 外国人で、本学に入学を志願する者があるときは、選考のうえ、教授会の議を経て学長は、外国人留学生として入学を許可することができる。

(科目等履修生等の取扱い)

第 51 条 前 5 条に定めるもののほか、科目等履修生、研究生、委託生、特別聴講学生及び外国人留学生に関し必要な事項を別に定める。

第 14 章 入学検定料、入学金、授業料等

(授業料等の金額)

第 52 条 本学の入学検定料、入学金、授業料、教育充実資金の納入金は、次のとおりとする。

入学検定料	30,000 円
入 学 金	130,000 円（入学時のみ）
授 業 料	660,000 円（年額）
教育充実資金	160,000 円（年額）

- 2 外国人留学生、科目等履修生、研究生等の入学検定料、入学金及び授業料等については別に定める。
- 3 在籍期間4年を超えて修学する者の授業料及び教育充実資金は、最終年次と同額とする。ただし、1 個学期のみ履修して卒業する者は、年額の2分の1とする。
- 4 本学の指定する地域に在住している者の入学検定料については別に定める。
- 5 本学の指定する資格を取得した者の入学検定料については別に定める。

(授業料等の納入方法・納入時期)

第53条 入学金を除く学費は、春学期及び秋学期に分けて半額ずつ納めることができる。

- 2 学費納入の時期は、次のとおりとする。

春学期 3 月 中
秋学期 9 月 中

- 3 一旦納入した学費その他の納入金は、これを返還しない。ただし、入学を内定した者が入学前の所定の期日までに入学の辞退を申し出た場合、入学金を除く学費を返還することがある。なお、納入後に休学する者の場合は、授業料及び教育充実資金については、復学時の納入金に振り替えることができる。

振替割合は次のとおりとする。

休学願い出の日	振 替 割 合
納 入 日 ～ 学期開始前日	100%
学期開始日 ～ 15 日	80%
16 日 ～ 30 日	50%
31 日 ～	0 %

- 4 学費等納入金に関する規定は別に定める。

第 15 章 賞 罰

(表彰)

第54条 学長は、表彰に値する行為があった学生を、教授会の議を経て表彰することができる。

(懲戒)

第55条 学長は、本学の学則その他学生に関する諸規程に違反し、又は学生としての本分に反する行為をした者に対して、教授会の議を経て、懲戒することができる。

- 2 前項の懲戒の種類は、退学、停学及び訓告とする。
- 3 前項の退学は、次の各号の一に該当する者に対して行うことができる。
 - (1) 性行不良で改善の見込みのないと認められた者
 - (2) 学業を怠り卒業の見込みがないと認められる者
 - (3) 正当な理由がなくて出席が常でない者
 - (4) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

第 16 章 大学開放及び生涯学習支援

(大学開放)

第56条 本学は、教育研究上の支障のない限りにおいて、その教育研究施設及び設備を積極的に開放する。

(生涯学習支援)

第 57 条 削除

2 削除

3 削除

第 17 章 奨学制度

(奨学制度)

第 58 条 本学に、給付奨学制度を設ける。

2 奨学制度に関し必要な事項は別に定める。

第 18 章 雑 則

(学則の改廃)

第 59 条 この学則に定めるもののほか、この学則の施行に関し必要な事項及び改廃は、大学運営協議会の議を経て理事会が行う。

附 則

1 この学則は、2004 年 4 月 1 日から施行する。ただし、第 21 条、第 22 条、第 23 条、第 52 条、第 53 条の規定は、文部科学大臣が本学の設置を認可した日より施行する。

2 第 6 条第 1 項の規定の適用にあたって、同条中の収容定員については、次表に掲げる年度の数に読み替えるものとする。

年度	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	収容定員
2004 年度	120 人	—	—	—	120 人
2005 年度	120 人	120 人	—	—	240 人
2006 年度	120 人	120 人	120 人+15 人	—	375 人
2007 年度	120 人	120 人	120 人+15 人	120 人+15 人	510 人

附 則

この学則は、2005 年 11 月 29 日から施行し、2005 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

この学則は、2006 年 4 月 26 日から施行し、2005 年 10 月 1 日から適用する。

附 則

1 この学則は、2007 年 4 月 1 日から施行する。

2 沖縄キリスト教短期大学学則（1959 年 4 月 1 日制定）及び学内諸規程中「助教授」は「准教授」、「助手」は「助教」に読み替えるものとする。

附 則

この学則は、2007 年 1 月 17 日から施行し、2006 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

この学則は、2007 年 5 月 14 日から施行し、2007 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

1 この学則は、2008 年 4 月 1 日から施行する。

2 2007 年度の在学者で、卒業延期（休学及び留学を除く。）により在学年限を超える者の授業料等は、最終年次の授業料の 2 分の 1 とする。ただし、1 個学期のみ履修して卒業する者は、年間授業料の 4 分の 1 とする。

附 則

この学則は、2009 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、2010 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、2010 年 5 月 11 日から施行し、2010 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

この学則は、2010 年 12 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、2012 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、2013 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、2014 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

1 この学則は、2015 年 4 月 1 日から施行する。

2 第 6 条第 1 項の規定の適用にあたって、同条中の収容定員については、次表に掲げる年度の数に読み替えるものとする。

年度	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	収容定員
2015 年度	90 人	120 人	120 人+15 人	120 人+15 人	480 人
2016 年度	90 人	90 人	120 人+15 人	120 人+15 人	450 人
2017 年度	90 人	90 人	90 人+15 人	120 人+15 人	420 人
2018 年度	90 人	90 人	90 人+15 人	90 人+15 人	390 人

附 則

この学則は、2016 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、2016 年 7 月 19 日から施行する。

附 則

この学則は、2016 年 12 月 5 日から施行し、2016 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

この学則は、2017 年 4 月 1 日から施行し、2017 年 2 月 17 日より適用する。

附 則

この学則は、2017 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

この学則は、2018 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、2019 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、2020 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、2021 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、2022 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、2023 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

1 この学則は、2024 年 4 月 1 日から施行する。

2 第 6 条第 1 項の規定の適用にあたって、同条中の入学定員及び収容定員については、次表に掲げる年度の数に読み替えるものとする。

人文学部 観光文化学科

年 度	入学定員	収容定員
2024 年度	90 人	90 人
2025 年度	90 人	180 人
2026 年度	90 人	270 人
2027 年度	90 人	360 人

人文学部 合計

年 度	入学定員	編入学定員 (3 年次)	収容定員
2024 年度	180 人	15 人	480 人
2025 年度	180 人	15 人	570 人
2026 年度	180 人	15 人	660 人
2027 年度	180 人	15 人	750 人

別表第1 英語コミュニケーション学科 授業科目および単位数

大学基幹科目

科目群	科目CD	授業科目の名称	ナンバリング	単位数			履修方法 卒業要件
				必修	選択	週時間	
必修	40001	キリスト教概論	CHR 200	2		2-0	
	40002	聖書における人間	CHR 201	2		2-0	
	40011	キリスト教平和学	CHR 309	2		2-0	
				必修	選択	単位	
				6		6	

大学共通科目

科目群	科目CD	授業科目の名称	ナンバリング	単位数			履修方法 卒業要件	必要取得 単位数
				必修	選択	週時間		
キリスト教	40003	英語聖書講読	CHR 225		2	2-0		1科目2単位 以上履修
	40010	キリスト教芸術	CHR 307		2	2-0		
情報 コミュニケーション	50228	コミュニケーション・スタディーズ	CMS 133		2	2-0		1科目2単位 以上履修
	50225	異文化コミュニケーション	CMS 134		2	2-0		
	50231	非暴力コミュニケーション技法	CMS 138		2	1-1		
	50226	多文化共生社会と異文化コミュニケーション	CMS 135		2	2-0		
	50101	教育心理	TTC 201		2	2-0		
	50052	比較文化	CMS 240		2	2-0		
	50229	身体表現ワークショップ	CMS 136		2	0-2		
	50230	パフォーマンス・スタディーズ	CMS 137		2	2-0		
	50227	コミュニケーションとしてのパフォーマンス	CMS 224		2	2-0		
	50208	コンピュータ演習	CMS 170		2	0-2		
オキナワ スタ	40053	うちなーぐち講座	OKS 130		2	2-0		1科目2単位 以上履修
	50061	Okinawan Studies	OKS 348		2	2-0		
	50147	沖縄の歴史と現在	OKS 240		2	2-0		
	50165	近代沖縄とアイデンティティ	OKS 363		2	2-0		
	50197	沖縄経済論	OKS 267		2	2-0		
第二外国語	40054	中国語Ⅰ	SLA 110		2	0-2		◆印の科目を1 科目2単位以上 履修
	40055	中国語Ⅱ	SLA 111		2	0-2		
	40056	韓国語Ⅰ	SLA 114		2	0-2		
	40057	韓国語Ⅱ	SLA 115		2	0-2		
	40058	スペイン語Ⅰ	SLA 118		2	0-2		
	40059	スペイン語Ⅱ	SLA 119		2	0-2		
Global Studies	50053	異文化理解	GLS 250		2	2-0		1科目2単位 以上履修
	50110	国際平和学	GLS 150		2	2-0		
	50257	海外ボランティア演習	GLS 155		2	0-2		
	40015	日本国憲法	GLS 144		2	2-0		
	40016	ジェンダー論	GLS 330		2	2-0		
	50218	ハワイアン・スタディーズ	GLS 255		2	2-0		
	50112	国際理解教育	TTC 322		2	2-0		
インターナショナル・ビジネス	40020	経済学	BUS 170		2	2-0		1科目2単位 以上履修
	50202	経営学	BUS 190		2	2-0		
	50198	観光学概論	BUS 180		2	2-0		
	50233	PCスキルとビジネス・マナー	BUS 270		2	0-2		
	50095	キャリア・ガイダンス	BUS 295		2	2-0		
	50089	マーケティング	BUS 371		2	2-0		
	50090	インターンシップ	BUS 460		2	0-2		
	50222	※インターンシップ（認定科目）	BUS 361		2			
	50258	沖縄の地域産業と地域づくり	BUS 381		2	0-2		
人間総合科学	50219	体育一般	SSS 275		2	1-1		1科目2単位 以上履修
	40027	生命の科学と倫理	SSS 280		2	2-0		
	40034	健康の科学	SSS 287		2	2-0		
	40026	死生学	SSS 380		2	2-0		
	40028	生活環境論	SSS 290		2	2-0		
	50223	人間学	SSS 151		2	2-0		
	50224	学校ボランティア実習	TTC 205		2	0-2		
	50098	自主研究	SSS 392		2			
	55501	教職の意義	TTC 101		2	2-0		
	50056	教育制度	TTC 202		2	2-0		
	55502	教育原理	TTC 102		2	2-0		
	40032	道徳教育	TTC 302		2	2-0		
				必修	選択	単位		
					102	102		

人文学部英語コミュニケーション学科

学科総合科目

科目群	科目CD	授業科目の名称	ナンバリング	単位数			履修方法 卒業要件	必要取得 単位数
				必修	選択	週時間		
学科必修	50253	フレッシュマン・セミナーⅠ	THE 130	1		0-2		10単位
	50254	フレッシュマン・セミナーⅡ	THE 131	1		0-2		
	50255	基礎ゼミナールⅠ	THE 230	1		0-2		
	50256	基礎ゼミナールⅡ	THE231	1		0-2		
	50180	卒業基礎研究Ⅰ	THE 390	1		0-1		
	50181	卒業基礎研究Ⅱ	THE 391	1		0-1		
	50096	卒業研究（演習）Ⅰ	THE 490	2		0-2		
	50097	卒業研究（演習）Ⅱ	THE 491	2		0-2		
				必修 10	選択	単位 10		

学科英語専門科目

科目群	科目CD	授業科目の名称	ナンバリング	単位数			履修方法	必要取得単位数		
				必修	選択	週時間				
English Communication	50211	English Communication I	◇ EOC 110		4	0-8	コア科目	◇段階的に履修すること		
	50212	English Communication II	◇ EOC 111		4	0-8				
	50213	English Communication III	◇ EOC 112		4	0-8				
	50214	English Communication IV	◇ EOC 213		4	0-8				
	50215	English Communication V	◇ EOC 214		4	0-8				
英語講読演習	50169	多読	◇ ERE 100		1	0-2		コア科目	◇段階的に履修すること	
	50241	英語講読演習 I	◇ ERE 110		2	0-4				
	50242	英語講読演習 II	◇ ERE 111		2	0-4				
	50243	英語講読演習 III	◇ ERE 112		2	0-4				
	50244	英語講読演習 IV	◇ ERE 213		2	0-4				
英文法・英作文	50247	英文法・英作文 I	◇ EWR 110		2	0-4			コア科目	◇段階的に履修すること
	50248	英文法・英作文 II	◇ EWR 111		2	0-4				
	50249	英文法・英作文 III	◇ EWR 112		2	0-4				
	50250	英文法・英作文 IV	◇ EWR 113		2	0-4				
	50251	English Composition I	◇ EWR 201		2	0-4				
	50252	English Composition II	◇ EWR 202		2	0-4				
Advanced Communication	50152	Accessing Digital Media I	AOC 222		2	0-2				上級科目
	50153	Accessing Digital Media II	AOC 223		2	0-2				
	50150	Public Speaking I	AOC 225		2	0-2				
	50151	Public Speaking II	AOC 226		2	0-2				
	50008	Discussion & Debate I	AOC 230		2	0-2				
	50009	Discussion & Debate II	AOC 231		2	0-2				
	50170	Advanced Communication I	AOC 317		2	0-2				
	50171	Advanced Communication II	AOC 318		2	0-2				
	50204	The Post-American World	AOC 321		2	0-2				
50205	British Cultural Studies	AOC 331		2	0-2					
Advanced Reading	50245	英語講読演習 V	ARE 214		2	0-4	上級科目	1科目2単位以上履修		
	50246	英語講読演習 VI	ARE 215		2	0-4				
	50014	Current Issues in English	ARE 220		2	0-2				
	50136	Current Issues Online	ARE 227		2	0-2				
高等英文法	50018	高等英文法	AWR 214		2	0-2		上級科目	1科目2単位以上履修	
	50144	Investigative Reporting	AWR 320		2	0-2				
	50021	Advanced Writing	AWR 322		2	0-2				
	50145	Creative Writing	AWR 370		2	0-2				
	50146	Visual Rhetoric	AWR 375		2	2-0				
				必修0	選択79	単位79				

学科応用科目

科目群	科目CD	授業科目の名称	ナンバリング	単位数			履修方法 卒業要件	必要取得 単位数
				必修	選択	週時間		
英語学	50025	英語音声学	ENG 110		2	2-0	1科目2単位以上履修	24単位
	50026	英語学概論 I	ENG 120		2	2-0		
	50182	社会言語学	ENG 135		2	2-0		
	50027	英語学概論 II	ENG 221		2	2-0		
	50184	教育英文法	ENG 230		2	2-0		
	50029	英語教育法	ENG 310		2	0-2		
英米文学	50034	英文学史	LIT 306		2	2-0	1科目2単位以上履修	
	50035	米文学史	LIT 308		2	2-0		
	50206	英国文学作品研究	LIT 311		2	2-0		
	50207	米国文学作品研究	LIT 321		2	2-0		
通訳・翻訳	50116	同時通訳 I	INT 250		2	0-2	1科目2単位以上履修	
	50117	同時通訳 II	INT 251		2	0-2		
	50178	同時通訳実践演習 I (Chapel Service)	INT 290		1	0-2		
	50179	同時通訳実践演習 II (Chapel Service)	INT 291		1	0-2		
	50148	通訳とプレゼンテーション	INT 302		2	0-2		
	50236	英日翻訳技法	INT 310		2	0-2		
	50237	映像翻訳	INT 311		2	0-2		
	50118	同時通訳初級 (夏期集中講座)	INT 360		2	1-2		
	50119	同時通訳上級 (夏期集中講座)	INT 404		2	1-2		
	50238	日英翻訳技法	INT 417		2	0-2		
50240	日英翻訳実践テクニック	INT 418		2	0-2			
国際関係	50062	国際関係論	GRE 250		2	2-0	1科目2単位以上履修	
	50156	Global Issues	GRE 360		2	2-0		
	50259	コミュニティデザインとしてのNGO・NPO	GRE 368		2	0-2		
	50105	海外研修 (国際交流)	GRE 153		2			
	50113	海外研修 (国際協力)	GRE 154		2			
	50106	海外研修 (多文化共生)	GRE 155		2			
50260	海外研修 (アジアボランティア)	GRE 156		2				
コミュニケーション	50234	メディア・スタディーズ	COM 225		2	2-0	1科目2単位以上履修	
	50235	メディア&パフォーマンス	COM 226		2	0-2		
	50040	異文化交渉演習	COM 337		2	0-2		
	50232	パフォーマンスと心理学	COM 338		2	2-0		
				必修 0	選択 62	単位 62		
				必修 16	選択 243	総単位 259		

履修方法 ・ 卒業要件

	区 分	必修		選択		計	
		科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数
1	大学基幹科目	3	6			3	6
2	大学共通科目			13	26	13	26
3	学科総合科目	8	10			8	10
4	学科英語専門科目			25	50	25	50
5	学科応用科目			12	24	12	24
6	自由科目			4	8	4	8
		11	16	54	108	65	124

註：本学を卒業するには、4年以上(8学期以上)在学し、124単位以上履修しなければならない。

(注：休学期間は、在学年限に算入しない)

◎学科英語専門科目の上位科目単位取得により必要単位取得数の50単位を満たせない場合は、学科応用科目における科目履修を可能とする。

◎自由科目8単位は大学共通科目および学科英語専門科目、学科応用科目から履修すること。

◎他学で履修した科目で、本学の授業科目にない科目については、自由科目とすることができる。
(編入学および単位互換による科目・留学等で修得した科目)

◎※印の科目は学外講座または寄附講座となっており、開講されない場合もある。

◎学科英語専門科目の「上級科目」については、1科目2単位を段階的に履修すること。

別表第2 大学基幹科目及び共通科目

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			履修方法	卒業要件 単位数
			必修	選択	週時間	講義	演習	実験・実習		
大学 基幹科目	キリスト教概論	1前	2		2-0	○				6単位
	聖書における人間	1後	2		2-0	○				
	キリスト教平和学	2後	2		2-0	○				
	小計（3科目）	—	6	0		—				
共通科目	キリスト教芸術	2・3・4後		2	2-0	○			観光文化学科 は、いずれか1 科目2単位履修	20単位
	体育一般	2・3前		2	2-0	○				
	健康運動ヨガ	2・3・4前		1	0-3			○		
	健康運動バスケノバレー	2・3・4前		1	0-3			○		
	琉球舞踊・音楽	2・3・4後		1	0-3			○		
	空手	2・3・4後		1	0-3			○		
	クリティカル・シンキング基礎	1後		2	2-0	○				
	コトバと論理	2前		2	2-0	○				
	言葉と思考	2後		2	2-0	○				
	コンピュータ基礎演習	1前		2	0-2		○			
	コンピュータ応用演習	1前		2	0-2		○			
	メディア・リテラシー	1後		2	2-0	○				
	データサイエンス入門	1後		2	2-0	○				
	数学入門	2後		2	0-2		○			
	国際平和学	1・2前		2	2-0	○				
	はじめてのジェンダー論	1・2前		2	2-0	○				
	SDGs概論	1・2前		2	2-0	○				
	異文化理解	2・3前		2	2-0	○				
	人間学	1後		2	2-0	○				
	はじめての手話	1後		2	0-2		○			
	日本国憲法	1・2後		2	2-0	○				
	琉球史入門	1・2後		2	2-0	○				
	教養教育としての経済知識	1・2後		2	2-0	○				
	教養教育としての経営知識	1・2後		2	2-0	○				
	PCスキルとビジネス・マナー	2前		2	0-2		○			
	心理学	2・3後		2	2-0	○				
	中国語Ⅰ	1・2前		2	0-2		○			
	中国語Ⅱ	1・2後		2	0-2		○			
	韓国語Ⅰ	1・2前		2	0-2		○			
	韓国語Ⅱ	1・2後		2	0-2		○			
	スペイン語Ⅰ	2前		2	0-2		○			
	スペイン語Ⅱ	2後		2	0-2		○			
	小計（32科目）	—	0	60		—				

別表第3 観光文化学科専門科目

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			履修方法	卒業要件 単位数	
				必修	選択	週時間	講義	演習	実験 ・実習			
学 科 総 合 科 目		フレッシュマン・セミナーⅠ	1前	2		0-2		○			16単位	
		フレッシュマン・セミナーⅡ	1後	2		0-2		○				
		基礎セミナーⅠ	2前	2		0-2		○				
		基礎セミナーⅡ	2後	2		0-2		○				
		卒業基礎研究Ⅰ	3前	2		0-2		○				
		卒業基礎研究Ⅱ	3後	2		0-2		○				
		卒業研究Ⅰ	4前	2		0-2		○				
		卒業研究Ⅱ	4後	2		0-2		○				
		小計（8科目）	—	16	0		—					
学 科 専 門 基 礎 科 目	語 学 科 目	Oral FluencyⅠ	1前	2	0-2		○		段階的に 履修	20単位	46単位	
		Oral FluencyⅡ	1前・後	2	0-2		○					
		Communication in BusinessⅠ	1前・1後・2前	2	0-2		○					
		Communication in BusinessⅡ	1後・2前・2後	2	0-2		○					
		Communication in BusinessⅢ	2前・後	2	0-2		○					
		Communication in BusinessⅣ	2後	2	0-2		○					
		Intensive EnglishⅠ	1前	2	0-2		○		段階的に 履修			
		Intensive EnglishⅡ	1前・後	2	0-2		○					
		Business Reading and WritingⅠ	1前・1後・2前	2	0-2		○					
		Business Reading and WritingⅡ	1後・2前・2後	2	0-2		○					
		Business Reading and WritingⅢ	2前・後	2	0-2		○					
		Business Reading and WritingⅣ	2後	2	0-2		○					
		TOEICⅠ	2前	2	0-2		○		段階的に 履修			
		TOEICⅡ	2前・後	2	0-2		○					
		TOEICⅢ	2後	2	0-2		○					
		中国語Ⅲ	2前	2	0-2		○		中国語Ⅲ・Ⅳ または 韓国語Ⅲ・Ⅳ のいずれか 2科目4単位 を履修			
		中国語Ⅳ	2後	2	0-2		○					
		韓国語Ⅲ	2前	2	0-2		○					
		韓国語Ⅳ	2後	2	0-2		○					
	観 光 文 化 科 目	歴史学概論	1前	2		2-0	○			22単位		
		観光学概論	1前	2		2-0	○					
		多文化共生社会	1前		2	2-0	○					
		SDGsと観光	1前		2	2-0	○					
		民俗学概論	1後	2		2-0	○					
		観光ビジネス入門	1後		2	2-0	○					
		経営学	1後		2	2-0	○					
		ホスピタリティと異文化理解	1後		2	2-0	○					
		文化資源保全入門	1後		2	2-0	○					
		統計分析入門	1後		2	2-0	○					
		琉球・沖縄歴史文化概論	2前	2		2-0	○					
		日本歴史文化概論	2前		2	2-0	○					
		アジア文化概論	2前		2	2-0	○					
		日本手話基礎	2前		2	0-2		○				
		マーケティング論	2前		2	2-0	○					
		インバウンド概論	2前		2	2-0	○					
		ツアーコンダクター論	2前		2	2-0	○					
島嶼地域学概論		2前		2	2-0	○						
	小計（37科目）	—	8	66		—						

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			履修方法	卒業要件 単位数	
				必修	選択	週時間	講義	演習	実験 ・実習			
学科専門 応用科目	語学 科目	Presentation in English	3・4後		2	0-2		○			2単位	
		Tourism English I	3・4前		2	0-2		○				
		Tourism English II	3・4後		2	0-2		○				
		Advanced Reading and Writing	3・4前		2	0-2		○				
		Advanced TOEIC	3・4前		2	0-2		○				
		ホスピタリティ中国語	3前		2	0-2		○				
		ホスピタリティ韓国語	3前		2	0-2		○				
	文化 資源 領域	自然環境論	2後	2	2	2-0	○		○		16単位	
		英米文化論	2後		2	2-0	○					
		中国文化論	2後		2	2-0	○					
		韓国文化論	2後		2	2-0	○					
		国際文化交流海外研修	2後			0-3						
		比較文化論	3前		2	2-0	○					
		琉球・沖縄歴史文化特論Ⅰ	3前		2	2-0	○					
		文化観光資源・施設論	3前		2	2-0	○					
		沖縄の移民研究	3前		2	2-0	○					
		世界遺産論	3後		2	2-0	○					
		琉球・沖縄歴史文化特論Ⅱ	3後		2	2-0	○					
		琉球諸語論	3後		2	2-0	○					
		琉球と朝鮮の関係史	3後		2	2-0	○					
		琉球と中国の関係史	3後		2	2-0	○					
		カルチャーツーリズム	4前		2	2-0	○					
		巡礼ツーリズム	4前		2	2-0	○					
	ホス ピタ リテ ィ 領 域	インターンシップ	2前・後		2	0-3			○		10単位	
		航空事業概論	2休	2	2-0	○		○				
		日本手話応用	2後	2	0-2			○				
		フードツーリズム	2後	2	2-0	○						
		エアラインサービス論	2休	2	2-0	○						
		キャリアデザイン	3前	2	0-2			○				
		観光情報サービス論	3前	2	2-0	○						
		ブライダルサービス論	3前	2	2-0	○						
		コンテンツツーリズム	3前	2	2-0	○						
		観光マーケティング	3後	2	0-2			○				
		ホテル経営論	3後	2	2-0	○						
		クルーズ産業論	3後	2	2-0	○						
		メディカルツーリズム	3後	2	2-0	○						
スポーツツーリズム		4前	2	2-0	○							
MICE論		4後	2	2-0	○							
持 続 可 能 領 域	地域ブランド論	2後		2	2-0	○				8単位		
	ユニバーサルデザイン論	2後		2	2-0	○						
	エコツーリズム	3前		2	2-0	○						
	観光統計分析	3前		2	0-2		○					
	島嶼地域観光振興事例研究	3後		2	0-2		○					
	観光サービス・イノベーション	3後		2	2-0	○						
	地域景観デザイン論	4前		2	2-0	○						
	運輸ビジネス論	4前		2	2-0	○						
	地域振興論	4後		2	2-0	○						
	観光産業危機管理論	4後		2	2-0	○						
小計（48科目）		—	2	94		—						
合計（93科目）			—	26	160		—				98単位	

別表第4 教職科目

	科目 CD	授業科目の名称	ナンバリング	単位数			履修方法
				必修	選択	週時間	
	55001	教職の意義	TTC 101	2		2-0	中免必修
	55002	教育原理	TTC 102	2		2-0	
	55003	教育心理	TTC 201	2		2-0	
	55004	教育の制度 (=教育制度)	TTC 202	2		2-0	
	55033	特別支援教育概論	TTC 206	2		2-0	
	55030	生徒・進路指導論	TTC 204	2		2-0	
	55024	国際理解教育	TTC 322	2		2-0	
	55034	教育相談の理論と方法	TTC 306	2		2-0	
	55035	教育方法・教育課程	TTC 305	2		2-0	
	55037	教育におけるICT活用	TTC 207	1		0-1	
	55031	道德教育の理論と方法 (=道德教育)	TTC 302		2	2-0	
	55036	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	TTC 304	2		2-0	
	55025	英語科教育法 I (=英語教育法)	TTC 310	2		0-2	
	55026	英語科教育法 II	TTC 311	2		0-2	
	55027	英語科教育法演習 I	TTC 312	2		0-4	
	55015	介護等体験	TTC 320		2	1-3	中免必修
	55021	教育総合研究	TTC 321		2	2-0	
	55020	教育実習事前事後研究	TTC 401	1		0-2	中免必修・高免選択 高免のみ
	55018	教育実習 (中学)	TTC 402		4		
	55019	教育実習 (高校)	TTC 403		2		
	55023	教職実践演習 (中高)	TTC 404	2		0-2	
	55028	英語科教育法演習 II	TTC 410	2		0-2	
				32	12		

◎教職科目は英語コミュニケーション学科において履修可能であり、教職科目を一部履修した後に、教員免許状取得を取りやめた場合：履修済みの教職科目は、自由科目（8単位内）として、卒業単位に算入することができる。

学則の変更の趣旨等を記載した書類

目 次

1. 学則変更（収容定員変更）の内容	2
2. 学則変更（収容定員変更）の必要性	2
3. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容	4

1. 学則変更（収容定員変更）の内容

沖縄キリスト教学院大学人文学部は、2024 年度から観光文化学科（入学定員：90 名）開設に伴い収容定員を次のとおり変更する。【資料 1】

〔変更前〕

学部	学科	入学定員	編入学定員 (3 年次)	収容定員
人文学部	英語コミュニケーション学科	90 人	15 人	390 人
計		90 人	15 人	390 人

〔変更後〕

学部	学科	入学定員	編入学定員 (3 年次)	収容定員
人文学部	英語コミュニケーション学科	90 人	15 人	390 人
	観光文化学科	<u>90 人</u>	<u>—</u>	<u>360 人</u>
計		<u>180 人</u>	<u>15 人</u>	<u>750 人</u>

2. 学則変更（収容定員変更）の必要性

（1）収容定員変更の背景

学校法人沖縄キリスト教学院（以下、「本学院」という）は、仲里朝章牧師を中心とする沖縄キリスト教団（現、日本キリスト教団沖縄教区）の指導者達によって、太平洋戦争下での皇民化教育への反省と沖縄再建の強い願いからプロテスタント福音主義に則るキリスト教精神を土台に沖縄を国際的平和の島にしてゆく人材の育成を目指し、1957 年に建学された。

本学院のキリスト教精神とは、聖書が証するイエス・キリストの十字架のあがないにより人類に示された和解と平和（エフェソ 2：15～16）に基づき、他民族と異文化の理解を深め、他者へ仕え、少数者の人権を尊重するものである。それゆえ本学院はこの精神に立脚しつつ、過去には凄惨な地上戦を体験し、現在も軍事基地を抱える沖縄から世界へ平和を訴え発信してゆく「平和を実現する人」（マタイ 5：9）と、キリストの謙遜さに倣い、隣人へ奉仕する（マタイ 20：28）人材の育成を教育の使命としている。

本学院では、1959 年に短期大学が認可され、現在、英語科及び保育科の学科を設置している。2004 年には大学設置が認可され、人文学部を設置している。

近年、併設短期大学英语科（以下、「英語科」という）の入学者確保に苦心するなか、英語科では英語の学びを中心としながら、沖縄県の主軸産業である観光をビジネス関連科目として取り上げ教授することにより、一定程度の教育課程の構築や学生からの評価を受け始めていた。しかしながら、新型コロナウイルスの影響により観光立県の沖縄県では観光業へのイメージが下がり、英語科の入学者確保へも大きく影響した。

定員充足の改善に向けて検討するなかで、以下の視点が挙げられた。

①平和産業である観光分野の人材育成に本学の建学の精神に基づいて取り組む意義

- ②新型コロナウイルス（以下、「新型コロナ」という）の影響による観光業界の人材離れと観光産業回復における人材不足
- ③沖縄県内観光業における県出身中核人材の不足と高度な人材育成
- ④今後の短期大学の需要

特に、短期大学における学生の確保の見通しとしては、全国において 2020 年度の 18 歳人口における進学率 83.5%のうち短期大学進学率は 4.2%と低調になっており、入学定員充足率の推移も減少傾向で 2021 年度は入学定員未充足校の割合が 8 割を超えている。沖縄県においても例外ではなく、短期大学への進学率は低い傾向にある。【資料 2】

これらを踏まえて、短期大学の 2 年間ではなく、アカデミックな教育を教授する四年制大学における人材育成が必要と考え、英語科の英語教育と観光をビジネス関連科目とした教育課程を基にしながら沖縄キリスト教学院大学人文学部の観光文化学科設置を構想し収容定員の変更に至っている。なお、英語科については、2024 年度より募集停止のうえ廃止を予定している。

（2）人文学部観光文化学科設置の趣旨および必要性

本学が所在する沖縄県は、美しい海や豊かな自然環境、複数の世界遺産を有する国際的な観光立県である。2018 年、沖縄県の入域観光客(インバウンド含む)が、初の 1,000 万人台を突破して 1,016 万 3,900 人という過去最高を記録したことを受け、これからの沖縄県にとって、観光が今まで以上に重要性を深めていくものと推察された。その後、新型コロナの影響で、観光全般に落ち込みが見られたものの、行動制限がなくなった 2022 年後期には、新型コロナ前の水準近くまで戻ってきていることから、今後さらなる観光関連需要の発展が期待されている。

今後、沖縄県に限らず全国で急増していくと推測される観光需要に対して、量・質ともに地域社会に貢献していく人材を確保していくためには、観光・文化の専門的な知識を理解し、観光に関する多様な課題を積極的に解決できる人材の育成が急務である。しかし、沖縄県内には、観光の知識を専門的に習得することを目的とした学科を有する大学は、北部地域に公立大学が 1 大学、人口が集中している中・南部地域の国立大学 1 大学に観光地域デザインプログラムコースを設けるのみに留まっており、私立大学においては皆無である。沖縄県における観光人材不足や、中・南部地域において、観光・文化を学べる高等教育機関の充実を図るうえで、私立大学である沖縄キリスト教学院大学の観光文化学科の設置には意義があり、地域的な必要性も兼ね備えている。

沖縄県が 2022 年 7 月に策定した「第 6 次沖縄県観光振興基本計画」は、沖縄県が持つソフトパワーを生かした付加価値の高いツーリズムを最大限発揮することによって、「世界から選ばれる持続可能な観光地」の実現を目指すことを計画の意義として定めており、観光庁が 2023 年 3 月に新たに策定を予定する「観光立国推進基本計画」では、地域が一丸となって個性あふれる観光地域を作り上げ、その魅力を自ら積極的に発信していくことで高付加価値旅行者の拡大を図り、自然・文化を保全しつつ活気にあふれた持続可能な観光地域づくりの推進を提唱している。

観光文化学科が養成する人材像は、沖縄県や国が着目している「地域」が持つソフトパワーを見出し、持続可能な観光を基軸とした文化振興や地域振興に、積極的に貢献できる人材である。沖縄県、及び、観光庁が着目している「地域」が持つソフトパワー（自然・歴史・文化）・持続可能な観光地・付加価値の高いツーリズムなどの趣旨は、本学の観光文化学科が目指している、

文化資源および観光資源のソフトパワーの価値を見出し、多様化するグローバル社会において国内外へ発信して文化振興及び観光振興に積極的に貢献できる人材像と同調していることから、社会的な必要性も合致している。

本学地域における人材需要の見通しにおいては、沖縄観光を強力に推進する一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー、および、本学が立地する西原町地域等から、観光文化学科の設置によって新たな地域資源の活用の創出や、観光振興・文化振興の発展に寄与する人材育成について期待が寄せられており、関係団体等から本学科設置の「要望書」を受領していることから、地域的な必要性も認められる。これらの要望書は、学生の確保の見通しの資料編に添付している。

【資料 3】

3. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

（1）教育課程の変更内容

本学では、これまで人文学部英語コミュニケーション学科の一学部一学科で運営しており、英語コミュニケーション学科では、建学の精神に基づく重要な位置づけの必修科目区分となる大学基幹科目、教養教育にあたる大学共通科目区分、そして、専門科目区分として学科総合科目、学科英語専門科目、学科応用科目で構成している。

この既設学科の教育課程をもとに、観光文化学科の設置届出による一学部二学科体制では、大学基幹科目をこれまでと同様に必修科目として設け、教養教育については、「共通科目」として既設の大学共通科目の内容を再編し、両学科より履修可能な区分として設置する。共通科目では、1年次において、「コンピュータ演習」「メディアリテラシー」「データサイエンス」など、グローバル社会で生じる広範な情報リテラシーの技能を身に付ける基本技能科目を配置し、2年次以降は、芸術、心理学、歴史、体育、美術、音楽、経済などを学ぶ、現代教養科目で構成している。

なお、科目・クラス数は、両学科の卒業要件、配当年次、収容定員を考慮した数量を確保しており、さらに、既設学科の在学生のニーズとなる多様な科目提供へ応えられる再編となっていることから、既設学科に影響を与えることはなく、従前と同等以上の内容と水準を担保している。

また、専門教育は学科ごとに編成し、観光文化学科の専門科目区分としては学科総合科目、学科専門基礎科目、学科専門応用科目で構成し、このうち、学科専門基礎科目は、語学科目と観光文化科目の2つの科目区分から編成され、学科専門応用科目は、語学科目および3つの専門領域（文化資源領域・ホスピタリティ領域・持続可能領域）で構成している。専門教育では、本学科の特色であるソフトパワー（観光、文化、歴史）を多角的な視点で学び、観光を文化的な側面から捉えた観光学を効果的に修得するため、文化資源領域、ホスピタリティ領域、持続可能領域の3つの研究領域分野からアプローチした独創的かつ実践的な教育課程を設定している。

（2）教育方法及び履修指導方法の変更内容

1) 教育方法

本学では、講義科目は、座学が中心になることから基本的にクラス定員は45～50人で設定しており、演習科目は、学生同士の意見交換や発表等の演習による共同作業を考慮して、基本

的にクラス定員は 30～35 人で設定している。

前述のとおり、人文学部の一学部二学科体制においては、必修科目の大学基幹科目と教養教育の共通科目を両学科より履修することになるが、大学基幹科目については、観光文化学科分のクラスの増設で対応するため既設学科に影響はない。また、共通科目では、選択必修科目となる「中国語Ⅰ・Ⅱ」または「韓国語Ⅰ・Ⅱ」、そして「コンピュータ基礎演習」または「コンピュータ応用演習」についてもクラスの増設で対応するため、既設学科に影響はない。それ以外の共通科目については基本的に 1 クラス体制とするが、28 科目を配置しており、共通科目の卒業要件 20 単位のうち選択必修科目の 5 科目 10 単位を除く残り 10 単位の履修に対して、1～2 年次の 2 年間における履修では十分な科目数配置であり、既設学科及び観光文化学科の履修上に支障はない。

観光文化学科の専門教育では、一部、1 年次配当の学科専門基礎科目区分において講義形式の必修科目で 90 人定員のクラスを設けているが、120 人程度収容の教室で実施するため問題はない。

また、学科総合科目では、1 年次の「フレッシュマン・セミナー」で社会人の基礎知識・スキルを学び、2 年次では、「基礎セミナー」で主体的に考える力や自己理解力を養い、3 年次の「卒業基礎研究」で課題対応力を身につけ、最終学年 4 年次の「卒業研究」では、大学生活の集大成として卒業論文等の執筆や発表に取り組む。「卒業基礎研究」及び「卒業研究」は、卒業論文等の執筆や発表に向けてゼミ単位で進め、卒業研究における指導等を充実させて教育効果の向上を図るため、クラス定員を 10 人程度の少人数教育により実施し、観光文化学科の専任教員が担当する。

全学年を対象とした学科総合科目、観光文化学科の専門基礎知識を修得する学科専門基礎科目、観光・文化の高度な専門的知識を修得する学科専門応用科目については、主に観光文化学科に所属する専任教員や兼任教員を新たに配置するため、既設学科に与える影響はない。一部既設学科からの兼任教員の配置はあるが、兼任教員の所属学科における担当科目数と調整のうえ、影響のない範囲で配置している。

2) 履修指導

本学では、アドバイザーグループ制度を設けており、学生に対して入学と同時に所属する学科の専任教員をアドバイザー教員として配置し、履修指導や学生生活、就学、進路等の相談が可能な体制を組んでいる。

まずは入学時のオリエンテーションにおいて、学科の教育理念や教育課程の体系性についてカリキュラム・ツリーやカリキュラム・マップ等を活用しながら説明し、実際にアドバイザーのサポートを受けながら 1 年次前期の履修登録を行う。履修登録の際にはシラバスや学務システムの活用方法についても併せて説明する。また、学生生活において必要な事項をまとめた「学生便覧」を配付しており、カリキュラムや卒業要件、カリキュラム・マップ、履修モデル、出席・欠席の取扱い、成績評価等の履修の手引を記載することで、入学後に学生が適宜確認できる冊子となっている。

学生生活開始後は、以下の方法や体制により履修のサポートや指導を行っている。

①学務システム

学務システムの導入により、Web 上で履修登録、成績、修学ポートフォリオ、シラバス、出欠状況等を確認することができ、学生が適宜活用しており、アドバイザー教員との相談時にはシステム上の掲載内容を確認しながら指導を行っている。

②シラバス

学務システムの Web 上でシラバスを公開しており、学生は事前に授業内容を確認したうえで履修計画を立てることができる。シラバスでは、授業のテーマ及び到達目標、授業の概要、授業計画、授業における具体的な特色や方法、テキスト・参考書、評価方法・評価基準、卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連、履修上の注意、オフィスアワー、課題に対するフィードバック方法を確認することができる。

③オフィスアワー

学生のアカデミックライフの資質向上を目標としてオフィスアワーを設定しており、学生個人がアドバイザー教員や各授業の担当教員に相談ができる時間となっている。各教員の設定時間帯はシラバスや学内掲示板で公開している。

④成績不振学生への履修指導

次項で述べる GPA 値が 1.50 未満の学生に対しては、各学期開始に合わせてアドバイザー教員の面談を実施し、履修指導を実施している。

⑤教務課窓口における履修指導

学務関連業務を担当する教務課窓口において、履修方法や卒業要件確認など履修に係る内容について随時履修指導している。

これらの履修指導方法・体制について観光文化学科においても準用するが、配付物やシステムについては観光文化学科用を追加で用意し、アドバイザー教員については観光文化学科の専任教員を割り当てるため、既設学科への影響はない。また、学務関連業務の窓口においても対応可能な人員を配置している。

(3) 教員組織の変更内容

観光文化学科の設置に伴い、人文学部は、一学部一学科から、一学部二学科構成となる。

これまで、人文学部は既設の英語コミュニケーション学科の一学科のみで、2023 年度における教員編成は、16 人（教授 8 人、准教授 5 人、講師 3 人）となっており、大学設置基準上必要な教員数 16 人（うち教授は 8 人以上）を満たしている。専任教員 1 人当たりの学生数（S/T 比）は、収容定員に対しては 24.4 人（ $390 \div 16$ ）になる。

観光文化学科の教員編成は、既設の英語コミュニケーション学科から教員 2 人（教授 1 人、准教授 1 人）の観光文化学科への異動と、併設の短期大学の英語科（2024 年度募集停止）から教員 2 人（教授 1 人、准教授 1 人）の採用、及び新規採用 6 名（教授 1 人、准教授 3 人、講師 1 人、助教 1 人）の計 10 人の教員編成（教授 3 人、准教授 5 人、講師 1 人、助教 1 人）となる。一方、既設の英語コミュニケーション学科の教員編成は、観光文化学科設置に伴い、併設の短期大学の

英語科から教員 4 人（教授 3 人、准教授 1 人）を採用し、2023 年度末で任期満了となる退職者 3 人（講師 3 人）と観光文化学科への異動 2 人（教授 1 人、准教授 1 人）により、合わせて、計 15 名の教員編成（教授 10 人、准教授 5 人）となる。人文学部全体（＝大学全体）で 25 人の教員編成（教授 13 人、准教授 10 人、講師 1 人、助教 1 人）となり、大学設置基準上必要な教員数 24 人（うち教授は 12 人以上）を満たしている。

2023 年度の専任教員数（変更前）

学部・学科		専任教員					学部の種類及び規模に応じ定める専任教員数	
		教授	准教授	講師	助教	合計	教員数	教授数
人文学部	英語コミュニケーション学科	8	5	3	0	16	10	5
大学全体の収容定員に応じ定める専任教員数		—	—	—	—	—	6	3
合計		8	5	3	0	16	16	8

2024 年度観光文化学科設置時の専任教員数（変更後）

学部・学科		専任教員					学部の種類及び規模に応じ定める専任教員数	
		教授	准教授	講師	助教	合計	教員数	教授数
人文学部	英語コミュニケーション学科	10	5	0	0	15	6	3
	観光文化学科	3	5	1	1	10	6	3
大学全体の収容定員に応じ定める専任教員数		—	—	—	—	—	12	6
合計		13	10	1	1	25	24	12

S/T 比は、観光文化学科の完成年度においては収容定員に対し、英語コミュニケーション学科は 26 人（ $390 \div 15$ ）、観光文化学科は 36 人（ $360 \div 10$ ）となる。

英語コミュニケーション学科においては、S/T 比が若干増加するものの、教授の数が 2 名増加することで教育力が向上することや、併設短期大学の英語科から採用する教員 4 人の内 3 人（教授 2 人、准教授 1 人）が、英語コミュニケーション学科の教育の柱である英語教育が専門であることから教育体制が強化される。

既設学科の教育課程をもとに、教養教育については「共通科目」として既設の大学共通科目の内容を再編し、両学科より履修可能な区分として設置するが、選択必修科目におけるクラス増設の対応や新規科目については専任教員または兼任教員を新たに配置するため、教育研究上の支障がなく、変更前と同等の水準を担保できる。

（４）大学全体の施設・設備の変更内容

今回の収容定員増（360 人）は、同一キャンパスで施設を共有する、併設の短期大学の英語科（収容定員 200 人）の廃止を前提としており、短期大学保育科を合わせた全体の収容定員は 950 人（実質 160 人増）となる。

校地面積は、併設の短期大学と併せて 13,216.22 m²、校舎面積は 12,052.11 m²あり、校舎は、併設の短期大学保育科専用教室及び実習室等を除く、講義室、演習室、情報処理学習施設等の 35 教室、教室収容定員数 1,804 人を整備している。

観光文化学科の授業形態は、基本的に講義及び演習が中心となっており、特別な施設・設備等を必要とする授業は行われず、少人数クラス対応を含む授業の規模に応じた教室をすでに有していることから、新規の施設・設備の設置を要しない。また、観光文化学科設置に伴い必要となる教室収容定員数については、稼働率 60%とした場合 1,082 人であり、英語コミュニケーション学科及び併設短期大学保育科の収容定員（390+200=590）を引いた 492 人が観光文化学科に割当て可能な収容定員数となる。この 492 人に対し、観光文化学科の収容定員数は 360 人であり、十分に余裕をもった教室運営が可能である。【資料 4】

また 2022 年度前期・後期における、教室平均稼働率は、前期 27.08%、後期 23.60%、曜日ごとにおいても概ね 20%台となっており【資料 4】、時間割編成においても観光文化学科が新設された場合でも十分に教室確保が可能である。【資料 5】

現有の校地面積、校舎面積は、大学設置基準を満たしており、また図書館、体育館、運動場、空地等、必要な施設等は整備されており、今後も維持整備していくことから、収容定員増を行っても、教育上の支障は生じず、既設の学科にも影響はない。

図書館の面積は、1,271.06 m²、収納可能冊数は 166,667 冊であり、現在 97,634 冊の蔵書、学術雑誌 51 種、キリスト教関連図書、各学科の専門的な図書を有し、その他視聴覚資料 3,583 点を保有している。観光文化学科に係る専門図書・学術雑誌等は、既存の蔵書 15,856 冊、学術雑誌 8 種、その他電子ジャーナルと視聴覚資料等約 350 点に加え、専門図書を新たに 1,460 冊整備することを予定している。蔵書は合計で 17,316 冊となる予定であり十分である。

図書館の閲覧座席数は 166 席設置され（収容定員の約 22%）、閲覧室内の空間を利用し座席配置し、グループ学習のできるグループ学習室・自習室を設置し学習環境を整備している。図書館利用者への支援は、司書資格を持った専門職員を窓口配置しサービスを行っており、レファレンスサービスにも対応している。新型コロナウイルスの影響を受ける前の 2019 年度の一日あたりの平均入館者数は 150 人であり、開館時間内（9 時～19 時）で分散して利用することを考慮すれば、収容定員増を行っても図書館の利用に支障は生じず、既存の施設で十分対応可能である。

また、図書館をはじめ、教室（29 教室）やラーニングコモンズ、学生自習室等には、無線 LAN（Wi-Fi）環境を整えており、図書館内の情報検索端末だけでなく、学生自身のパソコンやスマートフォンにより、蔵書検索や電子ジャーナル等の利用が可能であり、図書館が提供する情報検索サービスの利用の点についても、収容定員増に十分対応可能である。

教員の研究室については、英語コミュニケーション学科においては、教員 15 人に対し同数の研究室が既に確保されている。また、観光文化学科においては、新規採用する教員 6 人の研究室

も、既にある空室や退職する教員による空室となる研究室を改装し整備することで賄えることができ、その他異動の4人についても既に確保されていることから教員の研究環境に支障はない。

事務組織についても、観光文化学科の設置に合わせて若干名の採用を計画しており収容定員増にも十分対応可能である。

以上のように、本学の校地・校舎、施設・設備については、観光文化学科の設置に伴い特に変更はないが、すべて大学設置基準を満たしており、教員の研究環境も確保できることから、施設設備に不足はなく、変更前の内容と比較して、同等以上の内容と水準を担保できる。また事務組織にも余力があることから、同一キャンパス内の併設短期大学の英語科を廃止することも考慮すれば、今回の収容定員増を行っても特に影響はない。

学則の変更の趣旨等を記載した書類

資 料 目 次

資料 1	観光文化学科の教育課程等の概要	2
資料 2	短期大学の進学動向	5
資料 3	地方公共団体、関係団体からの要望	7
資料 4	教室収容定員・稼働率	8
資料 5	完成年度（2027 年度）における時間割	10

資料 1 観光文化学科の教育課程等の概要

別記様式第2号（その2の1）

（用紙 日本産業規格A4縦型）

教 育 課 程 等 の 概 要														
(人文学部観光文化学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
大学 基幹 科目	キリスト教概論	1前	2			○								兼1
	聖書における人間	1後	2			○								兼1
	キリスト教平和学	2後	2			○			1					兼1
	小計（3科目）	—	6	0	0	—			1	0	0	0	0	兼1
共通 科目	キリスト教芸術	2・3・4後		2		○								兼2
	体育一般	2・3前		2		○								兼1
	健康運動ヨガ	2・3・4前		1				○						兼1
	健康運動バスケット／パレー	2・3・4前		1				○						兼1
	琉球舞踊・音楽	2・3・4後		1				○						兼2
	空手	2・3・4後		1				○						兼1
	クリティカル・シンキング基礎	1後		2		○								兼1
	コトバと論理	2前		2		○								兼1
	言葉と思考	2後		2		○								兼1
	コンピュータ基礎演習	1前		2			○							兼2
	コンピュータ応用演習	1前		2			○							兼2
	メディア・リテラシー	1後		2		○								兼1
	データサイエンス入門	1後		2		○								兼1
	数学入門	2後		2			○							兼1
	国際平和学	1・2前		2		○								兼1
	はじめてのジェンダー論	1・2前		2		○								兼1
	SDGs概論	1・2前		2		○								兼1
	異文化理解	2・3前		2		○								兼1
	人間学	1後		2		○								兼1
	はじめての手話	1後		2			○							兼1
	日本国憲法	1・2後		2		○								兼1
	琉球史入門	1・2後		2		○			1					
	教養教育としての経済知識	1・2後		2		○								兼1
	教養教育としての経営知識	1・2後		2		○								兼1
	PCスキルとビジネス・マナー	2前		2			○							兼1
	心理学	2・3後		2		○								兼1
	中国語Ⅰ	1・2前		2			○		1					兼1
	中国語Ⅱ	1・2後		2			○		1					兼1
	韓国語Ⅰ	1・2前		2			○				1			兼1
	韓国語Ⅱ	1・2後		2			○				1			兼1
	スペイン語Ⅰ	2前		2			○							兼1
	スペイン語Ⅱ	2後		2			○							兼1
	小計（32科目）	—	0	60	0	—			0	2	1	0	0	兼21
学科 総合 科目	フレッシュマン・セミナーⅠ	1前	2				○			2		1		
	フレッシュマン・セミナーⅡ	1後	2				○		1	2				
	基礎セミナーⅠ	2前	2				○		1	1	1			
	基礎セミナーⅡ	2後	2				○		2	5	1	1		
	卒業基礎研究Ⅰ	3前	2				○		2	5	1	1		
	卒業基礎研究Ⅱ	3後	2				○		2	5	1	1		
	卒業研究Ⅰ	4前	2				○		2	5	1	1		
	卒業研究Ⅱ	4後	2				○		2	5	1	1		
	小計（8科目）	—	16	0	0	—			2	5	1	1	0	0

教 育 課 程 等 の 概 要

(人文学部観光文化学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
学科専門 基礎科目	Oral Fluency I	1前		2			○			1				兼1
	Oral Fluency II	1前・後		2			○							
	Communication in Business I	1前・1後・2前		2			○			1				兼1
	Communication in Business II	1後・2前・2後		2			○			1				兼1
	Communication in Business III	2前・後		2			○			1				兼1
	Communication in Business IV	2後		2			○							兼1
	Intensive English I	1前		2			○					1		兼1
	Intensive English II	1前・後		2			○							
	Business Reading and Writing I	1前・1後・2前		2			○					1		兼1
	Business Reading and Writing II	1後・2前・2後		2			○					1		兼1
	Business Reading and Writing III	2前・後		2			○							兼1
	Business Reading and Writing IV	2後		2			○					1		兼1
	TOEIC I	2前		2			○			1				
	TOEIC II	2前・後		2			○							兼1
	TOEIC III	2後		2			○			1		1		
	中国語Ⅲ	2前		2			○			1				兼1
	中国語Ⅳ	2後		2			○			1				
	韓国語Ⅲ	2前		2			○				1			兼1
	韓国語Ⅳ	2後		2			○				1			
	歴史学概論	1前	2			○				1				兼1
	観光学概論	1前	2			○								
	多文化共生社会	1前		2		○				1				兼1
	SDGsと観光	1前		2		○								
	民俗学概論	1後	2			○				1				兼1
	観光ビジネス入門	1後		2		○				1				
	経営学	1後		2		○				1				兼1
	ホスピタリティと異文化理解	1後		2		○					1			
	文化資源保全入門	1後		2		○					1			兼1
	統計分析入門	1後		2		○								
	琉球・沖縄歴史文化概論	2前	2			○					1			兼1
	日本歴史文化概論	2前		2		○					1			
	アジア文化概論	2前		2		○								兼1
	日本手話基礎	2前		2			○							兼1
	マーケティング論	2前		2		○				1				兼1
	インバウンド概論	2前		2		○								
	ツアーコンダクター論	2前		2		○				1				兼1
	島嶼地域学概論	2前		2		○				1				
	小計 (37科目)	—	8	66	0	—	—	—	2	5	1	1	0	兼11
語学 科目	Presentation in English	3・4後		2			○							兼1
	Tourism English I	3・4前		2			○		1					兼1
	Tourism English II	3・4後		2			○		1					
	Advanced Reading and Writing	3・4前		2			○							兼1
	Advanced TOEIC	3・4前		2			○			1				
	ホスピタリティ中国語	3前		2			○							兼1
	ホスピタリティ韓国語	3前		2			○							兼1

教 育 課 程 等 の 概 要																		
(人文学部観光文化学科)																		
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
学科専門応用科目	文化資源領域	自然環境論	2後		2		○									兼1	集中・共同 集中 オムニバス	
		英米文化論	2後		2		○									兼1		
		中国文化論	2後		2		○					1						
		韓国文化論	2後		2		○					1						
		国際文化交流海外研修	2後	2					○	2	2	1	1					
		比較文化論	3前		2		○									兼1		
		琉球・沖縄歴史文化特論Ⅰ	3前		2		○				1							
		文化観光資源・施設論	3前		2		○									兼1		
		沖縄の移民研究	3前		2		○									兼1		
		世界遺産論	3後		2		○				1							
		琉球・沖縄歴史文化特論Ⅱ	3後		2		○									兼2		
		琉球諸語論	3後		2		○									兼1		
		琉球と朝鮮の関係史	3後		2		○					1						
		琉球と中国の関係史	3後		2		○				1							
		カルチャーツーリズム	4前		2		○					1						
	巡礼ツーリズム	4前		2		○					1							
	ホスピタリティ領域	インターンシップ	2前・後		2				○	1	1						兼1	集中 集中
		航空事業概論	2休		2		○										兼1	
		日本手話応用	2後		2			○										
		フードツーリズム	2後		2		○				1							
		エアラインサービス論	2休		2		○									兼1		
		キャリアデザイン	3前		2			○			1							
		観光情報サービス論	3前		2		○									兼1		
		ブライダルサービス論	3前		2		○									兼1		
		コンテンツツーリズム	3前		2		○				1							
		観光マーケティング	3後		2			○			1							
		ホテル経営論	3後		2		○			1								
		クルーズ産業論	3後		2		○				1							
	メディカルツーリズム	3後		2		○				1								
	スポーツツーリズム	4前		2		○				1								
	MICE論	4後		2		○									兼1			
	持続可能領域	地域ブランド論	2後		2		○				1						兼1	
		ユニバーサルデザイン論	2後		2		○											
エコツーリズム		3前		2		○				1								
観光統計分析		3前		2			○								兼1			
島嶼地域観光振興事例研究		3後		2			○		1									
観光サービス・イノベーション		3後		2		○									兼1			
地域景観デザイン論		4前		2		○									兼1			
運輸ビジネス論		4前		2		○	</											

出典：文部科学省「これからの時代の地域における大学の在り方について－地方の活性化と地域の中核となる大学の実現－」（審議まとめ）参考資料集



入学定員充足率

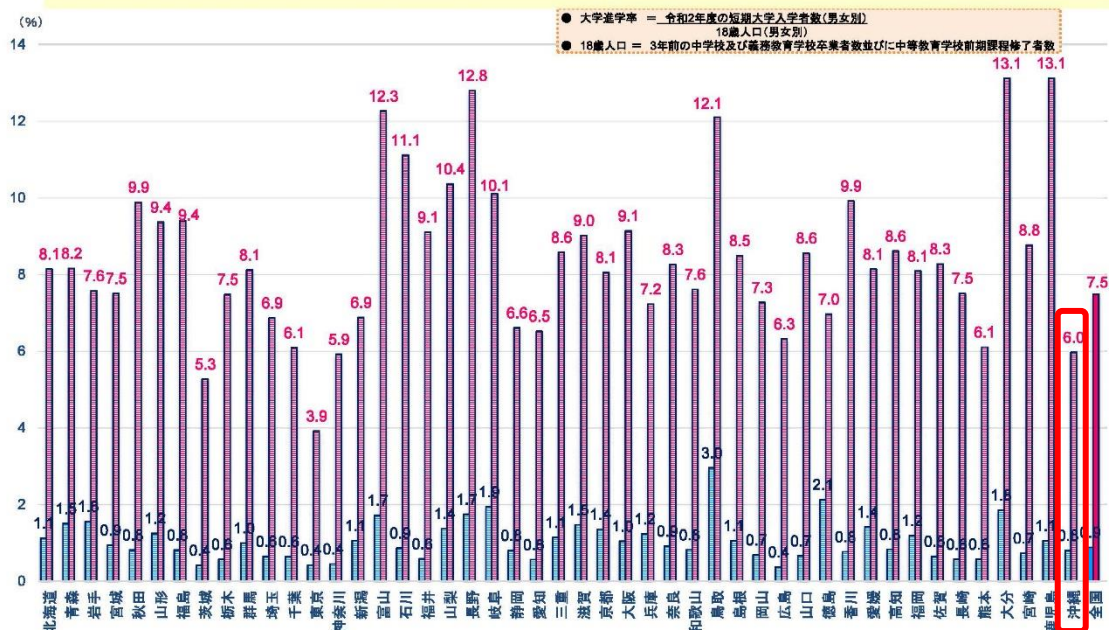
■100%以上の学校数 ■90%~100%の学校数 ■80%~90%の学校数 ■50%~80%の学校数 ■50%未満の学校数

区分	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
短期大学数	460	449	435	416	400	383	373	365	360	356	344	338	330	324	320	315	311	304	301	297	291	285
入学定員未充足校	267	245	209	190	164	159	194	227	242	245	215	225	230	198	207	192	208	204	212	228	215	232
割合	58.0%	54.6%	48.0%	45.7%	41.0%	41.5%	52.0%	62.2%	67.2%	68.8%	62.5%	66.6%	69.7%	61.1%	64.7%	61.0%	66.9%	67.1%	70.4%	76.8%	73.9%	83.6%
充足率80%以上校	309	297	303	305	315	303	275	253	226	202	232	234	209	239	227	225	219	209	193	179	190	147
割合	67.2%	66.1%	69.7%	73.3%	78.8%	79.1%	73.7%	69.3%	62.8%	56.7%	67.4%	69.2%	63.3%	73.8%	70.9%	71.4%	70.4%	68.8%	64.1%	60.3%	65.3%	49.3%

24

男女別・都道府県別短期大学進学率

短期大学進学率を男女別にみると、全都道府県で女性が男性を上回っており、全国的には女性が7.5%、男性が0.9%となっている。女性の短期大学進学率は、①鹿児島県（13.1%）、②大分県（13.1%）、③長野県（12.8%）の順に高くなっている。

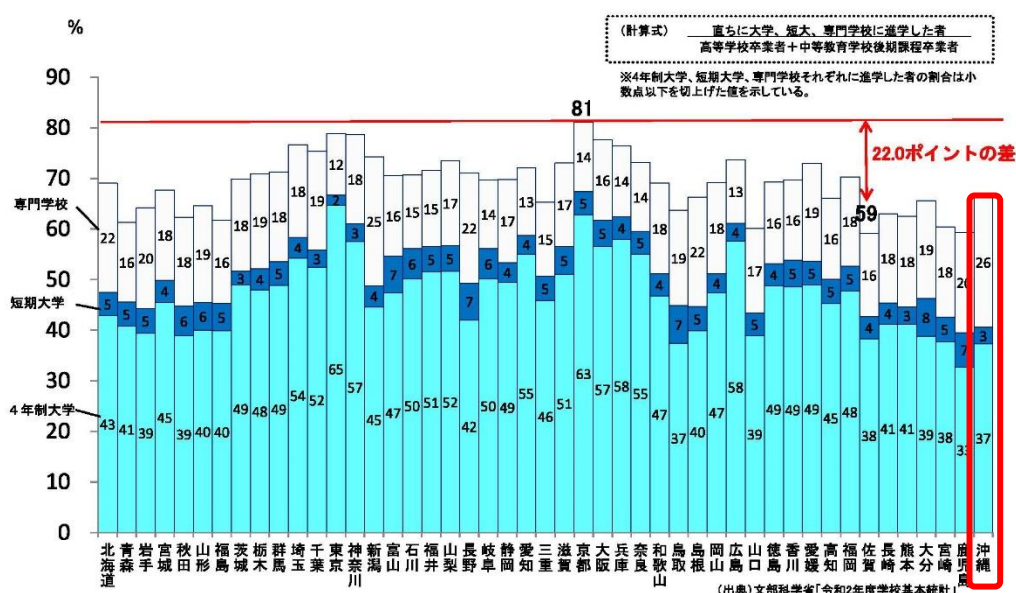


(出典) 文部科学省「令和2年度学校基本統計」

18

都道府県別高校新卒者の4年制大学、短期大学、専門学校への進学率

令和2年度の都道府県別高校新卒者の4年制大学、短期大学、専門学校への進学率は、京都（81.1%）が最も高く、佐賀（59.1%）が最も低い。京都と佐賀では22.0ポイントの差。



(出典) 文部科学省「令和2年度学校基本統計」

19

資料3 地方公共団体、関係団体からの要望

要望書一覧

	種別	地方公共団体、関係団体名
1	要望書	一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー
2	要望書	西原町

資料4 教室収容定員・稼働率

教室収容定員

	教室	収容定員	収容定員
S1-1	普通教室	126	126
S1-2	普通教室	72	72
S1-4	演習室 (Oral教室)	30	30
S1-5	普通教室	64	64
S1-7	演習室 (Oral教室)	30	30
S1-9	演習室 (Oral教室)	30	30
S1-10	演習室 (Oral教室)	30	30
S1-11	普通教室	56	56
S1-12	普通教室	56	56
S2-6	CALL教室	42	42
S2-7	CALL教室	48	48
S2-8	Mac教室	42	42
S2-9	自然科学実験室	42	-
S2-10	演習室 (Oral教室)	30	30
S2-11	演習室 (Oral教室)	30	30
南1-1	普通教室	48	48
南1-2	普通教室	80	80
南1-3	普通教室	48	48
南2-1	普通教室	80	80
南2-2	演習室 (Oral教室)	30	30
南2-3	演習室 (Oral教室)	30	30
南2-4	普通教室	48	48
南2-5	普通教室	56	56
南3-1	演習室 (Oral教室)	30	30
南3-2	演習室 (Oral教室)	30	30
南3-3	普通教室	48	48
南3-4	普通教室	48	48
南3-5	普通教室	117	117
北2-1	普通教室	64	64
北2-2	普通教室	40	40
北2-3	普通教室	48	48
北2-4	普通教室	48	48
北2-5	絵画教室	54	-
北2-6	栄養実習室	54	-
北3-3	普通教室	48	48
北3-4	普通教室	48	48
北3-5	普通教室	48	48
北3-6	EML教室	24	-
北3-7	普通教室	81	81
北4F	ビブレスン室	-	-
北4F	教職課程学習室	-	-
北5F	ゼミ室3	18	-
北5F	ゼミ室4	18	-
チャペル		-	-
視聴覚教室		87	-
体育館		-	-
リズム室		45	-
普通教室等の収容定員合計			1,804

(単位：名)

普通教室、演習室、情報処理学習施設の収容定員合計	1,804 ※1
教室内の施設設備の故障や清掃等による教室変更対応を考慮して※1の稼働率を 60% と設定した収容定員合計	1,082 ※2

既設学科収容定員

学科名	収容定員
英語コミュニケーション学科	390
保育科	200
計	590 ※3

※大学院は北3-2使用のため含まない。

新設学科に割当可能な収容定員 (※2－※3)	492
---------------------------	-----

曜日・時限別教室稼働率

曜日	時限	前期		後期	
		使用教室数	稼働率※	使用教室数	稼働率※
月	1	月曜礼拝		月曜礼拝	
	2	11	31.4%	13	37.1%
	3	9	25.7%	9	25.7%
	4	8	22.9%	8	22.9%
	5	2	5.7%	2	5.7%
	平均	21.43%		22.86%	
火	1	10	28.6%	11	31.4%
	2	10	28.6%	11	31.4%
	3	10	28.6%	8	22.9%
	4	9	25.7%	8	22.9%
	5	2	5.7%	1	2.9%
	平均	23.43%		22.29%	
水	1	13	37.1%	10	28.6%
	2	11	31.4%	9	25.7%
	3	12	34.3%	6	17.1%
	4	9	25.7%	8	22.9%
	5	3	8.6%	3	8.6%
	平均	27.43%		20.57%	
木	1	12	34.3%	12	34.3%
	2	10	28.6%	10	28.6%
	3	17	48.6%	15	42.9%
	4	15	42.9%	13	37.1%
	5	授業配置なし		授業配置なし	
	平均	38.57%		28.57%	
金	1	10	28.6%	7	20.0%
	2	11	31.4%	8	22.9%
	3	10	28.6%	10	28.6%
	4	10	28.6%	7	20.0%
	5	4	11.4%	1	2.9%
	平均	25.71		18.86%	
平均稼働率		27.1%		23.6%	

※時間割は、既設の英語コミュニケーション学科及び併設短期大学保育科の2022年度時間割を参照している。

※稼働率は、全体教室数35教室に対する割合である。

※対象教室は、普通教室、演習室、情報処理学習施設とし、特別教室や併設短期大学専用教室は含まない。

資料5 完成年度（2027年度）における時間割

完成年度（2027年度）前期 教室時間割

教室	収容人数	月					火					水					木				金					
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	1	2	3	4	5	
S1-1 普通教室	126	月曜礼拝	英コミ	異文化理解A	SDGsと観光A				英コミ	インバウンド概論A			巡礼ツーリズムA	英コミ	国際平和学A				英コミ	併設短大				英コミ	英コミ	英コミ
S1-2 普通教室	72		英コミ	英コミ	はじめてのジェンダー論A			英コミ	併設短大	アジア文化概論A		英コミ	英コミ	英コミ	ツアーコンダクター論A		TOEIC IIB	TOEIC IIC	日本手話基礎A	英コミ	英コミ	英コミ	英コミ	英コミ	英コミ	英コミ
S1-4 演習室(Oral教室)	30						英コミ	英コミ				英コミ	英コミ				英コミ	英コミ			英コミ	英コミ				
S1-5 普通教室	64		英コミ	マーケティング論A	日本歴史文化概論A			Intensive English IIB	観光学概論A	英コミ		英コミ	英コミ	併設短大				Intensive English IIB	英コミ	英コミ	英コミ	英コミ	英コミ	英コミ	観光学概論B	英コミ
S1-7 演習室(Oral教室)	30																									
S1-9 演習室(Oral教室)	30												英コミ					英コミ								
S1-10 演習室(Oral教室)	30																									
S1-11 普通教室	48		英コミ	英コミ	英コミ			Communication in Business IJ	英コミ			英コミ	併設短大	インターンシップA			英コミ	英コミ	英コミ	英コミ		英コミ		英コミ		
S1-12 普通教室	48		英コミ	地域景観デザイン論A	英コミ		英コミ	英コミ	中国語ⅢA	中国語ⅠB		Oral Fluency IA	Oral Fluency IIB	英コミ			英コミ	英コミ	英コミ	英コミ			中国語ⅠA	中国語ⅢB	コトバと論理A	
S2-6 CALL教室	42	月曜礼拝	英コミ		PCスキルとビジネス・マナーA		英コミ						コンピュータ基礎演習A	併設短大		英コミ	観光統計分析A	コンピュータ基礎演習B	コンピュータ応用演習D							
S2-7 CALL教室	48				併設短大		英コミ	英コミ		英コミ		英コミ		英コミ		英コミ			英コミ	英コミ		英コミ				
S2-8 Mac教室	42						英コミ						併設短大	併設短大		英コミ			コンピュータ応用演習C				併設短大			
S2-9 自然科学実験室	42							併設短大					併設短大					併設短大	併設短大	併設短大						
S2-10 演習室(Oral教室)	30																									
S2-11 演習室(Oral教室)	30							英コミ														英コミ				
南1-1 普通教室	56	月曜礼拝					英コミ	英コミ			英コミ	英コミ				英コミ	英コミ	卒業基礎研究ⅠA	卒業研究ⅠA	英コミ	英コミ					
南1-2 普通教室	80		フレッシュマン・セミナーⅠA	併設短大	英コミ		英コミ	英コミ	英コミ	併設短大		英コミ	英コミ	英コミ	英コミ	英コミ	英コミ	英コミ	併設短大	併設短大	英コミ	英コミ	英コミ	併設短大		
南1-3 普通教室	48		フレッシュマン・セミナーⅠB			英コミ	英コミ	Communication in Business IIIK	Advanced Reading and Writing	英コミ			英コミ				英コミ	英コミ	英コミ	英コミ	英コミ	Advanced TOEICA	英コミ	英コミ		
南2-1 普通教室	80	月曜礼拝	フレッシュマン・セミナーⅠC	英コミ	英コミ		英コミ	観光情報サービス論A	併設短大	英コミ	併設短大	併設短大		英コミ	琉球・沖縄歴史文化特論ⅠA		TOEIC IA	卒業基礎研究ⅠB	卒業研究ⅠB	英コミ	英コミ	英コミ	英コミ	併設短大		
南2-2 演習室(Oral教室)	30																									
南2-3 演習室(Oral教室)	30																									
南2-4 普通教室	48		基礎セミナーⅠA	英コミ				Business Reading and Writing IC	中国語ⅠC	スペイン語ⅠA		英コミ	Communication in Business IC	併設短大	併設短大			Business Reading and Writing IC	卒業基礎研究ⅠC	卒業研究ⅠC		韓国語ⅠA	併設短大	コンテンツツーリズムA	併設短大	
南2-5 普通教室	56		英コミ	沖縄の移民研究A	英コミ			Intensive English IA	カルチャーツーリズムA	韓国語ⅠC	英コミ	英コミ	Business Reading and Writing IJ	英コミ	体育一般A			Intensive English IA	英コミ	英コミ	英コミ	英コミ	Business Reading and Writing IJ	韓国語ⅢB	琉球・沖縄歴史文化概論B	
南3-1 演習室(Oral教室)	30		月曜礼拝																							
南3-2 演習室(Oral教室)	30																									
南3-3 普通教室	40										英コミ						英コミ		卒業基礎研究ⅠD	卒業研究ⅠD						
南3-4 普通教室	48	ホスピタリティ韓国語A						Communication in Business IJ					併設短大						英コミ	英コミ	英コミ	英コミ	運輸ビジネス論A	併設短大		
南3-5 普通教室	117	併設短大		歴史学概論A	英コミ	併設短大			キリスト教概論C	英コミ				プライダルサービス論A		併設短大			卒業基礎研究ⅠE	卒業研究ⅠE			英コミ	英コミ		
北2-1 普通教室	64	月曜礼拝	基礎セミナーⅠB	併設短大	併設短大			併設短大	併設短大	併設短大	英コミ		琉球・沖縄歴史文化概論A			併設短大	併設短大	英コミ	英コミ	英コミ	併設短大	併設短大	併設短大	併設短大		
北2-2 普通教室	40		基礎セミナーⅠC																卒業基礎研究ⅠF	卒業研究ⅠF						
北2-3 普通教室	48		併設短大						英コミ			併設短大	併設短大				併設短大		卒業基礎研究ⅠG	卒業研究ⅠG			併設短大	併設短大		
北2-4 普通教室	48		併設短大						併設短大	併設短大			Business Reading and Writing IJ				併設短大	併設短大	卒業基礎研究ⅠH	卒業研究ⅠH		Business Reading and Writing IJ				
北2-5 絵画教室	54				併設短大		併設短大	併設短大				併設短大	併設短大													
北2-6 栄養実習室	42				併設短大			併設短大	併設短大														併設短大			
北3-3 普通教室	40	月曜礼拝																								
北3-4 普通教室	48		ホスピタリティ中国語A										Business Reading and Writing IIIK					卒業基礎研究ⅠJ	卒業研究ⅠJ		Business Reading and Writing IIIK	併設短大	併設短大			
北3-5 普通教室	48		併設短大						韓国語ⅢA	韓国語ⅠB			併設短大	英コミ	英コミ	英コミ			英コミ	英コミ			併設短大			
北3-6 EML教室	24									併設短大	併設短大							併設短大	併設短大				併設短大			
北3-7 普通教室	81			併設短大	キャリアデザインA		併設短大	併設短大	英コミ	エコツーリズムA		併設短大	Tourism English IA	英コミ	英コミ			併設短大	併設短大	英コミ	島嶼地域学概論A	スポーツツーリズムA	文化観光資源・施設論A	SDGs概論A		
北4F ヒアリング室		月曜礼拝																								
北4F 教職課程学習室																										
北5F ゼミ室3	18	月曜礼拝																	英コミ	英コミ						
北5F ゼミ室4	18																			英コミ	英コミ					
チャペル		月曜礼拝																								
視聴覚教室	87																									
体育館					併設短大				併設短大				併設短大	併設短大	体育一般A			併設短大	健康運動バスケット／バレーA							
リズム室																					健康運動ヨガA					

完成年度(2027年度) 後期 教室時間割

大学基幹科目 共通科目 観光文化学科専門科目 英語コミュニケーション学科科目 併設短期大学科目

教室	収容 人数	1	月				火				水					木				金					
			2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	1	2	3	4	5
S1-1 普通教室	126	月曜 礼拝	英コミ	英コミ				英コミ	聖書における人間C				キリスト教平和学A					英コミ	英コミ			英コミ	人間学A		
S1-2 普通教室	72		英コミ	英コミ	日本国憲法A		経営学A	英コミ	英コミ	英米文化論A	英コミ	琉球と中国の関係史A	メディア・リテラシーA	言葉と思考A		ホスピタリティと異文化理解A	英コミ	英コミ	英コミ	英コミ	琉球諸語論A	聖書における人間D	キリスト教平和学B		
S1-4 演習室(Oral教室)	30										英コミ	英コミ				英コミ	英コミ								
S1-5 普通教室	64		英コミ	世界遺産論A	ユニバーサルデザイン論A		インターンシップB	Business Reading and Writing IB	文化資源保全入門A	MICE論A	英コミ	英コミ	Tourism English IIA	琉球史入門A			Business Reading and Writing IB	英コミ	英コミ	英コミ	英コミ	英コミ	英コミ	クルーズ産業論A	英コミ
S1-7 演習室(Oral教室)	30																								
S1-9 演習室(Oral教室)	30																								
S1-10 演習室(Oral教室)	30																								
S1-11 普通教室	48		英コミ	英コミ	英コミ		英コミ	英コミ			英コミ	Business Reading and Writing IIB		英コミ		英コミ	英コミ	英コミ	英コミ	英コミ	英コミ	Business Reading and Writing IIB			
S1-12 普通教室	48		英コミ					併設短大	中国語ⅣA	中国語ⅡA			Business Reading and Writing IIJ			TOEIC IIA	中国語ⅣB	卒業基礎研究ⅡA	卒業研究ⅡA		Business Reading and Writing IIJ				
S2-6 CALL教室	42		月曜 礼拝	英コミ	英コミ			英コミ		英コミ			英コミ			英コミ								併設短大	
S2-7 CALL教室	48	英コミ			英コミ		英コミ									英コミ				データサイエンス入門A			統計分析入門A		
S2-8 Mac教室	42	英コミ					英コミ	英コミ				英コミ	英コミ			英コミ					英コミ	英コミ			
S2-9 自然科学実験室	42	併設短大		数学入門A		併設短大							併設短大	併設短大	併設短大				併設短大						
S2-10 演習室(Oral教室)	30																								
S2-11 演習室(Oral教室)	30							英コミ													英コミ				
南1-1 普通教室	56	月曜 礼拝						英コミ	英コミ			英コミ	英コミ			英コミ	英コミ	卒業基礎研究ⅡB	卒業研究ⅡB	英コミ	英コミ		英コミ		
南1-2 普通教室	80		英コミ	英コミ	英コミ		英コミ	英コミ	メディカルツーリズムA	併設短大	フードツーリズムA	英コミ	教養教育としての経営知識A	自然環境論A		英コミ	はじめての手話A	併設短大	英コミ	英コミ	英コミ	英コミ	韓国文化論A		
南1-3 普通教室	48		英コミ			英コミ	英コミ	Intensive English IIA	英コミ	英コミ	英コミ	英コミ		英コミ	Intensive English IIA	英コミ	英コミ	英コミ	英コミ	英コミ	英コミ				
南2-1 普通教室	80	月曜 礼拝	フレッシュマン・セミナーⅡA	琉球舞踊・音楽A	観光マーケティングA		英コミ	琉球・沖縄歴史文化特論ⅡA	併設短大	英コミ	併設短大	併設短大	併設短大			観光サービス・イノベーションA	英コミ	英コミ	英コミ		併設短大	英コミ			
南2-2 演習室(Oral教室)	30																								
南2-3 演習室(Oral教室)	30																								
南2-4 普通教室	48		英コミ				Presentation in English	Communication in Business IVK	英コミ		Oral Fluency IIA	Communication in Business IB		英コミ	TOEIC IIIB	韓国語ⅣB	卒業基礎研究ⅡC	卒業研究ⅡC		英コミ	併設短大	英コミ	英コミ		
南2-5 普通教室	56		フレッシュマン・セミナーⅡB		クリティカル・シンキング基礎A			英コミ		韓国語ⅡC		Communication in Business IIC		併設短大	TOEIC IIIC	英コミ	卒業基礎研究ⅡD	卒業研究ⅡD		英コミ	英コミ				
南3-1 演習室(Oral教室)	30	月曜 礼拝																							
南3-2 演習室(Oral教室)	30																								
南3-3 普通教室	40																	卒業基礎研究ⅡE	卒業研究ⅡE						
南3-4 普通教室	48		フレッシュマン・セミナーⅡC					Business Reading and Writing IIC	韓国語ⅣA	韓国語ⅡA	英コミ	Business Reading and Writing IVK		英コミ	英コミ	Business Reading and Writing IIC	併設短大	英コミ		Business Reading and Writing IVK					
南3-5 普通教室	117		基礎セミナーⅡA	民俗学概論A	英コミ									教養教育としての経済知識A				卒業基礎研究ⅡF	卒業研究ⅡF			英コミ	英コミ		
北2-1 普通教室	64	月曜 礼拝	琉球と朝鮮の関係史A	併設短大	併設短大			併設短大	併設短大	併設短大	併設短大	併設短大	併設短大	併設短大	併設短大	併設短大	卒業基礎研究ⅡG	卒業研究ⅡG	観光ビジネス入門A		地域振興論A				
北2-2 普通教室	40																卒業基礎研究ⅡH	卒業研究ⅡH							
北2-3 普通教室	48		併設短大		併設短大		併設短大			併設短大		併設短大	併設短大	併設短大	併設短大	併設短大	併設短大	併設短大	日本手話応用A		併設短大				
北2-4 普通教室	48		併設短大	併設短大	併設短大		併設短大		併設短大						併設短大	併設短大	英コミ	英コミ		中国語ⅡB	併設短大	併設短大			
北2-5 絵画教室	54			併設短大			併設短大	併設短大			併設短大														
北2-6 栄養実習室	42							併設短大	併設短大			併設短大		併設短大	併設短大		併設短大	併設短大							
北3-3 普通教室	40		月曜 礼拝																						
北3-4 普通教室	48							Communication in Business IIB	中国語ⅡC	スペイン語ⅡA								卒業基礎研究ⅡJ	卒業研究ⅡJ						
北3-5 普通教室	48			英コミ	英コミ	英コミ	併設短大	Communication in Business IIJ					英コミ	英コミ		英コミ	英コミ	英コミ	英コミ		韓国語ⅡB				
北3-6 EML教室	24									併設短大	併設短大							併設短大	併設短大		併設短大				
北3-7 普通教室	81	観光産業危機管理論A		併設短大	心理学A			併設短大	併設短大	英コミ	英コミ	併設短大		中国文化論A	ホテル経営論A		併設短大	併設短大	英コミ	併設短大	地域ブランド論A		キリスト教芸術A	島嶼地域観光振興事例研究A	
北4F ビアラウンジ室		月曜 礼拝																							
北4F 教職課程学習室																									
北5F ゼミ室3	18	月曜 礼拝																英コミ	英コミ						
北5F ゼミ室4	18																		英コミ	英コミ					
チャペル		月曜 礼拝											英コミ									キリスト教芸術A			
視聴覚教室	87																								
体育館									併設短大					併設短大	併設短大			併設短大	併設短大			併設短大	併設短大		
リズム室			併設短大	併設短大										英コミ					空手A	英コミ					

学生の確保の見通し等を記載した書類

目 次

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	2
(1) 観光文化学科を設置する大学の現状把握・分析	2
(2) 地域・社会的動向等の現状把握・分析	2
(3) 観光文化学科の趣旨目的、教育内容、定員設定等	3
(4) 学生確保の見通し	5
(5) 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	12
2. 人材需要の動向等社会の要請	15
(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的	15
(2) 上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものである ことの客観的な根拠	16

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 観光文化学科を設置する大学の現状把握・分析

沖縄キリスト教学院大学人文学部に観光文化学科を設置するに当たっては、同法人内の既設沖縄キリスト教短期大学英語科（以下、「英語科」という）の状況が大きく関わっている。

英語科は、入学定員未充足が続き、改善を図るために英語の学びを中心としながら、沖縄県の主軸産業である観光をビジネス関連科目として取り上げ教授することにより、学生からの評価を受け始めた。これを受けて、2019年度からは在学生や高校生へよりわかりやすくするため、「国際観光ビジネス群」の科目区分を設けるなど教育課程を改編した。この効果により2020年度入学者は増加したものの、新型コロナウイルス（以下、「新型コロナ」という）の感染拡大により沖縄県内の観光産業が経済的に大きな影響を受けることと比例して、入学者も減少した【図表1】。

【図表1】既設短期大学英語科の入学定員充足状況

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
入学定員	100	100	100	100	100
入学者数	71	63	78	49	46
定員充足率	0.71	0.63	0.78	0.49	0.46

学校法人沖縄キリスト教学院（以下、「本学院」という）としては、定員充足の改善に向けて検討するなかで、平和でこそ成り立つ観光分野の人材育成に建学の精神を照らし合わせても本学院が取り組む意義を見出している。また、新型コロナの影響で経営苦難の観光業界では人材が離れ、現在、観光が徐々に回復していくなかで人材不足が懸念されており、次項で述べるような地域の人材需要が起こっている。

ただし、短期大学における学生の確保の見通しとして、全国において2020年度の18歳人口における進学率83.5%のうち短期大学進学率は4.2%と低調になっており、入学定員充足率の推移も減少傾向で2021年度は入学定員未充足校の割合が8割を超えている。沖縄県においても例外ではなく、短期大学への進学率は低い傾向にある。【資料1】また、「第6次沖縄県観光振興基本計画」（以下、「第6次計画」という）では、子どもや学生に対する観光産業の魅力の伝達や高度な人材育成、観光地経営の担い手の育成・確保が必要であると明記されており、高度な人材を育成するには短期大学や専門学校の2年間ではなく、アカデミックな教育を教授する四年制大学における人材育成が必要と考える。これらを踏まえて、短期大学ではなく、英語科の英語教育と観光をビジネス関連科目とした教育課程を基にしながら沖縄キリスト教学院大学人文学部の観光文化学科設置に至っている。

(2) 地域・社会的動向等の現状把握・分析

わが国における観光は、世界的な新型コロナの感染拡大により2020年1月頃から現在においても多大な影響を受けているが、感染拡大の以前は、国内観光及び訪日外国人観光においても観光需要は上昇傾向で、国土交通省観光庁の「旅行・観光消費動向調査2019年年間値（確報）」に

よると、日本人の国内旅行消費額は約 22 兆円に上り、訪日外国人旅行消費額は過去最高の約 4.8 兆円を記録し、0.8 兆円であった 2011 年以降、対前年増を記録している。【資料 2】

また、観光文化学科を設置する沖縄県は国内有数の観光地であり、国の動向と同様に新型コロナの感染拡大で現在も影響を受けているが、感染拡大以前は、入域観光客数が増加し続け、2018 年度には 1,000 万人を超え、2019 年度は 2022 年 1 月～3 月期に新型コロナの影響はあるが 946 万人となっている。特に、東アジアを中心としたインバウンド需要は高まり、訪日外国人の 2019 年都道府県別訪問率ランキングでは全国 10 位であり、2019 年度沖縄県入域観光客数の 26% (249 万人) を占める。【資料 3】

UNWTO (国連世界観光機関) の専門委員会によると、アジア太平洋の国際観光客数の回復見通しについては、2022 年から回復するという見通しもあるものの、80%近くは 2024 年以降と予測しており、世界の観光市場の中で回復が遅れる地域として捉えられている。しかし、国内旅行においては、コロナ禍の行動制限緩和や航空路線の増加等により 2022 年より全国的に旅行者数が増加傾向で、沖縄県においても同様である。【資料 4】

これらより、社会・地域的な観光動向は今後の回復とさらなる発展が期待でき、沖縄県における観光は、今後ますます重要な位置を占めていくことが想定され、沖縄県の持つ強みを生かして活用できる観光人材の育成と確保が求められている。

さらに、政府は、観光立国を実現するためには、地域が一丸となって個性あふれる観光地域を作り上げ、その魅力を自ら積極的に発信していくことで、広く観光客を呼び込み、活気にあふれた地域社会を築くことを推進しており、観光立県として知られる沖縄県も、第 6 次計画において地域が持つソフトパワー（自然・歴史・文化）を生かした付加価値の高いツーリズムを最大限発揮することで、世界から選ばれる持続可能な観光地の実現に繋がることを定めている。

また、学生確保に係る地域的動向として、後述するように沖縄県における大学入学者の地元残留率をみると、45.9%と全国で 11 番目の地元残留率となっており、本学既設学科である英語コミュニケーション学科の入学者出身地がほぼ沖縄県であることと同様の傾向があてはまるが、県内に「観光」を称する学部・学科は、公立の名桜大学が 2023 年度より国際学部国際観光産業学科を入学定員 160 人で開設するほか、国立の琉球大学が学部・学科内で観光が学べるプログラムを設けているだけであり、これらはいずれも国立大学と公立大学であるため県外からの志願者も多く量的に十分とは言えないほか、県内の私立大学としては未整備の状態にある。そのため、前述の残留率であっても、観光系分野を志望する県内出身者の一定数は、県外に流出すると考えられるため、本学に観光文化学科を設置することで、観光系分野を志望する県内出身者に対して沖縄県に留まって進学できる選択肢を提供することで学生確保を図っていく考えである。

(3) 観光文化学科の趣旨目的、教育内容、定員設定等

1) 趣旨目的、教育内容

上述のとおり、今後、沖縄県で急増していくと推測される観光需要に対して、量・質ともに地域社会に貢献していく人材を確保していくためには、観光・文化の専門的な知識を理解し、観光に関する多様な課題を積極的に解決できる人材の育成が急務である。しかし、沖縄県内には、観光の知識を専門的に習得することを目的とした学科を有する大学は、北部地域に公

立大学が1大学、人口が集中している中・南部地域の国立大学1大学に観光地域デザインプログラムコースを設けるのみに留まっており、私立大学では皆無である。沖縄県における観光人材不足の解消や中・南部地域において観光・文化を学べる高等教育機関の充実を図るうえで、私立大学である沖縄キリスト教学院大学の観光文化学科の設置は意義あるものである。

また、政府や沖縄県が着目している、地域の魅力を生かした観光地域形成と積極的な発信が持続可能な観光地の実現に繋がることは、観光文化学科が養成する人材像として掲げる、「地域」の持つパワーを見出し、観光を基軸とした文化振興や地域振興に、今まさに積極的に貢献できる人材と合致するものである。

これらより、観光文化学科の設置が沖縄県における地域・社会的な需要へ貢献できるものとする。

2) 定員設定の理由

観光文化学科の設置にあたっては既設短期大学英語科を基にしており、法人経営の観点から英語科の入学定員100人、収容定員200人を基準とした。

また、沖縄県の中・南部地域において、観光の知識を専門的に習得する高等教育機関が国立大学1大学のコース設置のみに留まり、私立大学は未整備の状態であることに対して、後述の人材需要の動向における調査結果【資料10】では、沖縄県の観光人材不足が明らかとなり、企業・関係団体等の観光文化学科の卒業生採用意向人数は326人となった。さらに、学生の確保の見通しの調査結果【資料5】では、高校生97人の入学希望意向があり一定の進学需要を得ている。

これらの社会的需要に対して、適切な教育研究環境を担保できる本学の校地・校舎の規模と円滑な財政運営において最大限に貢献できることを検討した結果、入学定員90人、収容定員360人と設定した。

3) 学生納付金の設定の考え方

観光文化学科は、「本学の建学の精神に基づく平和を創造する力を養うことをベースに、観光・文化の知識を習得し、語学・ホスピタリティ・持続可能に関する造詣を持ち、リーダーシップを発揮できる人材を育成し、地域社会に寄与すること」を設置の目的としている。この目的に掲げた人材育成に向けた実践的教育を確実に実施するため、本学人文学部既設学科である英語コミュニケーション学科及び募集停止する併設短期大学英語科の教員の中から移籍する教員に加え、教員の新規採用によって教員体制を強化整備する。教育環境については、既設学科と同一キャンパス内において施設・設備の共有を前提としており、施設・設備を新設することなく整備することとしている。また授業料等以外の、手数料等その他の費用については、既存学科同様別に徴収することとしている。こうした諸条件及び他大学の学生納付金を勘案し、観光文化学科の学生納付金は、完成年度に収支均衡を図れることを前提に、既設学科と同額の、入学金130,000円、授業料等844,660円、初年度納付金974,660円と設定した。

沖縄県内の私立大学で人文系学部の学生納付金は、図表2のとおりとなっており、他校に

比して僅かではあるが高額となっているが、初年度納付金における差額は 3,500 円(+0.36%)～12,360 円(+1.27%)程度と極端に高額ではないことから適正な金額であると考えている。また、後述の高校 2 年生を対象とした「高校生進学意向調査」【資料 5】において、観光文化学科を「受験したいと思わない」と回答した 4,436 人の生徒の、その理由についての回答として「学費が高いから」と回答した生徒は 138 人 (1.7%) であり、学生納付金は観光文化学科への進学を敬遠する理由にはなりにくいと考えられ、学生募集上においても問題ないと考えている。なお、学部学科等の名称、取得資格、学位及び分野が共通する観光系学科は、沖縄県内私立大学に設置されていない。

【図表 2】2022 年度沖縄県内私立大学の学生納付金状況

(単位：円)

		入学金	授業料等	初年度納付金
本学既設学科	人文学部英語コミュニケーション学科	130,000	844,660	974,660
県内私立大学	沖縄国際大学総合文化学部	120,000	851,160	971,160
	沖縄大学人文学部	125,000	837,300	962,300

※沖縄県内私立大学に観光系学科が設置されていないため、人文系学部と比較する。

(4) 学生確保の見通し

1) 学生確保の見通しの調査結果

学生確保の見通しを把握するため、観光文化学科への「高校生進学意向調査」(以下、「進学意向調査」という)を実施した。調査にあたっては、中立性・公平性を確保するために第三者機関(丸善雄松堂株式会社)へ実施・集計・分析を委託した。

調査対象は、既設学科である英語コミュニケーション学科の入学学生出身地がほぼ沖縄県であることを参考に【図表 3】、沖縄県内の高校 60 校の 2 年生に実施した。実施の際は、アンケート調査票に加えて、高校生が回答するにあたって必要な観光文化学科の情報(養成する人材像、学科の特色、想定される就職先、同分野の大学・学部等も含めた学生納付金、設置場所など)を明示した。【資料 5】

【図表 3】英語コミュニケーション学科の過去 3 年の入学学生出身地状況 (単位：人)

年度	入学学生	沖縄県出身者		沖縄県以外の出身者	
2020 年度	79	78	98.7%	1	1.3%
2021 年度	67	64	95.5%	3	4.5%
2022 年度	104	103	99.0%	1	1.0%

回答は、60 校中 58 校の 7,982 件から得ることができ、アンケート設問における「進学したい学問分野」「卒業後の進路」「受験意向」「入学意向」の回答結果をクロス集計することにより以下のとおり進学需要を分析した。

「Q6)受験意向」及び「Q7)入学意向」から、観光文化学科への進学意向のある層が合計 1,841 人で、「受験したいと思う」かつ「入学したいと思う」人数は 171 人となり【図表 4】、このうち

105 人は「Q3)卒業後の進路」として「大学への進学」を選択している【図表 5】。

【図表 4】受験意向、入学意向のクロス集計

Q6) 受験意向	Q7) 進学意向	人数
受験したいと思う	入学したいと思う	171
受験したいと思う	併願校の可否により入学を検討する	110
どちらともいえない	入学したいと思う	257
どちらともいえない	併願校の可否により入学を検討する	1,303
	計	1,841

【図表 5】「受験したいと思う」かつ「入学したいと思う」結果の卒業後の進路

Q3) 高校卒業後の進路	人数
大学への進学	105
短期大学への進学	18
専門学校への進学	29
就職	6
その他	11
計	169

観光文化学科は後述のとおり、歴史・文化関連や語学関連の学びを充実させ、観光学の学びにつなげる教育課程を編成しているため、人文学部に設置する。そのため、「Q4) 進学希望分野」では「文学・人文科学(観光関連を含む)」及び「語学関係(外国語・言語学・国際関係)」を進学層と捉えると、前述の 105 人のうち 80 人がこの分野を選択している。

また、「Q6)受験意向」で「受験したいと思う」を「Q7)入学意向」で「併願校の可否により入学を検討する」を選択した層が 110 人いる。後述の競合校の状況にもあるとおり、沖縄県では、公立の名桜大学が 2023 年度より国際学部国際観光産業学科を入学定員 160 人で開設するほか、国立の琉球大学が学部・学科内で観光が学べるプログラム（プログラムとしての定員設定はない）を設けているが、それら国公立大学には、県外からの志願者も多く、高い競争率の状況が想定され、後述するように名桜大学においては、半数以上が県外出身者であることから、観光系分野を志望する県内出身者においては、結果として多数の者が併願先の大学への進学となることが想定できる。しかし、沖縄県には、併願先となる観光系分野を有する私立大学は存在しないため、本学に観光文化学科が設置された際には、この分野の志望者、特に県内大学へ進学を希望している者にとって私立大学の併願先は本学の観光文化学科のみとなり、本学の観光文化学科以外の選択肢はないことになる。そのため、進学意向調査において「併願校の可否により入学を検討する」と回答した者のうち、一定数は本学へ入学する見込みがあると考え、その入学者の見込み数を把握するために、以下のように既設の英語コミュニケーション学科の進学志望度データを基にその人数の算出を試みた。

なお、英語コミュニケーション学科と観光文化学科では、教育内容等が異なるものの、英語教育（語学関連の学び）や歴史・文化関連の学びという人文科学系としての共通性がある。

また、本学は人文学部一学部一学科の大学であり、観光文化学科も人文学部に設置するものであり、学生募集圏が狭い沖縄県においては、同一大学・同一学部の既設学科に対する受験動向や進学志望度の傾向は、新增設の観光文化学科にも引き継がれ、類似する可能性が高いと考え、英語コミュニケーション学科の進学志望度を用いることにした。

①観光文化学科への進学者数

観光文化学科への進学者数は前述のとおり 80 人である。

②観光文化学科への進学志望者層

「Q6)受験意向」で「受験したいと思う」かつ「Q7)入学意向」で「併願校の可否により入学を検討する」を選択した層は 110 人である。

③既設学科在学生の進学志望度

既設学科である英語コミュニケーション学科の在学生学内調査(*)における、進学志望度は以下のとおりである。

項目	人数(人)	比率
第一志望で入学	91	82.0%
第一志望以下で入学	20	18.0%
合計	111	100.0%

(*) 在学生学内調査：(調査対象) 人文学部 1、2 年生 111 人が回答
(実施時期) 2023 年 1 月

④進学需要

③進学志望度では、本学人文学部へ第一志望で入学した比率：第一志望以外で入学した比率が 82.0%：18.0%となっている。この結果から、既設学科である英語コミュニケーション学科の進学志望度は、第一志望の比率が極めて高く、第一志望以外、つまり併願校の可否により入学する可能性があるのは、2 割に満たない低い数値であり、確実性を見込める最低限の低い比率であり、少なからず発生する第一志望以外の大学に入学する者が起こり得る割合としては妥当な比率であると考察した。そのうえで、第一志望を「観光文化学科への進学者数」、第一志望以外を「観光文化学科への進学志望者層」とし、この比率と上記「①観光文化学科への進学者数」80 人から第一志望以外で観光文化学科へ進学を志望する人数を算出すると、

第一志望 82.0%：第一志望以外 18.0% = 80 人：17 人

となる。これより、進学意向調査において「併願校の可否により入学を検討する」を選択した者は 110 人であるが、そのなかから第一志望以外で入学する層として、少なくとも 17 人の進学が見込まれると想定した。

以上から、観光文化学科への進学需要は、 $80 + 17 = 97$ 人で入学定員 90 人の 1.07 倍となり、定員充足する進学需要があることが窺われる。

なお、進学意向調査において、「Q6) 受験意向」を「受験したいと思う」、「Q7) 入学意向」

を「併願校の可否により入学を検討する」と回答した者 110 人のうち、Q9（意見・要望／自由記述）にコメントを記載している者は 26 人であった（【資料 5】 p 32）。この 26 人のコメントを確認したところ、本学観光文化学科における海外研修や語学の授業などの教育内容について興味・関心の高い回答者が多く、17 件は本学科にポジティブな意見であった。このことから、前述の分析と同様に「併願校の可否により入学を検討する」と回答者のうち、併願校の結果によって、実際に本学に入学する者が一定数は見込まれることが考えられる。また、ポジティブな意見、高い関心を示す意見に応えるべく丁寧な広報活動を継続して行うことで確実に併願者の入学を確保することができると考えている。

2) 観光文化学科の分野の動向

観光文化学科は、国や沖縄県が着目している「地域」の持つパワーを見出し、観光を基軸とした文化振興や地域振興に積極的に貢献できる人材、そして、国際的な視野で地域の文化・歴史の魅力を発信できる人材の育成に重きを置いていることから、歴史・文化関連や語学関連の学びを充実させ、観光学の学びにつなげる教育課程を編成しているため、人文学部に設置する。

人文科学系の動向は、中央教育審議会大学分科会将来構想部会の配付資料「高等教育に関する基礎データ（地域別・分野別）」【資料 6】によると、2033 年の人文科学の定員充足率推計において、九州地域は 91.9%と全国（88.9%）または他地域に比べ比較的高くなっていることから、他分野に比べて人文科学分野の定員充足の優位性がみられる。

また、「観光学」という視点で動向をみた場合、リクルート進学総研の学部・学科トレンド分析（2 年ごと）【資料 7】によると、2018－2021 年では観光学が衰退期（定員増・志願者減）とされているが、2016－2018 年度では成長期（定員増・志願者増）とされている。志願者数は 1996 年の調査時より 2018 年まで上昇し続けていたが、2021 年調査時で急降下している。これは明らかに新型コロナの影響を受けていると推察されるが、2021 年調査時においても志願倍率は 5 倍を超えている。日本私立学校振興・共済事業団の私立大学・短期大学等入学志願動向をみても、全国の観光学部の志願者数は 2018 年度までは増加傾向にあり、2019 年度より減少に転じていることから同様に新型コロナの影響が窺える【図表 6】。

しかし、2022 年より新型コロナによる行動規制が緩和され徐々に観光業界が回復し始めていることを踏まえれば、今後の観光学の人気も復調することが期待できる。

【図表 6】観光学部の志願者・入学者動向（全国）

	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
集計学部数	6	6	6	6	6	6	6
入学定員(人)	1,005	1,030	1,030	1,030	1,030	1,060	1,060
志願者数(人)	7,285	7,441	9,501	9,177	8,133	6,832	6,169
入学者数(人)	983	1,048	993	1,084	1,065	993	933
入学定員充足率(%)	97.81	101.75	96.41	105.24	103.40	93.68	88.02

出典：日本私立学校振興・共済事業団「私立大学・短期大学等入学志願動向」

3) 中長期的な 18 歳人口の全国的、地域的動向等

リクルート進学総研マーケットリポート（以下、「リクルート進学総研」という）によると、18 歳人口は 2021 年 114.1 万人に対して 2033 年 101.4 万人と予測され 12.7 万人減少している。減少率を都道府県別でみた場合でも大多数の地域が減少傾向となっており、東京都（+3.1%）と本学が所在する沖縄県（+1.0%）のみが増加する見込みと予測されている。

また、大学入学者の地元残留率をみると、沖縄県は 45.9%となっており全国で 11 番目の地元残留率となっており、この傾向は概ね毎年変わらず地元志向が強い地域と言える。このことから、沖縄県は「18 歳人口減少率が低く、地元残留率が高い」という象限に当てはまり、「人口が減少せず、地元にも残るため、県内募集は比較的しやすいセグメント」と分析されている。前述のとおり、本学既設学科である英語コミュニケーション学科の入学者出身地はほぼ沖縄県であることから同様の傾向があてはまり、他都道府県に比べて自県における学生の確保に優位である。【資料 8】一方で半数は流出している実状があり、その理由として県内の高校生が進学を希望する分野の学部学科が未整備であることも一因であると考えられることから、沖縄県内の私立大学に設置されていない観光系学科の設置は地元志向の高校生にとっての進学分野の選択肢を広げ、県外への流出も抑制できると考えている。

なお、沖縄県の 2012 年～2021 年における進学者数・進学率（現役）の推移【資料 8】をみると、2012 年の 4,915 人・32.4%から 2021 年に 5,253 人・37.3%と、進学者が 338 人、進学率が 4.9 ポイントと増加傾向にあり、前述の沖縄県の 18 歳人口の増加予測を鑑みると、今後も進学者の増加が見込まれる。

沖縄県の 18 歳人口の増加予測や近年の進学者・進学率の増加、さらに、全国に比べて自県内における学生募集のしやすさから、中長期的にみても学生が確保できるものとする。

4) 競合校の状況

観光文化学科の入学者は、前述の既設学科の入学出身地状況【図表 3】から主に沖縄県出身者を想定している。また、リクルート進学総研によると、大学進学において沖縄県の地元残留率は 2021 年で 45.9%となり、都道府県別でみても全国で 11 番目と比較的高い地元残留率である【資料 8】ことから、競合校としては沖縄県内の大学が挙げられる。

2022 年度時点では、図表 7 のとおり「観光」を称する学部・学科は県内大学にはなく、学部・学科内の観光が学べるプログラムや専攻として設置されている（専攻やプログラムであり定員設定はない）。いずれも国立大学と公立大学であるとともに、学部学科とは違い専攻等における動向等は公表されておらず、詳細な入学志願状況を把握することは難しい。

しかし、公立の名桜大学が学群・専攻から学部・学科へ改編し、2023 年度より国際学部国際観光産業学科を入学定員 160 人で開設する。2023 年度入学志願状況は以下のとおりであり、入学定員 160 人に対して、志願者は 356 人であり、合格者 199 人、入学者は 171 人であった。志願倍率は高く観光系分野の進学需要が窺える【図表 8】。ただし、多くの公立大と同様に名桜大学国際学群・人間健康学部の地域別在学生数（2019 年 5 月 1 日現在）をみると、半数以上が県外出身者であることから【図表 9】、県内出身の入学者は 85 人程度に留まると

予測できる。この場合、観光系分野を志望する県内出身者においては、高い競争率の状況から、結果として多数の者が併願先の大学への進学となることが想定でき、名桜大学国際学部国際観光産業学科の受験者及び合格者のおよそ半数が県外出身者であるとした場合、県内出身の不合格者として 80 人程度は、併願校に進学することが想定される。そのうち、県内大学へ進学を希望する場合、前述のとおり、観光系学科の併願先（私立大学）は、本学の観光文化学科のみとなるため、地元残留率（45.9%）を考慮すると、名桜大学との併願者の受験結果によって、35 人程度の入学者が見込めると考えられる。

なお、これまで沖縄県に観光系分野を有する私立大学が存在しなかったため、この分野の志望者の併願先は県外の大学が対象となり、大学進学における人口の流出にもつながっていたが、前述の高校生進学意向調査において、「受験したいと思う」かつ「併願校の可否により入学を検討する」と回答した高校生が 110 人おり、前述の既設英語コミュニケーション学科の進学志望度を用いた分析からは「第一志望以外で入学する層」のうちから、少なくとも 17 人の進学が見込まれると想定しており、本学の観光文化学科がそれらの学生も取り込んでいくことが可能であると考えている。このようにして、観光系分野を志望する県内出身者にとって、私立大学に設置する観光文化学科の貢献度は高いと推察する。

【図表 7】 沖縄県内大学における観光分野のプログラム・専攻設置（2022 年度時点）

	大学・短期大学	専攻・コース等
国立	琉球大学	国際地域創造学部観光地域デザインプログラム
公立	名桜大学	国際学群観光産業専攻 →2023 年度より、 国際学部国際観光産業学科へと改編

【図表 8】 公立名桜大学国際学部国際観光産業学科の 2023 年度入学志願状況

選抜区分	入試種別	募集人員	志願者数	合格者数	入学者数	志願倍率
総合型選抜	—	15	53	30	30	3.5
学校推薦型選抜	一般推薦	40	30	30	30	0.8
	専門高校及び総合学科推薦	5	7	7	7	1.4
	北部枠推薦	15	12	12	12	0.8
社会人特別選抜	—	若干人	2	2	2	—
帰国生徒特別選抜	—	若干人	0	—	—	—
外国人留学生特別選抜	—	5	3	2	1	0.6
一般選抜	前期日程（A 方式）	50	101	83	65	2.0
	前期日程（B 方式）	20	34	23	18	1.7
	後期日程	10	114	10	6	11.4
合 計		160	356	199	171	2.2

【図表 9】 名桜大学国際学群・人間健康学部の地域別在学生数（2019 年 5 月 1 日現在）

地域	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		合計	
沖縄県	228	46%	242	48%	245	49%	271	48%	986	48%
沖縄県以外	267	54%	258	52%	252	51%	292	51%	1069	52%
合計	495	100%	500	100%	497	100%	563	100%	2,055	100%

また、沖縄県の人口分布は、図表 10 のとおり中南部地域に人口が集中しているが、名桜大学は北部地域に位置しており、那覇市から約 75km（高速道路利用で 1 時間 30 分）と中南部地域より通学するには地理的に遠い状況にある。現在、中南部地域において「観光」を称する学科が設置されていないことや通学上の地理的な利便性からも、県内でもっとも人口の多い那覇市内からも通学可能である中部地域に位置する本学の観光文化学科は高校生の需要に応える学科として、十分に定員充足が可能と見込んでいる。

【図表 10】 令和 4 年 10 月 1 日現在の地域別人口、面積、人口密度及び対令和 2 年国勢調査比較

区 分 (地域別)	令和4年 10月 1日 現 在	全人口 に占める 割 合	面 積	全面積 に占める 割 合	人口密度	令和2年 国勢調査 人口	増減数	人 口 増減率
	(人)	(%)	(Km ²)	(%)	(人/km ²)	(人)	(人)	(%)
県 計	1,468,634	100.0	2,282.15	100.0	644	1,467,480	1,154	0.08
北 部	128,927	8.8	825.48	36.2	156	128,259	668	0.52
中 部	643,758	43.8	283.26	12.4	2,273	641,908	1,850	0.29
南 部	274,719	18.7	313.51	13.7	876	272,444	2,275	0.84
宮 古	53,967	3.7	225.90	9.9	239	53,989	△ 22	△ 0.04
八重山	53,254	3.6	592.45	26.0	90	53,255	△ 1	△ 0.00
那 覇	314,009	21.4	41.42	1.8	7,581	317,625	△ 3,616	△ 1.14

注1) 面積は、国土交通省 国土地理院「令和4年全国都道府県市区町村別面積調(10月1日時点)」による。

2) 伊平屋村及び伊是名村については、地域別では北部地域、市部・郡部別では島尻郡に入る。

3) 割合の数値は四捨五入してあるため、県計と内訳の合計が一致しない場合がある。

(出典：沖縄県令和 4 年人口移動報告年報)

5) 既設学部等の学生確保の状況

前述のとおり、併設短期大学英語科の学生確保の状況は、入学定員未充足が続き、2021 年度からは充足率が 0.5 未満となっている。これを改善し安定的な学生確保に取り組むため、英語科の教育課程における英語教育と観光ビジネス教育をもとに、社会需要を捉える観光文化学科の設置構想に至っている。観光文化学科の設置にともない、英語科については、2024 年度入学生より募集を停止し、在学生の卒業後に廃止する。

また、既設の人文学部英語コミュニケーション学科は、2019 年度より入学定員を下回り、さらに、これまで 90%以上と高い傾向にあった歩留率が 2020 年度には 85.9%となったこと

から【図表 11】、2020 年度よりカリキュラムの改善に取り組んだ。学びの明確化として推奨履修プログラムの「キリ学コンパス」を 11 種類設定することや、コミュニケーションの学びを深めるパフォーマンス学の体系化に取り組み、2021 年度より在学生や高校生へ周知し、徐々に浸透し始めている。入試広報においては、オープンキャンパス等で積極的に在学生の参画を促し、充実した学生生活の様子を高校生へ直接届けることに効果を感じている。

2022 年度からは学生 FD を実施し、今後の対話的・主体的学びを中心としたカリキュラムへと再編する上で学生との協働を通じた教育プログラム作りや、学生 FD を活用した授業改善策提案への取り組みを話し合い始めた。教学マネジメントへの学生の主体的な参加により、学修成果向上と質保証の改善は、在学生の満足度にもつながり始めており、満足度の向上は今後の学生確保にもつながると考える。

さらに、2021 年度には、本学と同じ西原町にある沖縄県立西原高校と包括連携協定を交わし、総合的な探究の時間における協力体制や、高校生への大学授業履修の機会提供の拡充など、幅広い連携を通して高校現場への本学の取り組みが評価され始めた。

これらより、2022 年度は入学定員を充足するに至り、今後は観光文化学科との 2 学科体制による相乗効果を含め、安定的な学生の確保に向けて取り組んでいく。

【図表 11】人文学部英語コミュニケーション学科の過去 5 年の入学志願状況等

	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
入学定員（人）	90	90	90	90	90
志願者数（人）	116	95	95	75	116
受験者（人）	114	95	95	74	111
合格者（人）	113	94	92	74	109
辞退者（人）	6	6	13	7	5
入学者数（人）	107	88	79	67	104
入学定員充足率（倍）	1.19	0.98	0.88	0.74	1.16
歩留率（％）	94.7	93.6	85.9	90.5	95.4

（５）学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

学生確保に向けた取り組みとしては、これまでの実績から、①大学案内や進学相談会で本学に興味を持ち、②高校内説明会で確認、③オープンキャンパス参加により志願決定・受験対策、④早期の受験日程で受験、という構図ができており、詳細については以下に示す。観光文化学科においても同様に高校生との接触機会を増やし、オープンキャンパスで体験授業や先輩との交流を経て本学を知ってもらう取り組みを実施し学生を確保する。入試広報において必要不可欠な大学案内については、観光文化学科のみの別冊を製作することで、詳細に説明するための材料とし、観光分野に関心のある志願者層にピンポイントでアプローチし、学生確保につなげる計画である。

また、ホームページや SNS を利用した Web 広報活動や、新聞・交通広告を利用した広報活動により観光文化学科の設置を幅広く周知し認知度の向上を目指す。

2023 年 7 月現在において、観光文化学科に興味のある高校生は、オープンキャンパスでは、3 月、5 月、6 月の 3 回でのべ 79 人、高校内説明会では 42 人、会場型ガイダンスでは 68 人、高校内ガイダンスでは 21 人、合計のべ 210 人の高校生が観光文化学科に関心を寄せており、高校生からは、県内の私立大学に観光系の学科の設置計画があると聞いて進路の方向が定まった、ぜひ実現して欲しいといった声が多数寄せられている。これまで私立大学の観光系を志望する県内の高校生は県外へ志願しなければならず、中には県外という立地により希望する進路を諦めた高校生もいるだろう。そのような状況で本学の観光文化学科が県内で志願できる受け皿を担うことは新たな受験者の開拓にもつながる。

以下の取り組みを通して、全国でも有数の観光地である沖縄県において専門知識を学ぶ意義、実務経験を多く有する教員による魅力ある授業など観光文化学科の特色を積極的に提供することで入学者を確保する。

1) オープンキャンパスの実施

本学では、年 6 回程度の対面型オープンキャンパスを実施している。5 月・6 月・3 月は本学の雰囲気や教育内容等、全般的なことを知ってもらうための内容で、体験授業や在学生との交流を主なプログラムとしている。7 月・8 月・11 月は入試直前対策や相談コーナーを主なプログラムとしている。まずは本学を知り、雰囲気を体験し、受験対策につなげる形で、2 回オープンキャンパスに参加するよう勧めている。

現状では、新型コロナ対策の一環として複数回実施することによって、1 回あたりの参加人数を 100 人以内に抑えることで感染対策やきめ細かな対応ができていたが、対面型にこだわることで、参加者からは学院の雰囲気や先輩の話が聞けて良かったとの感想が多くあり、オープンキャンパスが進路選択のきっかけとなっていることがわかっている。

既設の英語コミュニケーション学科の場合、2022 年度入学生 104 人のうち、1 回以上のオープンキャンパス参加者は 83 人（80%）で、オープンキャンパスは学生確保において大きな効果が見込まれる。また、最初に行われる総合型選抜（A 日程）で早期に進路決定したいニーズもあり、2022 年度入試では 75 名の出願があり、全体の出願人数 116 名の 65%を占め、73 名が入学している。

2023 年度総合型選抜（A 日程）入試では、64 名の出願があり、全体の出願人数 100 名のうち 64%を占め、合格した 64 名全員が入学見込みである。また、64 名のうち 61 名（95%）がオープンキャンパスに参加、うち 35 名の半数以上が複数回参加しており、本学を知ったうえで受験対策を行い、第一志望として受験している。

観光文化学科においても、実際のキャンパスを見て、まずは観光の専門家である教員から観光の持つポテンシャルや可能性を踏まえた学科の教育内容や特徴を説明し、教員の専門分野を生かしたホテルや航空関連、クルーズ船、観光分野で必要な語学等の体験授業を実施する。2023 年度は、新型コロナに関する規制も落ち着くことから、参加人数も増加する見込みである。

2) 高校訪問・高校内説明会

入試課職員 3 人が担当制で定期的に高校進路指導部を訪問し、オープンキャンパスの案内や意見交換を行っている。進路指導部の担当教員は通常 2 年程度で交代するため新任で担当される先生が多く、本学のことだけではなく他大学を含めた入試制度や変更点、奨学金等の情報提供を積極的に行い、信頼関係が構築されている。また、沖縄県内の高校では、実業系（商業・工業・農林）や総合学科の高校生の進学意識が高まる傾向にあり、当該科を擁する高校訪問をした際には、進路担当教員より、観光と琉球やアジアの文化を学び、大学卒という学位を得て地域に貢献できる観光系に就職したいという高校生のニーズにマッチし、観光文化学科に関心を寄せる生徒は多いと思うとの見解が寄せられている。

2020 年度からは新型コロナの影響により進学相談会が相次いで中止し、また、外部の進学相談会に積極的に参加を促せない高校も多く参加者の減少となったことを踏まえ、2021 年度からは希望者を集めた高校内での説明会を積極的に実施し、オープンキャンパス参加につなげている。高校内で開催する利便性や本学にある程度興味のある生徒がより深く知るための場として機能しており、オープンキャンパス申込 QR コードの付いたチラシを配付し、具体的なプログラムの説明や参加を呼びかけている。

2021 年度は、延べ 41 校で実施し、高校 3 年生を中心に 330 人が参加し、2022 年度は、オープンキャンパス前の 5 月から 7 月にかけて、延べ 40 校で実施し、356 名が参加した。2023 年度総合型選抜（A 日程）入試に出願した既卒生を除く高校生 63 名のうち 36 名が高校内での説明会にも参加し、全員が入学見込みである。

前述の「高校生進学意向調査」では、高校生が回答するにあたって必要な観光文化学科の情報を明示していたが、概要に留まり詳細な教育内容等までは把握できないため、調査結果の自由記述では、ポジティブな意見に加えて興味・関心を伺わせる具体的な教育内容への質問が多くみられた。それは、「Q6）受験意向」を「受験したいと思う」、「Q7）入学意向」を「併願校の可否により入学を検討する」と回答した者 110 人のうち、Q9（意見・要望／自由記述）にコメントを記載していた 26 人においても同様であった（【資料 5】p 32）。そのため、まずは進路指導部の担当教員に対して観光文化学科の内容に対する理解を促し、高校内説明会において入学意向がある高校生にはもちろんのこと、併願希望の高校生に対しても丁寧に説明していく。説明にあたっては、大学案内や自由記述を参考にした Q&A をもとに、入試課職員に加えて観光文化学科に配属予定の教員が協力し、観光の専門家である教員の経験を踏まえた観光の持つ魅力や可能性、また、大学進学によりアカデミックな専門性を身につけて社会で働くことの意義などを具体的に説明することで確実な学生確保につなげていく。

次年度以降も積極的に高校側へアピールし、高校内説明会が開催可能な高校の増加に努めることでこれまで以上の学生確保を目指す。

3) 進学相談会

離島を含む沖縄県内各地で企業や団体が実施する有料の進学相談会に入試課職員と教員が積極的に参加している。高校生と接触する機会を増やすことで、本学に興味のなかった高校生へのアプローチにもつながっている。2020 年度は新型コロナにより相次いで中止となった

ものの、2021 年度は、会場型に 29 回、高校内相談会に 42 回参加し、延べ約 850 名の高校生と接触することができた。2022 年度は、会場型に 42 回、高校内相談会に 73 回参加し、延べ約 1800 名の高校生と接触することができた。名簿が取得できた参加者のその後の状況を見ると、2023 年度総合型選抜（A 日程）入試に出願した既卒生を除く高校生 63 名のうち 31 名が何らかの進学相談会に参加しており、入学見込みである。近年は、語学・国際や社会・観光学等の高校生の職業選択のための分野別進学相談会も増加しており、本学では観光文化学科の設置を踏まえて、観光、ホテル、航空系の仕事等の分野別進学相談会のオファーを受けるようになり、教員が積極的に参加している。本学の認知度を上げるために次年度以降も積極的に参加する。

4) 地域・社会への広報活動

新設の観光文化学科について、新聞広告、バス等の交通広告を利用して高校生を含む幅広い層への周知を図り、まずは地域・社会全体への認知度の向上を目指す。また、本学ホームページでは特設ページを設けて広くアピールするとともに、電子版大学案内に加え、「高校生進学意向調査」の自由記述で寄せられている質問に対して応えられる情報掲載を目指し、高校生への興味・関心を促す。

さらに、近年、本学の広報活動では SNS 発信に注力している。実際に高校生個人からの直接の質問等への対応もみられるため、引き続き、積極的に発信していくことで学生確保につなげていく。

2. 人材需要の動向等社会の要請

（1）人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

本学が所在する沖縄県は、美しい海や豊かな自然環境、複数の世界遺産を有する国際的な観光立県である。沖縄県は、昔から受け継がれてきた伝統文化、平和を伝える精神、独自の歴史、温かいホスピタリティを、大切な資源と捉えて観光に生かしてきた。

2018 年、沖縄県の入域観光客(インバウンド含む)が、初の 1,000 万人台を突破して 1,016 万 3,900 人という過去最高を記録したことを受け、これからの沖縄県にとって、観光が今まで以上に重要性を深めていくものと推察された。その後、新型コロナの影響で、観光全般に落ち込みが見られたものの、行動制限がなくなった 2022 年後期には、新型コロナ前の水準近くまで戻ってきていることから、今後さらなる観光関連需要の発展が期待されている。

沖縄県に限らず、国内外で上昇していくと推測される観光需要に対応するためにも、これからの観光人材は、観光に関する専門的知識の習得は勿論のこと、沖縄県が有する強みであるソフトパワー（自然・歴史・文化）の価値を見出し、実践する力を兼ね備え、質の高いサービスを提供できる人材である。量・質ともに地域社会に貢献していく人材を確保していくためには、ソフトパワーの専門的な知識を理解し、観光に関する多様な課題を積極的に解決できる人材の育成が急務である。

このような動向に対して、沖縄県内には、観光の知識を専門的に習得することを目的とした学

科を有する大学は、北部地域に公立大学が1大学あるものの、人口が集中している中・南部地域においては、国立大学1大学において、観光地域デザインプログラムコースを設けるのみに留まっている。このように、沖縄県、中・南部地域においては、観光の専門的知識を学ぶことのできる観光系学科を有する大学は不足しており、私立大学では皆無であることから、本学科の必要性は高くなっている。

沖縄県が2022年7月に策定した「第6次沖縄県観光振興基本計画」は、沖縄県が持つソフトパワーを生かした付加価値の高いツーリズムを最大限発揮することによって、「世界から選ばれる持続可能な観光地」の実現を目指すことを計画の意義として定めている。

政府においては、2003年1月の「観光立国宣言」の宣言以降、観光が重要な国家の政策課題の一つとして位置付けられ、その後、2006年12月「観光立国推進基本法」、2017年3月「観光立国推進基本計画」の策定を経て、観光立国計画が具体化していく過程において、新型コロナによる打撃を受けたが、我が国の観光を持続可能な形で復活させるため、2023年3月には新たな「観光立国推進基本計画」の策定が予定されている。観光庁は、観光立国の復活を実現するためには、地域が一丸となって個性あふれる観光地域を作り上げ、その魅力を自ら積極的に発信していくことで、高付加価値旅行者の拡大を図り、自然・文化を保全しつつ、活気にあふれた持続可能な観光地域づくりの推進を提唱している。

観光文化学科が養成する人材像は、国や沖縄県が着目している「地域」が持つソフトパワーを見出し、持続可能な観光を基軸とした文化振興や地域振興に、積極的に貢献できる人材である。「光を観る」という観光の学びとして、歴史・文化の本質を理解したうえで、文化資源及び観光資源の光の価値を認識し、多様化するグローバル社会において国内外へ発信できる人材、さらに、他地域との比較によりそれらに対する新たな価値を創出し、文化振興及び観光振興に貢献できる観光産業の発展に寄与できる優れた観光人材を養成する。

本学科の教育研究上の目的は、グローバル社会の中で生じる広範な情報リテラシーを身につけ、豊かな人間性と主体性を持って自らの考えを表現できる行動力を培い、外国語を駆使して多様性社会の人々とコミュニケーションを図り、国際的な視野で地域の文化・歴史の魅力を発信し、観光分野や観光関連分野、および、地域社会・国際社会の発展にリーダーシップを発揮して貢献できる能力を修得させることである。

卒業後の進路先としては、地方公共団体、観光協会、文化振興や観光振興系のNPO法人、宿泊業（ホテル・旅館等）、旅行業（旅行代理店、ツアーコンダクター等）、運輸業（客室乗務員、航空会社、船社等）、製造・小売業、レジャー業への従事を想定している。

（2）上記（1）が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

1）社会及び地域における人材需要の需給見通し

2018年、沖縄県の入域観光客（インバウンド含む）が、1000万人台を突破して1,016万3,900人という過去最高を記録したことを受け、これからの沖縄県にとって、観光が今まで以上に重要性を深めていくものと推察された。その後、新型コロナウイルス（以下、「新型コロナ」という。）の影響で、観光全般に落ち込みが見られたものの、行動制限がなくなった2022年後期には、新型コロナ前の水準近くまで戻ってきていることから、今後さらなる発展が期待

されている。そのため、沖縄県における観光は、今後ますます重要な位置を占めていくことが想定され、沖縄県の持つ強みを生かして活用できる観光人材の育成と確保が求められている。

本学科が養成する人材像は、国や沖縄県が着目している「地域」が持つソフトパワー（自然・歴史・文化）を見出し、持続可能な観光を基軸とした文化振興や地域振興に、積極的に貢献できる人材である。「光を観る」という観光の学びとして、歴史・文化の本質を理解したうえで、文化資源及び観光資源の光の価値を認識し、多様化するグローバル社会において国内外へ発信できる人材、さらに、他地域との比較によりそれらに対する新たな価値を創出し、観光産業の発展に寄与できる優れた観光人材の養成を目指しており、このことは、社会及び地域における人材需要の動向とも軌を一にすると考えている。その根拠として、我が国の「観光立国推進基本計画」、及び、沖縄県の「第6次沖縄県観光振興基本計画」との合致が挙げられる。

沖縄県が2022年7月に策定した「第6次沖縄県観光振興基本計画」は、沖縄県が持つソフトパワーを生かした付加価値の高いツーリズムを最大限発揮することによって、「世界から選ばれる持続可能な観光地」の実現を目指すことを計画の意義として定めており、2023年3月に新たな策定が予定されている「観光立国推進基本計画」においては、地域が一丸となって個性あふれる観光地域を作り上げ、その魅力を自ら積極的に発信していくことで高付加価値旅行者の拡大を図り、自然・文化を保全し、活気にあふれた持続可能な観光地域づくりの推進を提唱している。沖縄県、及び、観光庁が着目している「地域」が持つソフトパワー（自然・歴史・文化）、持続可能な観光地、付加価値の高いツーリズム等の趣旨は、本学科が目指しているソフトパワーを見出し、持続可能な観光を基軸とした文化振興や地域振興に積極的に貢献できる人材像と合致していることから、本学科の社会的な必要性を明らかにしている。

本学地域における人材需要の需給見通しとして、沖縄観光を強力に推進する一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー、および、本学が立地する西原町地域からは、本学科の設置によって新たな地域資源の活用を創出や、観光振興・文化振興の発展に寄与する人材育成について期待が寄せられ、本学科設置への「要望書」を得ていることから、地域的な必要性も認められる。関係団体等からの要望書については、次項2項に詳細を記している。

また、後述するように社会人材需要を把握するため、企業、関係団体等を対象に、人材需要に関する採用意向調査（以下、「採用意向調査」という）を実施した。本調査では、卒業生に対する一定もしくは安定した採用需要があるという結果が得られ、一概に社会人材需要が安定的にということはいえないものの、一定以上の人材需要があることが明らかになった。採用意向調査の詳細および資料は、次項5項に示している。

2) 関係団体等からの要望等

本学が所在する沖縄県では、「第6次沖縄県観光振興基本計画」（2022年7月策定）において、沖縄県が持つソフトパワー（自然・歴史・文化）を生かした付加価値の高いツーリズムを最大限発揮することによって、「世界から選ばれる持続可能な観光地」の実現を目指すことを計画の意義として定めており、観光文化学科の設置の趣旨とも合致していることから、沖縄

県の賛同を得ることができている。

また、沖縄観光を強力かつ効率的に推進する官民一体型の県内唯一の母体である、一般財団法人沖縄観光コンベンションビューローや、本学が立地する西原町からは、新たな地域資源の活用を創出し、観光振興・文化振興の発展に寄与する人材育成について期待を寄せていただき、学科設置への要望を得ている。

これらを証する賛同書、要望書は、資料編へ添付する【資料9】。

さらに、「事業所採用意向調査」結果では、観光文化学科の設置の必要性について、沖縄県内事業所108事業所のうち「必要性を感じる」が66事業所(61.1%)、「ある程度の必要性を感じる」が37事業所(34.3%)で、これらの合計は103事業所(95.3%)となり、県内の9割以上の事業所が新学科設置について必要性を感じているという結果を得ている【図表12】。

【図表12】所在地が沖縄県の事業所における観光文化学科の必要性に関する意向

Q2)にて 「沖縄県」 と回答した層 (108事業所)	Q7)学科設置の必要性	回答数(事業所)	構成比(%)
	必要性を感じる	66	61.1%
	ある程度の必要性を感じる	37	34.3%
	あまり必要性を感じない	2	1.9%
	必要性を感じない	0	0.0%
	無回答・無効回答	3	2.8%

3) 観光系分野の卒業後の進路

学際的な分野である観光の学びを教授する学科系統は、主に人文科学及び社会科学にみられるが、本学の観光文化学科は、国や沖縄県が着目している「地域」の持つパワーを見出し、観光を基軸とした文化振興や地域振興に積極的に貢献できる人材、そして、国際的な視野で地域の文化・歴史の魅力を発信できる人材の育成に重きを置いていることから、歴史・文化関連や語学関連の学びを充実させ、観光学の学びにつなげる教育課程を編成しているため、人文学部に設置し、学科系統としては人文科学に当てはまる。

そこで、文部科学省の学校基本調査における全国の大学の産業別就職者数より、観光文化学科が就職先に想定する業種として、「製造業の内の食料品・飲料・たばこ・飼料製造業」、「運輸業、郵便業」、「宿泊業、飲食サービス業」、「生活関連サービス業、娯楽業」、「卸売業、小売業の内の小売業」の就職者数を抽出し、過去5年間の学科系統別就職者数をみるところ図表13のとおりとなった。

各年度とも社会科学が4割弱で最も多くなっている。人文科学は次いで約2割、その他の分野がそれぞれ1割未満となっており、想定する業種への分野としては、その他の分野より人文科学が優位であることが窺える。ただし、前述のとおり観光分野が含まれる社会科学分野からの就職者数が多いことに対しては、国や沖縄県の政策とも鑑み、観光文化学科の特色である歴史・文化資源の学びの重要性を企業、関係団体等へ理解を促し、より多くの進路先の確保に努めていく。

また、後述の「事業所採用意向調査」における採用人数意向の結果では、「ぜひ採用したい」のみで230人、「採用したい」まで含めると326人で、「ぜひ採用したい」が入学定員（90人）の2.6倍、「採用したい」まで含めると3.6倍となり、卒業後の進路先として一定の採用需要があると見込んでいる。

【図表13】

想定する業種の学科系統別就職者数

(単位：人)

	2018年3月		2019年3月		2020年3月		2021年3月		2022年3月	
人文科学	18,707	22.0%	18,626	21.6%	19,068	22.0%	15,964	20.1%	15,552	20.2%
社会科学	32,399	38.0%	32,473	37.6%	32,700	37.7%	31,069	39.1%	29,686	38.7%
理学	1,276	1.5%	1,303	1.5%	1,161	1.3%	1,121	1.4%	941	1.2%
工学	4,135	4.9%	4,001	4.6%	3,716	4.3%	3,382	4.3%	3,034	4.0%
農学	3,588	4.2%	3,548	4.1%	3,374	3.9%	3,039	3.8%	2,807	3.7%
保健	5,905	6.9%	6,554	7.6%	6,451	7.4%	6,271	7.9%	6,402	8.3%
商船	21	0.0%	17	0.0%	31	0.0%	38	0.0%	39	0.1%
家政	6,077	7.1%	6,149	7.1%	5,954	6.9%	6,053	7.6%	5,782	7.5%
教育	4,492	5.3%	4,449	5.2%	4,409	5.1%	4,002	5.0%	3,822	5.0%
芸術	1,944	2.3%	2,092	2.4%	2,134	2.5%	1,854	2.3%	1,894	2.5%
その他	6,613	7.8%	7,134	8.3%	7,826	9.0%	6,730	8.5%	6,847	8.9%
合計	85,157	100.0%	86,346	100.0%	86,824	100.0%	79,523	100.0%	76,806	100.0%

参照：学校基本調査

4) 既設学科（現行）の就職状況

既設学科の人文部英語コミュニケーション学科の過去5年間の就職状況は、就職率が80～90%代で推移し、比較的高い就職率を保っており、観光文化学科においても同様に就職関連を担当する部署のサポート体制のもと高い就職率を目指す。

業種別就職実績は図表14のとおりとなっており、このうち観光文化学科が想定する業種の「E 製造業」「H 運輸業、郵便業」「I 卸売業・小売業」「M 宿泊業、飲食サービス業」「N 生活関連サービス業、娯楽業」を抽出し、就職者数全体における割合をみたところ、4～5割を占めている。既設学科において既に関連する業種の就職先が十分に存在しているため、観光文化学科においても同様に関連業種の求人が見込め、就職先が確保できるものとする。

【図表14】

英語コミュニケーション学科 過去5年（2017～2021年度）の業種別就職実績

業 種	2017年度				2018年度				2019年度				2020年度				2021年度			
	正規	非正規	計	割合	正規	非正規	計	割合	正規	非正規	計	割合	正規	非正規	計	割合	正規	非正規	計	割合
D 建設業	2	0	2	3.6%	2	0	2	2.8%	2	0	2	2.8%	1	1	2	2.6%	3	0	3	3.7%
E 製造業	5	1	6	10.7%	3	0	3	4.2%	4	0	4	5.6%	3	0	3	3.9%	2	0	2	2.5%
G 情報通信業	1	0	1	1.8%	9	0	9	12.7%	7	2	9	12.7%	6	1	7	9.1%	4	0	4	4.9%
H 運輸業、郵便業	5	2	7	12.5%	11	0	11	15.5%	6	0	6	8.5%	1	0	1	1.3%	1	0	1	1.2%
I 卸売業・小売業	8	0	8	14.3%	12	1	13	18.3%	8	6	14	19.7%	4	7	11	14.3%	16	4	20	24.7%
J 金融業・保険業	5	0	5	8.9%	3	0	3	4.2%	5	0	5	7.0%	4	0	4	5.2%	5	1	6	7.4%
K 不動産業、物品賃貸業	3	0	3	5.4%	1	0	1	1.4%	3	0	3	4.2%	2	1	3	3.9%	1	0	1	1.2%
L 学術研究、専門・技術サービス業	3	0	3	5.4%	1	0	1	1.4%	2	0	2	2.8%	2	1	3	3.9%	6	0	6	7.4%
M 宿泊業、飲食サービス業	2	0	2	3.6%	10	2	12	16.9%	5	0	5	7.0%	11	2	13	16.9%	9	2	11	13.6%
N 生活関連サービス業、娯楽業	1	0	1	1.8%	3	0	3	4.2%	4	0	4	5.6%	2	1	3	3.9%	3	3	6	7.4%
O 教育、学習支援業	1	3	4	7.1%	0	3	3	4.2%	3	3	6	8.5%	1	10	11	14.3%	1	4	5	6.2%
P 医療、福祉	3	2	5	8.9%	4	0	4	5.6%	1	1	2	2.8%	4	3	7	9.1%	3	2	5	6.2%
Q 複合サービス事業	0	0	0	0.0%	0	0	0	0.0%	3	0	3	4.2%	2	0	2	2.6%	3	0	3	3.7%
R サービス業（他に分類されないもの）	5	1	6	10.7%	5	1	6	8.5%	3	1	4	5.6%	3	1	4	5.2%	3	2	5	6.2%
S 公務（他に分類されるものを除く）	0	2	2	3.6%	0	0	0	0.0%	2	0	2	2.8%	0	1	1	1.3%	2	1	3	3.7%
T 分類不能の産業	1	0	1	1.8%	0	0	0	0.0%	0	0	0	0.0%	1	1	2	2.6%	0	0	0	0.0%
観光文化学科が想定する業種を抽出 (E,H,I,M,N)	21	3	24	42.9%	39	3	42	59.2%	27	6	33	46.5%	21	10	31	40.3%	31	9	40	49.4%
合計<正規・非正規> ①	45	11	56	100.0%	64	7	71	100.0%	58	13	71	100.0%	47	30	77	100.0%	62	19	81	100.0%
正規率	80.4%				90.1%				81.7%				61.0%				76.5%			
非正規率	19.6%				9.9%				18.3%				39.0%				23.5%			
就職希望者 ②	58				78				80				93				99			
就職率 (①/②)	96.6%				91.0%				88.8%				82.8%				81.8%			

※各年度の数値は、翌年度5月1日現在の値である。

※非正規は、雇用契約が一年以上かつフルタイム勤務を示す。

また、観光文化学科設置の元となる併設短期大学英語科の過去5年間の就職状況は、就職率が80～90%代で推移し、業種別就職実績は図表15のとおりである。

このうち観光文化学科が想定する業種の「E 製造業」「H 運輸業、郵便業」「I 卸売業・小売業」「M 宿泊業、飲食サービス業」「N 生活関連サービス業、娯楽業」を抽出し、就職者数全体における割合をみたところ、およそ5～7割を占めている。特に、英語科では2019年度入学生の教育課程より「国際観光ビジネス群」の科目区分を設け、より明確にビジネス関連科目で観光を取り上げ教授してきており、この教育課程で学んだ学生の就職実績として2020年度の割合は72.5%と高くなっている。観光文化学科では、英語科の教育課程をより発

展させた形で編成しているため、想定する業種への高い就職率が期待できる。

【図表 15】

英語科 過去 5 年（2017～2021年度）の業種別就職実績

業 種	2017年度				2018年度				2019年度				2020年度				2021年度			
	正規	非正規	計	割合	正規	非正規	計	割合	正規	非正規	計	割合	正規	非正規	計	割合	正規	非正規	計	割合
D 建設業	1	1	2	4.7%	0	0	0	0.0%	0	0	0	0.0%	0	1	1	2.5%	2	0	2	4.3%
E 製造業	3	0	3	7.0%	2	0	2	4.8%	0	0	0	0.0%	0	0	0	0.0%	0	0	0	0.0%
G 情報通信業	1	1	2	4.7%	0	0	0	0.0%	0	0	0	0.0%	0	0	0	0.0%	3	1	4	8.5%
H 運輸業、郵便業	1	1	2	4.7%	7	0	7	16.7%	6	0	6	20.7%	0	0	0	0.0%	1	0	1	2.1%
I 卸売業・小売業	6	1	7	16.3%	7	4	11	26.2%	9	0	9	31.0%	11	7	18	45.0%	4	4	8	17.0%
J 金融業・保険業	5	0	5	11.6%	2	0	2	4.8%	0	0	0	0.0%	1	0	1	2.5%	1	0	1	2.1%
K 不動産業、物品賃貸業	0	0	0	0.0%	3	0	3	7.1%	1	0	1	3.4%	0	0	0	0.0%	1	0	1	2.1%
L 学術研究、専門・技術サービス業	1	1	2	4.7%	1	0	1	2.4%	0	0	0	0.0%	0	0	0	0.0%	1	3	4	8.5%
M 宿泊業、飲食サービス業	5	0	5	11.6%	4	0	4	9.5%	3	0	3	10.3%	3	5	8	20.0%	7	5	12	25.5%
N 生活関連サービス業、娯楽業	3	1	4	9.3%	2	0	2	4.8%	2	0	2	6.9%	2	1	3	7.5%	1	3	4	8.5%
O 教育、学習支援業	0	2	2	4.7%	1	1	2	4.8%	1	0	1	3.4%	0	0	0	0.0%	0	0	0	0.0%
P 医療、福祉	6	1	7	16.3%	1	1	2	4.8%	3	0	3	10.3%	2	1	3	7.5%	4	0	4	8.5%
Q 複合サービス事業	0	0	0	0.0%	0	0	0	0.0%	0	0	0	0.0%	0	0	0	0.0%	0	0	0	0.0%
R サービス業（他に分類されないもの）	0	2	2	4.7%	1	4	5	11.9%	3	1	4	13.8%	0	2	2	5.0%	2	0	2	4.3%
S 公務（他に分類されるものを除く）	0	0	0	0.0%	0	1	1	2.4%	0	0	0	0.0%	0	4	4	10.0%	1	2	3	6.4%
T 分類不能の産業	0	0	0	0.0%	0	0	0	0.0%	0	0	0	0.0%	0	0	0	0.0%	1	0	1	2.1%
観光文化学科が想定する業種を抽出 (E,H,I,M,N)	18	3	21	48.8%	22	4	26	61.9%	20	0	20	69.0%	16	13	29	72.5%	13	12	25	53.2%
合計<正規・非正規> ①	32	11	43	100.0%	31	11	42	100.0%	28	1	29	100.0%	19	21	40	100.0%	29	18	47	100.0%
正規率	74.4%				73.8%				96.6%				47.5%				61.7%			
非正規率	25.6%				26.2%				3.4%				52.5%				38.3%			
就職希望者 ②	46				46				33				44				56			
就職率 (①/②)	93.5%				91.3%				87.9%				90.9%				83.9%			

※各年度の数値は、翌年度5月1日現在の値である。

※非正規は、雇用契約が一年以上かつフルタイム勤務を示す。

5）企業、関係団体等への人材需要に関する採用意向調査

企業、関係団体等への人材需要を把握するため、「事業所採用意向調査」（以下、「採用意向調査」という）を実施した。調査にあたっては、客観性を担保するために第三者機関（丸善雄松堂株式会社）へ実施・集計・分析を委託した。第三者調査機関による調査報告書は資料編に添付する【資料 10】。

調査対象は、前述の観光文化学科の養成する人材像や教育研究上の目的、関係団体等からの要望等をふまえ、沖縄県内の観光関連団体・事業所等を中心に据えながら、全国展開する企業等の本社が位置する東京都や大阪府より合わせて 500 事業所を抽出した。事業所の種別は、卒業後の進路先として想定する地方公共団体、各種団体、NPO 法人、宿泊業、旅行業、運輸業、製造・小売業、レジャー業等とした。実施の際は、高校生進学意向調査と同様に、アンケート調査票に加えて、観光文化学科の情報を明示した。

回答は、500 事業所中 131 事業所（回収率 26.2%）から得ることができ、調査結果から人材需要について以下のとおり分析した。

観光文化学科の卒業生の採用意向は、「ぜひ採用したい」が 48 事業所（内 1 事業所は人数未回答）229 人、「採用したい」が 54 事業所（内 3 事業所は人数未回答）93 人となっており、こ

これらの合計は人数を回答した事業所のみで 322 人（人数未回答を含まない）となっている【図表 16】。

【図表 16】採用意向（人数未回答を含まない）

Q8)採用意向	採用希望人数内訳（人）	
ぜひ採用したい	48事業所→計229人	内、1事業所→未回答
採用したい	54事業所→計93人	内、3事業所→未回答
合計	322人	

この結果に関し、実際に採用に至るか否かについては就職希望者個人の人格や能力が大きく影響すると思われるが、「ぜひ採用したい」に加えて、「採用したい」までを採用需要として定義し、上記採用意向で希望人数の記載がなかった事業所の採用意向人数を保守的に 1 事業所当たり 1 人と仮定した場合、観光文化学科卒業生の今後の採用希望人数は、「ぜひ採用したい」のみで 230 人、「採用したい」まで含めると 326 人で、「ぜひ採用したい」が入学定員（90 人）の 2.6 倍、「採用したい」まで含めると 3.6 倍となり、卒業生に対する一定の採用需要があるといえる【図表 17】。

【図表 17】採用意向（人数未回答を含む）

Q8)採用意向	採用希望人数内訳（人）
ぜひ採用したい 48事業所	48事業所229人 + 1事業所1人 = 230人
採用したい 54事業所	54事業所93人 + 3事業所3人 = 96人
合計	326人

また、観光文化学科へのより高い関心を分析するため、卒業生を「ぜひ採用したい」48 事業所(36.6%)、「採用したい」54 事業所(41.2%)と回答した計 102 事業所(77.8%)を「採用意向事業所」と定義し、以下のとおり「採用意向事業所」の傾向を分析した。

採用意向事業所の事業所種別をみると、「宿泊業」23 事業所(22.8%)が最も多く、次いで「その他」17 事業所(16.8%)、「運輸業」15 事業所(14.9%)、「旅行業」13 事業所(12.9%)となっている【図表 18】。宿泊業、運輸業、旅行業では、本学科の特色である語学力やコミュニケーション力（ホスピタリティ）、観光資源の知識（歴史・文化資源）に対する能力が必要であると考えられ、本学科の教育課程がこれら事業所へ十分に貢献でき、採用需要に対しても応えているものとする。

【図表 18】採用意向事業所の種別ごと採用意向

Q1)種別	全体平均		ぜひ採用したい		採用したい		採用意向事業所		dif	採用しない	
調査数	118	100.0%	48	100.0%	53	100.0%	101	100.0%		17	100.0%
地方公共団体	7	5.9%	0	0.0%	7	13.2%	7	6.9%	1.0%	0	0.0%
各種団体	13	11.0%	3	6.3%	7	13.2%	10	9.9%	-1.1%	3	17.6%
NPO法人	5	4.2%	0	0.0%	2	3.8%	2	2.0%	-2.3%	3	17.6%
宿泊業	23	19.5%	21	43.8%	2	3.8%	23	22.8%	3.3%	0	0.0%
旅行業	18	15.3%	6	12.5%	7	13.2%	13	12.9%	-2.4%	5	29.4%
運輸業	18	15.3%	5	10.4%	10	18.9%	15	14.9%	-0.4%	3	17.6%
製造・小売業	12	10.2%	6	12.5%	4	7.5%	10	9.9%	-0.3%	2	11.8%
レジャー業	4	3.4%	2	4.2%	2	3.8%	4	4.0%	0.6%	0	0.0%
その他	18	15.3%	5	10.4%	12	22.6%	17	16.8%	1.6%	1	5.9%

採用意向事業所の所在地は、「沖縄県」89 事業所(88.1%)が最も多く、次いで「東京都」8 事業所(7.9%)、「その他」3 事業所(3.0%)となっている【図表 19】。また、「沖縄県」と回答した採用意向事業所の本学科卒業生の採用意向人数は 262 人となり、入学定員（90 名）を上回っている【図表 20】。この結果は、地元関係団体・企業等からの採用需要が高いことを示しており、本学科が想定する沖縄県内への人材輩出とも合致している。

【図表 19】採用意向事業所の所在地

Q2)所在地	全体平均		ぜひ採用したい		採用したい		採用意向事業所		dif	採用しない	
調査数	116	100.0%	48	100.0%	53	100.0%	101	100.0%		15	100.0%
沖縄県	99	85.3%	43	89.6%	46	86.8%	89	88.1%	2.8%	10	66.7%
東京都	11	9.5%	2	4.2%	6	11.3%	8	7.9%	-1.6%	3	20.0%
大阪府	3	2.6%	1	2.1%	0	0.0%	1	1.0%	-1.6%	2	13.3%
その他	3	2.6%	2	4.2%	1	1.9%	3	3.0%	0.4%	0	0.0%

【図表 20】所在地「沖縄県」の採用意向事業所の採用意向人数

Q2)にて 「沖縄県」 と回答した層 (89事業所)	Q8)採用意向		採用希望人数内訳（人）	
	ぜひ採用したい		43事業所→計180人	内、1事業所→未回答
	採用したい		46事業所→計82人	内、2事業所→未回答
	合計		262人	

採用意向事業所の過去 3 年間の四年制大学新卒者採用事業所数は、「2020 年度」46 事業所(40.4%)が最も多く、「2022 年度」36 事業所(31.6%)、「2021 年度」32 事業所(28.1%)と続いている【図表 21】。また、これら事業所の本学科卒業生の採用意向人数は、「2020 年度」182 人、「2021 年度」140 人、「2022 年度」176 人となっており【図表 22】、四年制大学新卒者の採用実績がある事業所からの採用需要は、信憑性が高いものとする。

【図表 21】採用意向事業所の過去 3 年間の四年制大学新卒者事業所数

Q4)年度別事業所数	全体平均		ぜひ採用したい		採用したい		採用意向事業所		dif	採用しない	
調査数	126	100.0%	74	100.0%	40	100.0%	114	100.0%		12	100.0%
2020年度	50	39.7%	28	37.8%	18	45.0%	46	40.4%	0.7%	4	33.3%
2021年度	37	29.4%	20	27.0%	12	30.0%	32	28.1%	-1.3%	5	41.7%
2022年度	39	31.0%	26	35.1%	10	25.0%	36	31.6%	0.6%	3	25.0%

【図表 22】四年制大学新卒者採用事業所のうち採用意向事業所の卒業生採用意向人数

Q4)にて 採用実績あり と回答した層 <2020年度> (46事業所)	Q8)採用意向	採用希望人数内訳 (人)	
	ぜひ採用したい	28事業所→計141人	人数未回答事業所なし
	採用したい	18事業所→計41人	人数未回答事業所なし
	合計	182人	
Q4)にて 採用実績あり と回答した層 <2021年度> (32事業所)	Q8)採用意向	採用希望人数内訳 (人)	
	ぜひ採用したい	20事業所→計109人	人数未回答事業所なし
	採用したい	12事業所→計31人	人数未回答事業所なし
	合計	140人	
Q4)にて 採用実績あり と回答した層 <2022年度> (36事業所)	Q8)採用意向	採用希望人数内訳 (人)	
	ぜひ採用したい	26事業所→計146人	人数未回答事業所なし
	採用したい	10事業所→計30人	人数未回答事業所なし
	合計	176人	

採用意向事業所の過去 3 年間の人材採用充足状況は、「不足している」が 48 事業所(47.1%)、「やや不足している」が 37 事業所(36.3%)で、これらの合計は 85 事業所(83.4%)となっている【図表 23】。また、これら事業所の本学科卒業生の採用意向人数は、「不足している」が 181 人、「やや不足している」が 85 人で、合わせて 266 人となっており【図表 24】、人材不足の事業所に対して本学科が人材の供給を担えることが窺える。

【図表 23】採用意向事業所の過去 3 年間の人材採用充足状況

Q5)充足状況	全体平均		ぜひ採用したい		採用したい		採用意向事業所		dif	採用しない	
調査数	119	100.0%	48	100.0%	54	100.0%	102	100.0%		17	100.0%
不足している	52	43.7%	32	66.7%	16	29.6%	48	47.1%	3.4%	4	23.5%
やや不足している	42	35.3%	10	20.8%	27	50.0%	37	36.3%	1.0%	5	29.4%
ある程度充足している	15	12.6%	4	8.3%	9	16.7%	13	12.7%	0.1%	2	11.8%
充足している	10	8.4%	2	4.2%	2	3.7%	4	3.9%	-4.5%	6	35.3%

【図表 24】採用意向事業所のうち人材不足事業所の卒業生採用意向人数

Q5)にて 「不足している」 と回答した層 (48事業所)	Q8)採用意向	採用希望人数内訳（人）	
	ぜひ採用したい	32事業所→計154人	内、1事業所→未回答
	採用したい	16事業所→計27人	内、1事業所→未回答
	合計	181人	
Q5)にて「やや 不足している」 と回答した層 (37事業所)	Q8)採用意向	採用希望人数内訳（人）	
	ぜひ採用したい	10事業所→計40人	人数未回答事業所なし
	採用したい	27事業所→計45人	内、1事業所→未回答
	合計	85人	

以上のことから、観光文化学科の卒業生に対しては、企業、関係団体等からの安定的な人材需要があると考ええる。

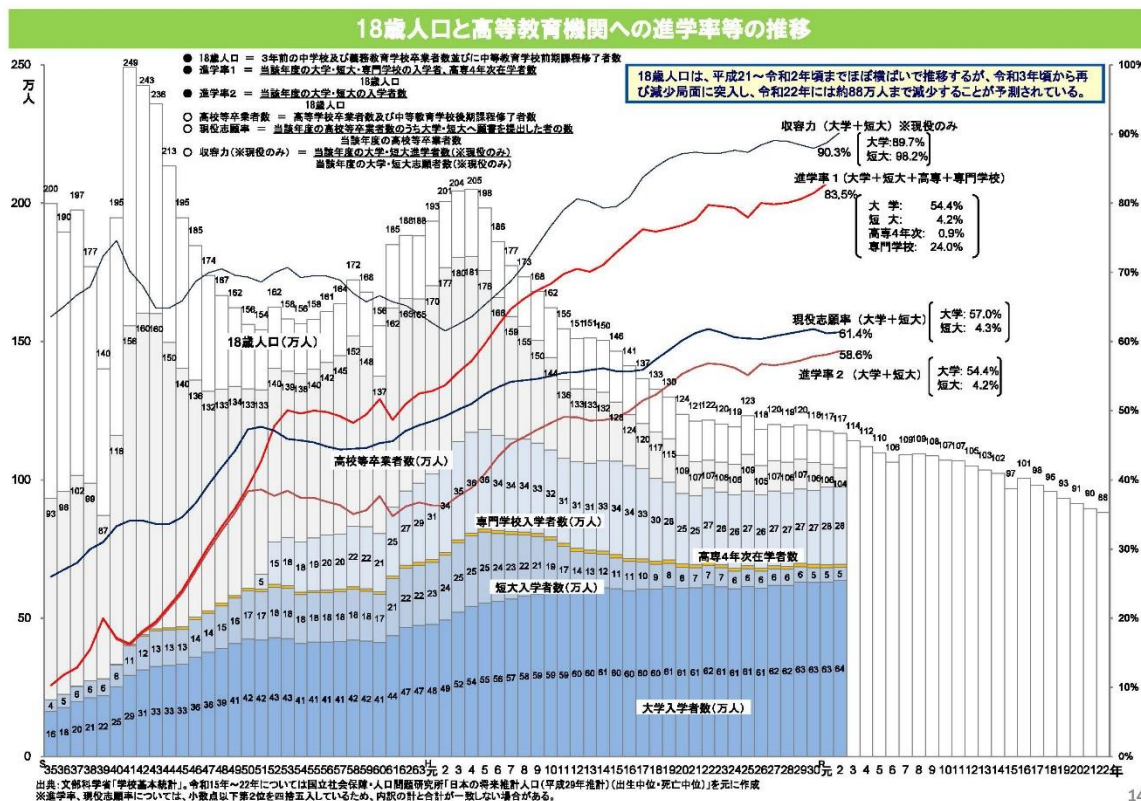
学生の確保の見通し等を記載した書類

資 料 目 次

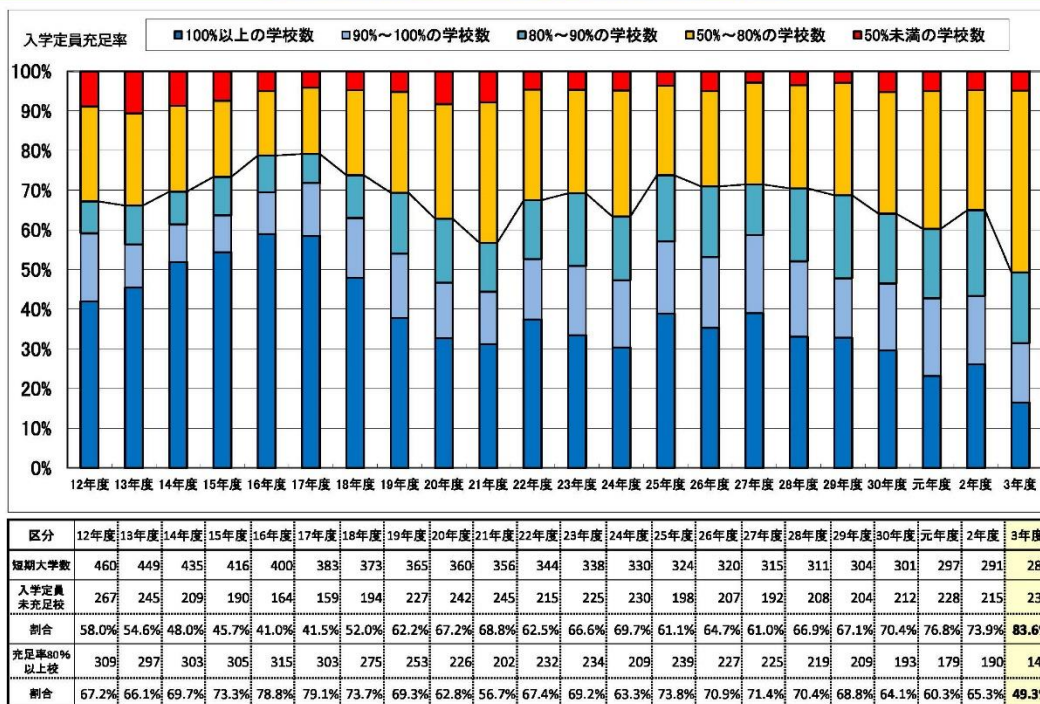
資料 1	短期大学の進学動向	2
資料 2	旅行消費動向	4
資料 3	沖縄県の入域観光客数	5
資料 4	これからの観光動向	7
資料 5	高校生進学意向調査	8
資料 6	人文科学分野の動向	41
資料 7	学部・学科トレンド分析	43
資料 8	18 歳人口及び進学率の動向	44
資料 9	地方公共団体、関係団体からの賛同・要望	45
資料 10	事業所採用意向調査	46

資料1 短期大学の進学動向

出典：文部科学省「これからの時代の地域における大学の在り方について－地方の活性化と地域の中核となる大学の実現－」（審議まとめ）参考資料集



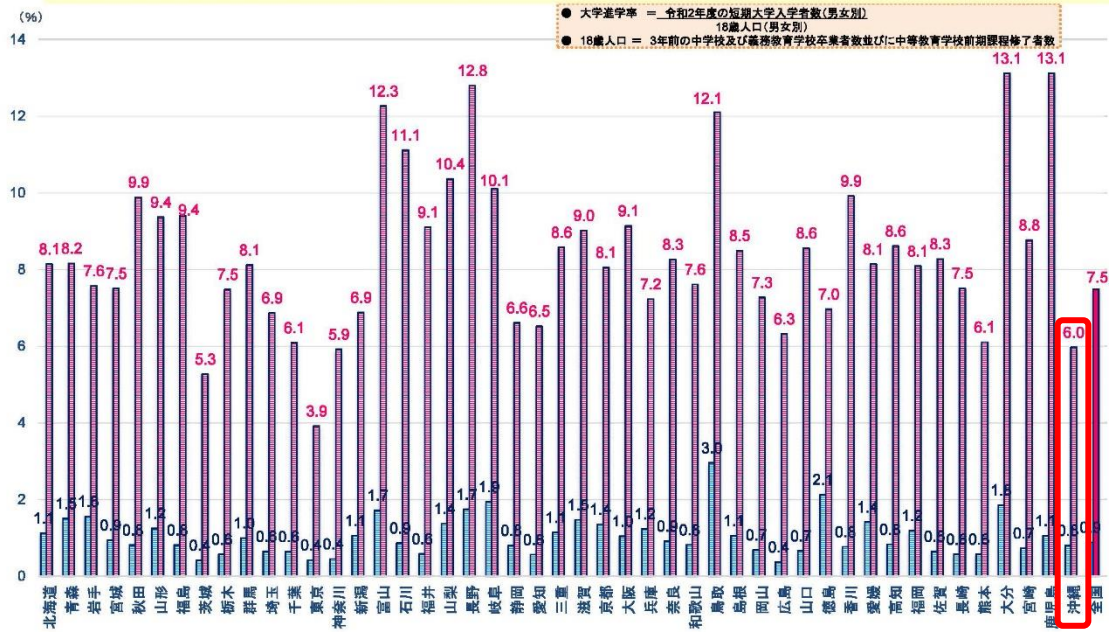
私立短期大学における入学定員充足率の推移



(出典)日本私立学校振興・共済事業団「私立大学・短期大学等入学志願動向」を基に作成

男女別・都道府県別短期大学進学率

短期大学進学率を男女別にみると、全都道府県で女性が男性を上回っており、全国的には女性が7.5%、男性が0.9%となっている。女性の短期大学進学率は、①鹿児島県（13.1%）、②大分県（13.1%）、③長野県（12.8%）の順に高くなっている。

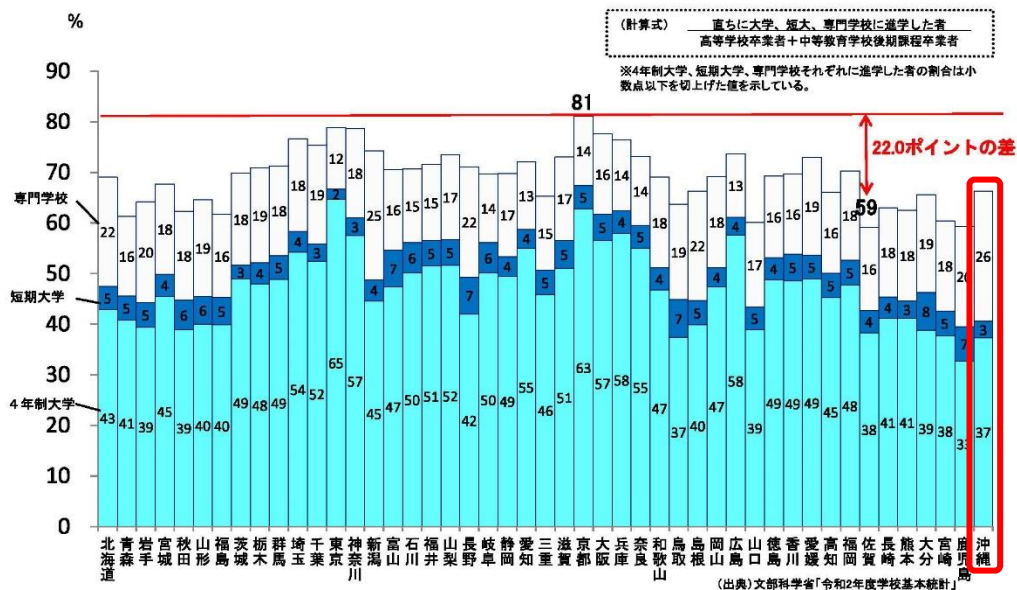


(出典) 文部科学省「令和2年度学校基本統計」

18

都道府県別高校新卒者の4年制大学、短期大学、専門学校への進学率

令和2年度の都道府県別高校新卒者の4年制大学、短期大学、専門学校への進学率は、京都（81.1%）が最も高く、佐賀（59.1%）が最も低い。京都と佐賀では22.0ポイントの差。



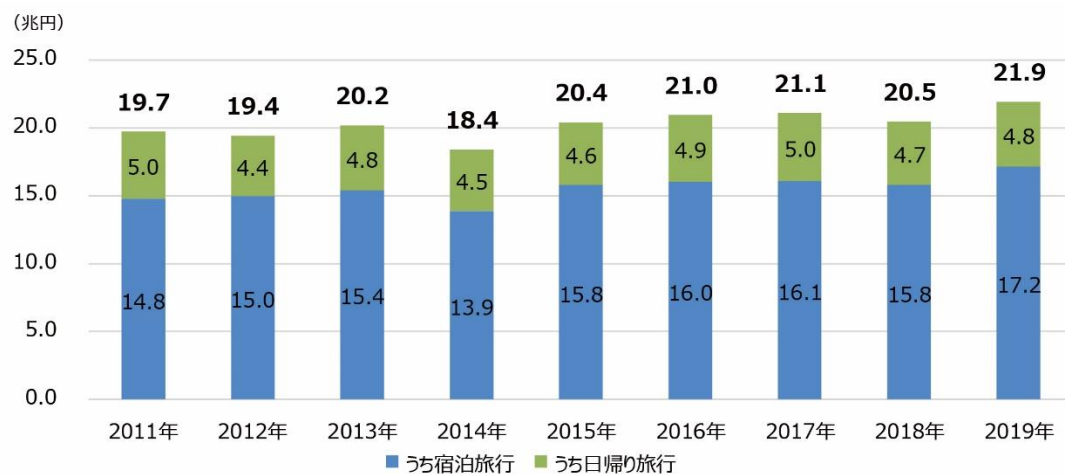
(出典) 文部科学省「令和2年度学校基本統計」

19

資料2 旅行消費動向

出典：観光庁 旅行・観光消費動向調査 2019 年年間値（確報）

日本人国内旅行消費額の推移（確報値）

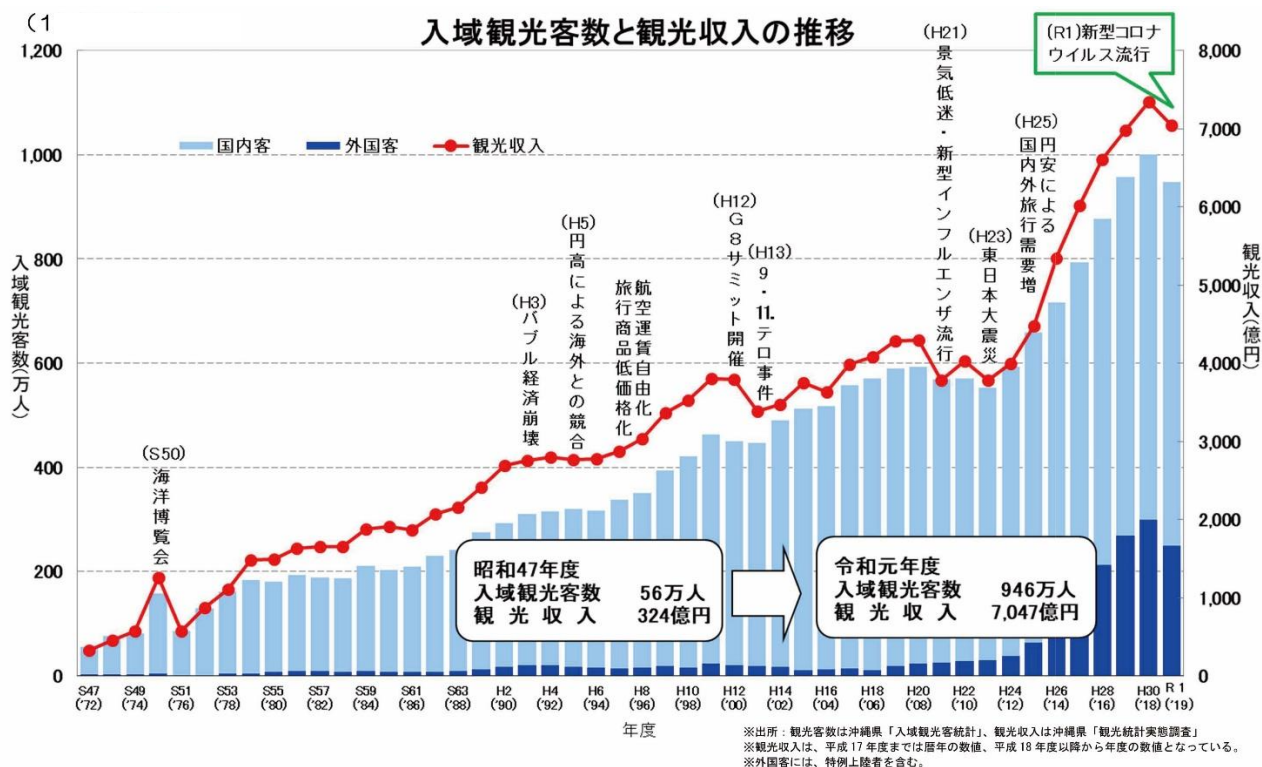


旅行消費額の推移（2011～2019 年）

単位：兆円

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
日本人国内 宿泊旅行	14.8	15.0	15.4	13.9	15.8	16.0	16.1	15.8	17.2
日本人国内 日帰り旅行	5.0	4.4	4.8	4.5	4.6	4.9	5.0	4.7	4.8
日本人海外旅行 （国内分）	1.2	1.3	1.2	1.1	1.0	1.1	1.2	1.1	1.2
訪日外国人旅行	0.8	1.1	1.4	2.0	3.5	3.7	4.4	4.5	4.8
合計	21.8	21.8	22.8	21.6	24.8	25.8	26.7	26.1	27.9

資料3 沖縄県の入域観光客数



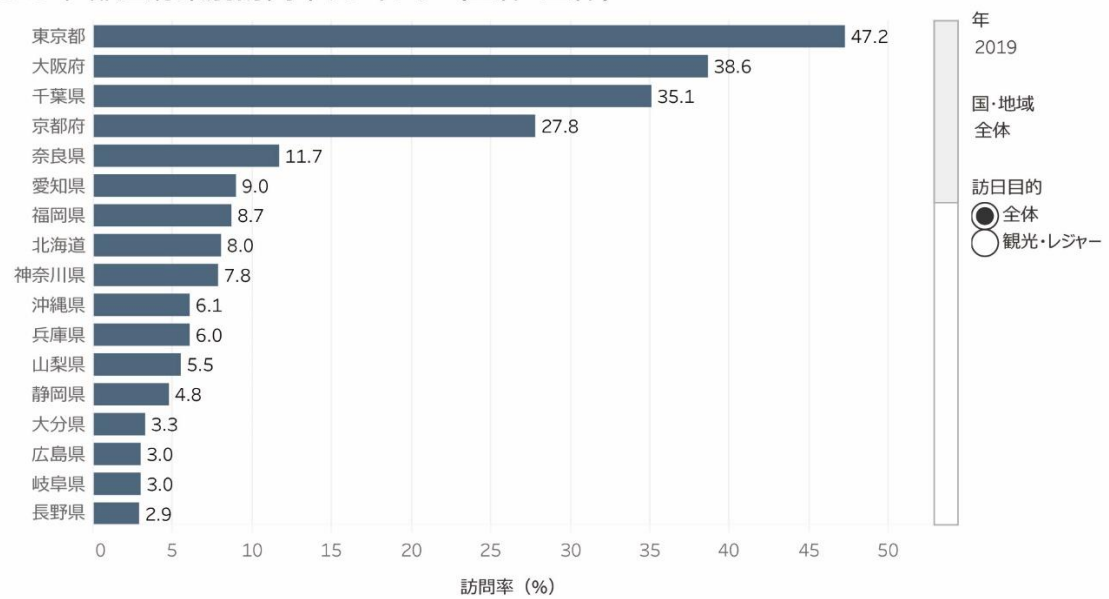
出典：沖縄県 観光要覧 令和元年度版

令和元年度沖縄県の入域観光客数内訳

区分	R1年度	H30年度	増減数	増減率	構成比
国内客	6,978,800 人	7,003,500 人	△ 24,700 人	△ 0.4%	73.7%
外国客	2,490,400 人	3,000,800 人	△ 510,400 人	△ 17.0%	26.3%
合計	9,469,200 人	10,004,300 人	△ 535,100 人	△ 5.3%	100%

出典：沖縄県 観光要覧 令和元年度版

2019年 都道府県別訪問率ランキング（全体・全体）



データ更新日:2022/07/07 5:39:26 UTC

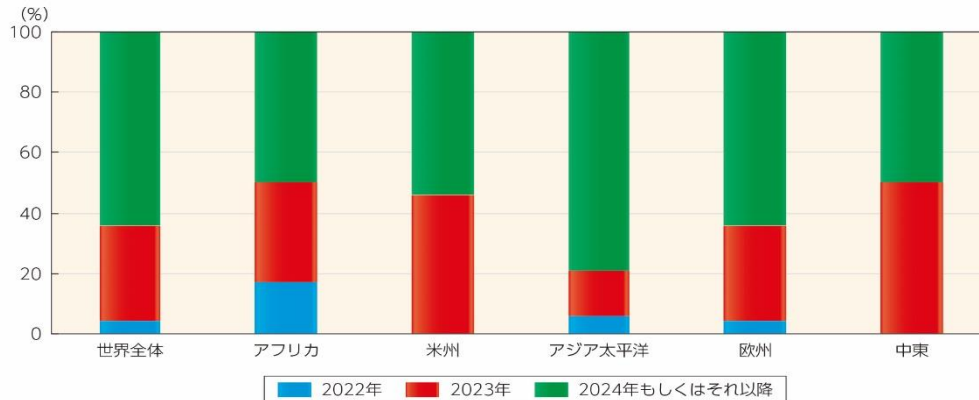
- ◆日本を出国する訪日外国人（1年以上の滞在者、日本での居住者、日本に入国しないトランジット客、乗員を除く）を対象に行った聞き取り調査である。
- ◆それぞれの調査年で、国籍や訪日目的ごとの標本数が異なるため、比較においては注意が必要である。
- ◆値はすべて確報値である。

出典：観光庁「訪日外国人消費動向調査」

出典：日本政府観光局（JNTO）

資料4 これからの観光動向

国際観光客数の回復見通し（地域別）



資料：UNWTO(国連世界観光機関) 資料に基づき観光庁作成

注1：UNWTO(国連世界観光機関)が専門家に対して実施した調査に基づく。

出典：観光庁 令和4年版観光白書

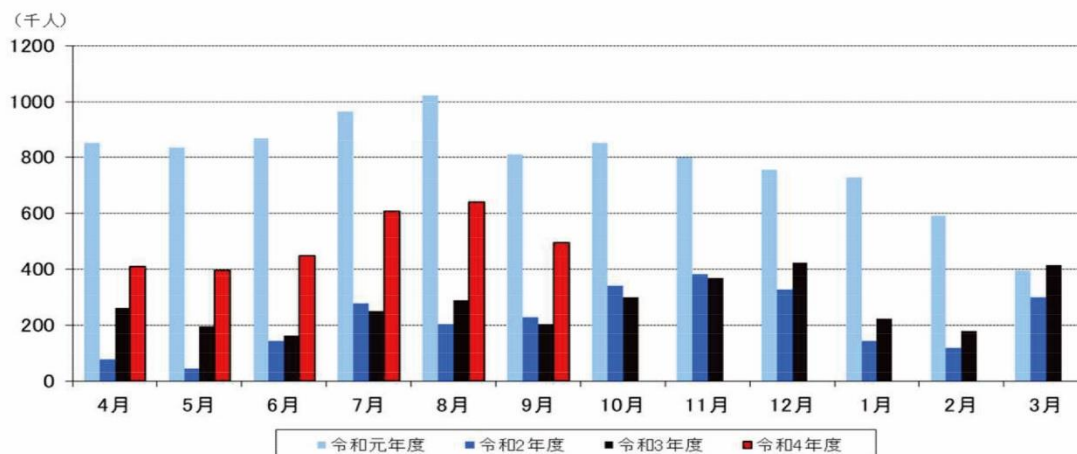
【図表4】日本人国内延べ旅行者数

単位：万人

国内旅行全体		延べ旅行者数			うち宿泊旅行			うち日帰り旅行		
		2019年同期比	前年同期比		2019年同期比	前年同期比		2019年同期比	前年同期比	
2019年	1-3月期	12,077		-5.2%	6,405		-5.2%	5,672		-5.2%
	4-6月期	16,412		+12.3%	8,365		+19.5%	8,047		+5.7%
	7-9月期	16,936		+3.4%	9,506		+5.2%	7,430		+1.1%
	10-12月期	13,286		+6.7%	6,887		+9.1%	6,399		+4.3%
2020年	1-3月期	9,273	-23.2%	-23.2%	5,228	-18.4%	-18.4%	4,045	-28.7%	-28.7%
	4-6月期	3,692	-77.5%	-77.5%	1,597	-80.9%	-80.9%	2,095	-74.0%	-74.0%
	7-9月期	8,610	-49.2%	-49.2%	4,633	-51.3%	-51.3%	3,977	-46.5%	-46.5%
	10-12月期	7,766	-41.5%	-41.5%	4,612	-33.0%	-33.0%	3,154	-50.7%	-50.7%
2021年	1-3月期	5,026	-58.4%	-45.8%	2,628	-59.0%	-49.7%	2,399	-57.7%	-40.7%
	4-6月期	6,192	-62.3%	+67.7%	2,930	-65.0%	+83.4%	3,262	-59.5%	+55.7%
	7-9月期	6,634	-60.8%	-22.9%	3,602	-62.1%	-22.3%	3,033	-59.2%	-23.7%
	10-12月期	8,968	-32.5%	+15.5%	5,018	-27.1%	+8.8%	3,950	-38.3%	+25.3%
2022年	1-3月期	6,450	-46.6%	+28.3%	3,606	-43.7%	+37.2%	2,844	-49.9%	+18.6%
	4-6月期	11,617	-29.2%	+87.6%	6,150	-26.5%	+109.9%	5,467	-32.1%	+67.6%
	7-9月期（速報）	12,608	-25.6%	+90.0%	6,962	-26.8%	+93.3%	5,646	-24.0%	+86.2%
	10-12月期	-	-	-	-	-	-	-	-	-

出典：観光庁 旅行・観光消費動向調査 2022年7-9月期（速報）

国際観光客数の回復見通し（地域別）



出典：沖縄県 令和4年度上半期 沖縄県入域観光客統計概況

沖縄キリスト教学院大学 人文学部 観光文化学科(仮称)
設置に係るニーズ調査報告書（高校生編）

2023 年 3 月

丸善雄松堂株式会社
Research & Innovation 本部
コンサルティング部

 **MARUZEN-YUSHODO**

目次

1. 調査概要	2
2. 全体集計結果	3
3. 沖縄キリスト教学院大学 人文学部 観光文化学科(仮称)への関心分析	17
4. 進学需要分析	25
5. 補記	27

1. 調査概要

(1) 調査目的

沖縄キリスト教学院大学 人文学部 観光文化学科(仮称)設置計画検討のため、本アンケート調査により高校生の進学需要等を把握し、設置計画の基礎資料とすることを目的とする。

(2) 調査対象

沖縄キリスト教学院大学 人文学部 観光文化学科(仮称)への進学実績等を参考に選定した高等学校に在籍する2年生。

(3) 実施時期

2022年10月20日～2023年2月3日

(4) 回収状況

本調査では60校12,486人を対象に調査票を配布し、その結果58校7,982件の調査票を回収することができた。(回収率63.9%)

(5) 調査方法

調査票による定量調査。(アンケート調査)

(6) 利用調査票

添付アンケート調査票参照。

2. 全体集計結果

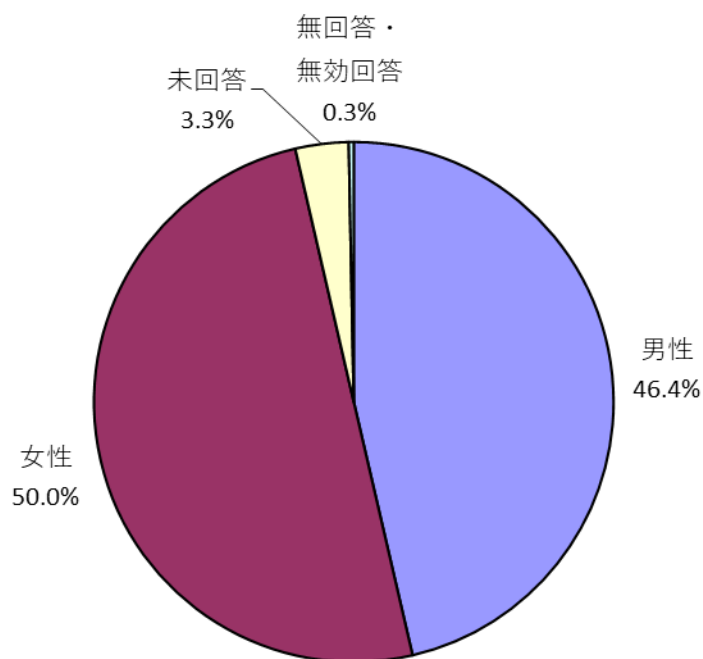
Q1) 性別

回答者の性別は、「男性」が 3,701 人 (46.4%)、「女性」が 3,992 人 (50.0%)、「未回答」264 人 (3.3%)、「無回答・無効回答」25 人 (0.3%) となっている。

Q1) あなたの性別は、どちらですか。

	回答数（人）	構成比（%）
全体	7,982	100.0%
男性	3,701	46.4%
女性	3,992	50.0%
未回答	264	3.3%
無回答・無効回答	25	0.3%

Q1



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

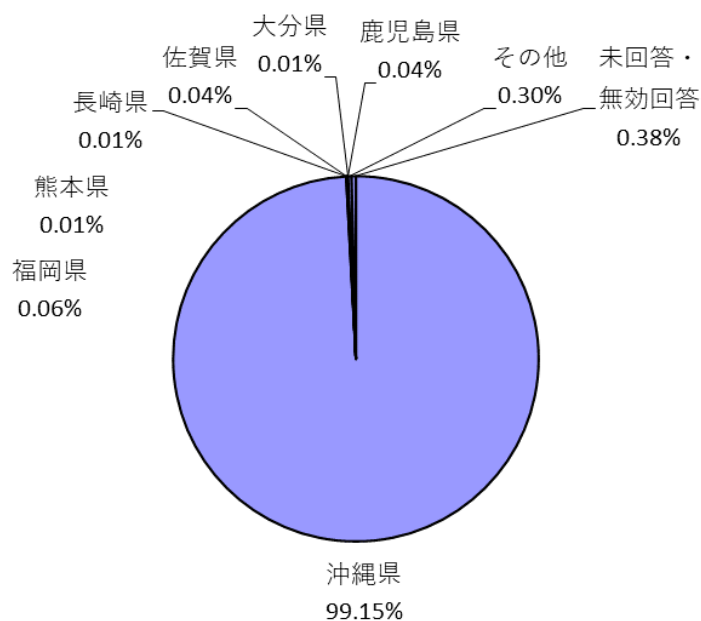
Q2) 居住地域

回答者の居住地域は、「その他」「無回答・無効回答」を除き「沖縄県」7,914人(99.15%)が最も多く9割以上となっており、次いで「福岡県」5人(0.06%)、「佐賀県」「鹿児島県」がそれぞれ3人(0.04%)となっている。

Q2) あなたのお住まい(現住所)は、どちらですか。

	回答数(人)	構成比(%)
全体	7,982	100.00%
沖縄県	7,914	99.15%
福岡県	5	0.06%
熊本県	1	0.01%
長崎県	1	0.01%
佐賀県	3	0.04%
大分県	1	0.01%
宮崎県	0	0.00%
鹿児島県	3	0.04%
その他	24	0.30%
無回答・無効回答	30	0.38%

Q2



*パーセンテージは小数点以下第三位を四捨五入し記載

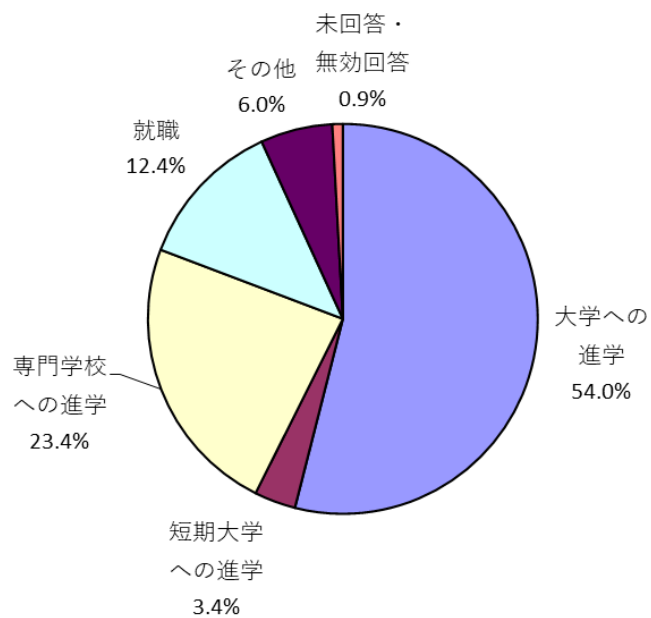
Q3) 高校卒業後の進路

回答者の高校卒業後の進路は、「大学への進学」4,307人(54.0%)が最も多く半数以上となっており、「専門学校への進学」1,866人(23.4%)、「就職」989人(12.4%)と続いている。

Q3) あなたは高校卒業後どのような進路を考えていますか。

	回答数（人）	構成比（%）
全体	7,982	100.0%
大学への進学	4,307	54.0%
短期大学への進学	274	3.4%
専門学校への進学	1,866	23.4%
就職	989	12.4%
その他	477	6.0%
無回答・無効回答	69	0.9%

Q3



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

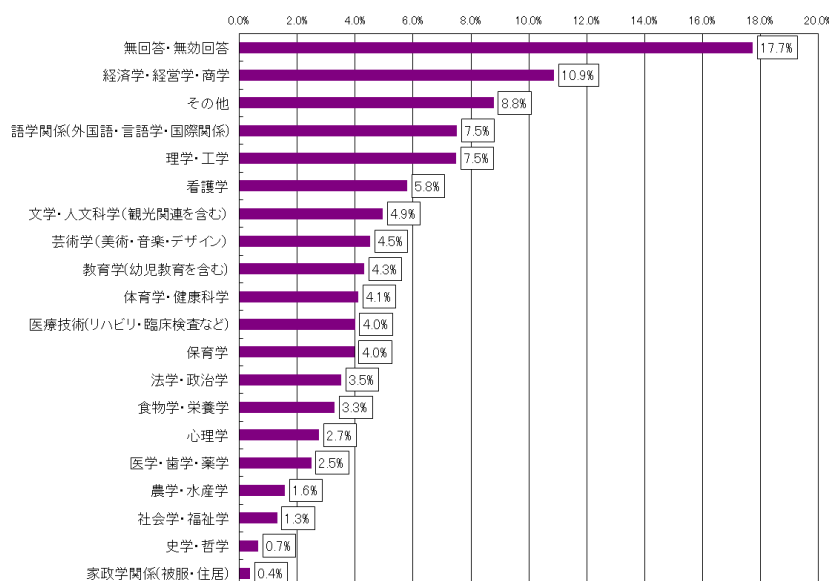
Q4)-1 進学希望分野(第1希望)

回答者の進学希望分野(第1希望)は、「無回答・無効回答」を除き、第1位が「経済学・経営学・商学」868人(10.9%)で、第2位「その他」701人(8.8%)、第3位「語学関係(外国語・言語学・国際関係)」600人(7.5%)と続いている。

Q4) あなたの進学したい分野は次のうちのどれですか。(第1希望)

第1希望	回答数(人)	構成比(%)
総計	7,982	100.0%
文学・人文科学(観光関連を含む)	395	4.9%
史学・哲学	52	0.7%
語学関係(外国語・言語学・国際関係)	600	7.5%
教育学(幼児教育を含む)	344	4.3%
保育学	317	4.0%
心理学	219	2.7%
法学・政治学	281	3.5%
経済学・経営学・商学	868	10.9%
社会学・福祉学	104	1.3%
理学・工学	598	7.5%
農学・水産学	126	1.6%
医学・歯学・薬学	198	2.5%
看護学	463	5.8%
医療技術(リハビリ・臨床検査など)	319	4.0%
食物学・栄養学	263	3.3%
家政学関係(被服・住居)	30	0.4%
体育学・健康科学	328	4.1%
芸術学(美術・音楽・デザイン)	361	4.5%
その他	701	8.8%
無回答・無効回答	1,415	17.7%

Q4 第1希望



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

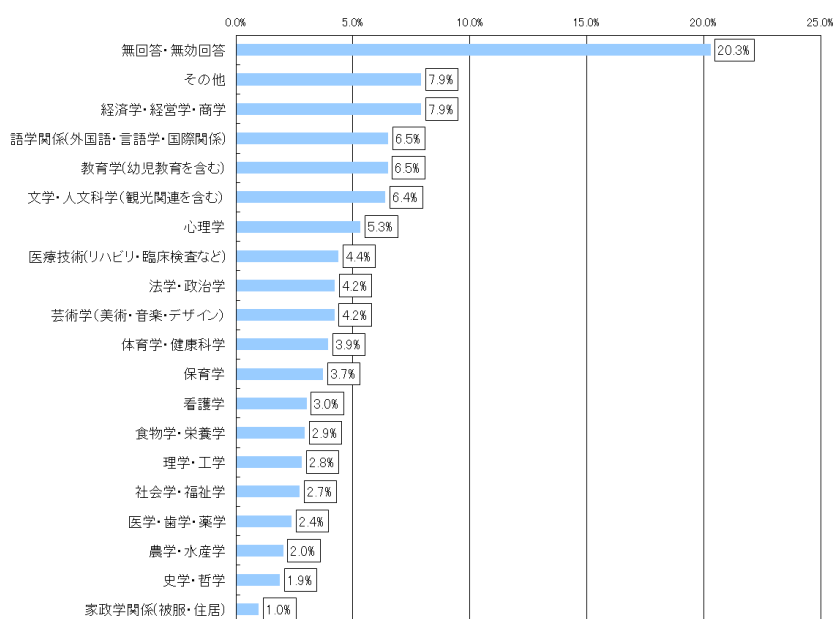
Q4)-2 進学希望分野(第2希望)

回答者の進学希望分野(第2希望)は、「無回答・無効回答」を除き、第1位が「その他」632人(7.9%)で、第2位「経済学・経営学・商学」631人(7.9%)、第3位「語学関係(外国語・言語学・国際関係)」519人(6.5%)と続いている。

Q4) あなたの進学したい分野は次のうちのどれですか。(第2希望)

第2希望	回答数(人)	構成比(%)
総計	7,982	100.0%
文学・人文科学(観光関連を含む)	510	6.4%
史学・哲学	150	1.9%
語学関係(外国語・言語学・国際関係)	519	6.5%
教育学(幼児教育を含む)	518	6.5%
保育学	297	3.7%
心理学	425	5.3%
法学・政治学	337	4.2%
経済学・経営学・商学	631	7.9%
社会学・福祉学	217	2.7%
理学・工学	224	2.8%
農学・水産学	161	2.0%
医学・歯学・薬学	189	2.4%
看護学	241	3.0%
医療技術(リハビリ・臨床検査など)	349	4.4%
食物学・栄養学	234	2.9%
家政学関係(被服・住居)	78	1.0%
体育学・健康科学	315	3.9%
芸術学(美術・音楽・デザイン)	336	4.2%
その他	632	7.9%
無回答・無効回答	1,619	20.3%

Q4 第2希望



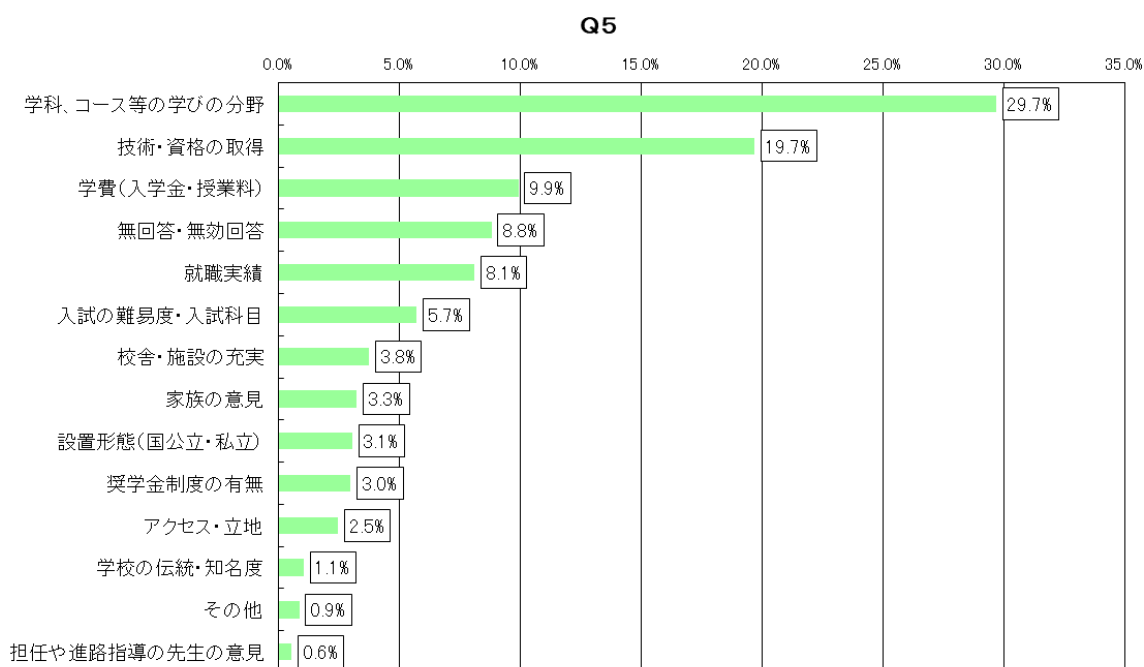
*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q5) 進学先決定時の重視要因 *複数選択可(2つまで)

回答者の進学先決定時の重視要因は、第1位が「学科・コース等の学びの分野」4,110人(29.7%)で、第2位「技術・資格の取得」2,728人(19.7%)、第3位「学費(入学金・授業料)」1,375人(9.9%)となっている。

Q5) あなたは進学先を決定する際に、どのような要因を重視しますか。

	回答数(人)	構成比(%)
総計	13,845	100.0%
学科・コース等の学びの分野	4,110	29.7%
技術・資格の取得	2,728	19.7%
就職実績	1,124	8.1%
校舎・施設の充実	520	3.8%
設置形態(国公立・私立)	423	3.1%
学費(入学金・授業料)	1,375	9.9%
奨学金制度の有無	415	3.0%
学校の伝統・知名度	147	1.1%
入試の難易度・入試科目	793	5.7%
担任や進路指導の先生の意見	77	0.6%
家族の意見	450	3.3%
アクセス・立地	343	2.5%
その他	120	0.9%
無回答・無効回答	1,220	8.8%



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

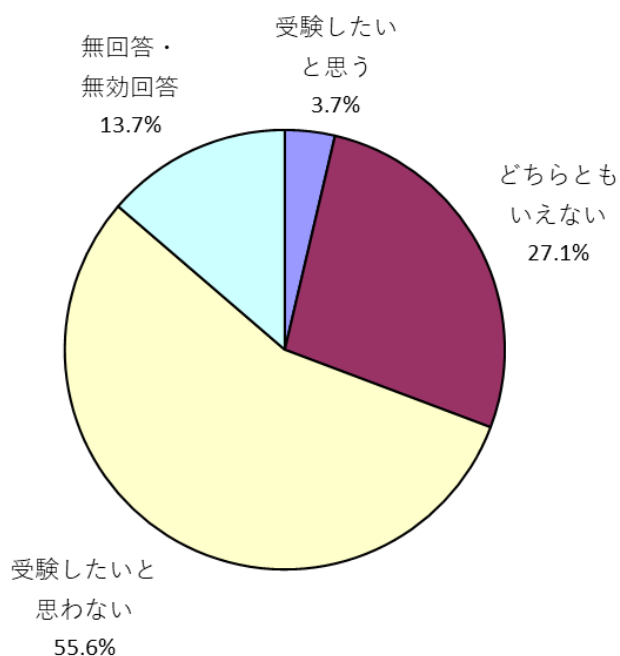
Q6) 人文学部 観光文化学科(仮称)の受験意向

回答者の沖縄キリスト教学院大学 人文学部 観光文化学科(仮称)の受験意向は、「受験したいと思う」が293人(3.7%)、「どちらともいえない」が2,161人(27.1%)で、一方、「受験したいと思わない」は4,436人(55.6%)、「無回答・無効回答」は1,092人(13.7%)となっている。

Q6) 沖縄キリスト教学院大学 人文学部 観光文化学科を受験したいと思いますか。

	回答数(人)	構成比(%)
全体	7,982	100.0%
受験したいと思う	293	3.7%
どちらともいえない	2,161	27.1%
受験したいと思わない	4,436	55.6%
無回答・無効回答	1,092	13.7%

Q6



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q7) 人文学部 観光文化学科(仮称)への進学意向

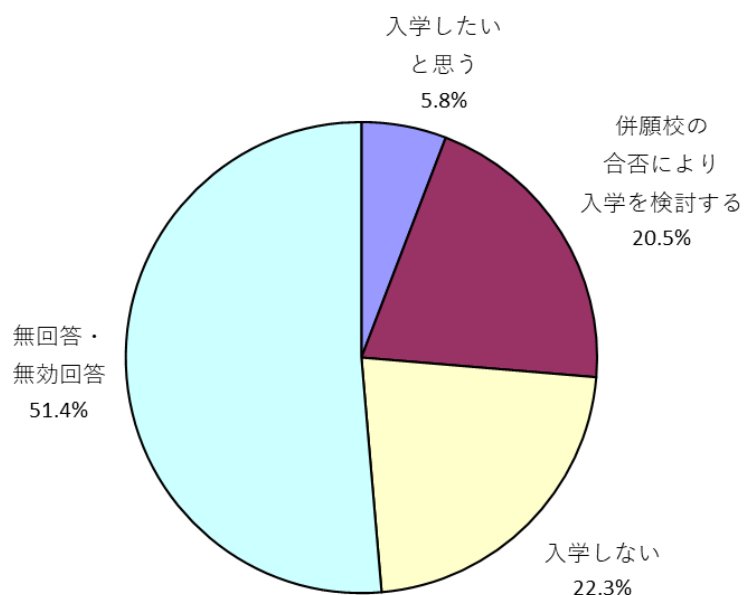
回答者の沖縄キリスト教学院大学 人文学部 観光文化学科(仮称)への進学意向は、「入学したいと思う」が 465 人(5.8%)、「併願校の可否により入学を検討する」が 1,637 人(20.5%)で、何らかの進学の意向を持つこれらの回答者の合計は 2,102 人(26.3%)となっている。

一方、「入学しない」は 1,780 人(22.3%)で、全体のおよそ半数の 4,100 人(51.4%)が「無回答・無効回答」となっている。

Q7) 沖縄キリスト教学院大学 人文学部 観光文化学科に合格した場合、入学したいと思いますか。

	回答数(人)	構成比(%)
全体	7,982	100.0%
入学したいと思う	465	5.8%
併願校の可否により入学を検討する	1,637	20.5%
入学しない	1,780	22.3%
無回答・無効回答	4,100	51.4%

Q7



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

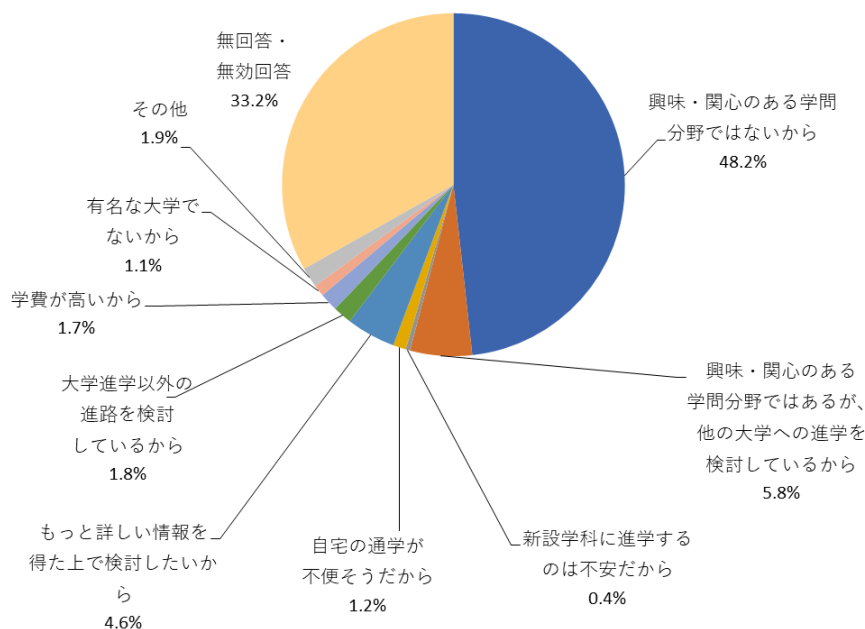
Q8) 人文学部 観光文化学科(仮称)を受験したいと思わない理由

回答者の沖縄キリスト教学院大学 人文学部 観光文化学科(仮称)を受験したいと思わない理由は、「無回答・無効回答」を除き、「興味・関心のある学問分野ではないから」3,851人(48.2%)が最も多く5割近くを占めており、次いで「興味・関心のある学問分野ではあるが、他の大学への進学を検討しているから」が466人(5.8%)、「もっと詳しい情報を得た上で検討したいから」は370人(4.6%)となっている。

Q8) 沖縄キリスト教学院大学 人文学部 観光文化学科を受験したいと思わない理由をお答えください。

	回答数(人)	構成比(%)
全体	7,982	100.0%
興味・関心のある学問分野ではないから	3,851	48.2%
興味・関心のある学問分野ではあるが、他の大学への進学を検討しているから	466	5.8%
新設学科に進学するのは不安だから	33	0.4%
自宅の通学が不便そうだから	97	1.2%
もっと詳しい情報を得た上で検討したいから	370	4.6%
大学進学以外の進路を検討しているから	142	1.8%
学費が高いから	138	1.7%
有名な大学でないから	87	1.1%
その他	151	1.9%
無回答・無効回答	2,647	33.2%

Q8



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q10) 沖縄キリスト教学院大学 人文学部 観光文化学科(仮称)への意見・要望

Q10) 沖縄キリスト教学院大学 人文学部 観光文化学科(仮称)に対する ご意見・ご要望をお聞かせください。

	コメント分類
キリスト教学院大学は英語系の所だと思ったけど、観光について学べる分野もあるんだなと思った。	教育内容（学科の特色等）
グローバル化が進んでいる世の中なので、とても良い学科だと思いました	教育内容（学科の特色等）
具体的に何が学べるのか知りたい	教育内容（学科の特色等）
3か国語も学べることや、「海外研修」、「インターンシップ」などの活動も行えるところなど、とても豊富な教育内容で興味が湧きました。将来の選択を増やしてくださりありがとうございました。	教育内容（学科の特色等）
3か国語を学べたり、たくさんの資格をとれたりするのはとてもいいなと思いました。しかし、自分は海外に行こうとは思わない人なので、海外研修が必修なため受験するの少しためらってしまうと思います。	教育内容（学科の特色等）
アジアの言葉や観光などについて学べるのがすごいと思います。	教育内容（学科の特色等）
いろんなことについて経験できていいと思う	教育内容（学科の特色等）
いろんな人と交流できるのはいい	教育内容（学科の特色等）
インターンシップなどは具体的にどのような所に行くんですか？	教育内容（学科の特色等）
教授が魅力的だった。	教育内容（学科の特色等）
教員陣はどのような人なのかもっと知りたいです。	教育内容（学科の特色等）
キリスト教教育について具体的に教えてほしい。	教育内容（学科の特色等）
グローバルになっていく中、こういう観光の事を学べて行くのはとても良いと思う。	教育内容（学科の特色等）
グローバル化が進む中で外国の方々との交流も増えていくと思うので、より、外国語を専門的に身につけ文化を伝えていくためにも、あった方が良くと思います。	教育内容（学科の特色等）
グローバル化が進んでいる現在、役に立つことが学べる良い学科だと思う。	教育内容（学科の特色等）
グローバル化しつつあるこの世の中で、言語などに特化した科をつくって需要はあるのでしょうか。	教育内容（学科の特色等）
グローバル化している現代にあってとてもステキだと思いました。	教育内容（学科の特色等）
このような設備の整った大学は他にもある。沖縄だからこそ学べるプログラムをつくる、もしそのようなプログラムがあるならそこを売り出していけばもっと魅力的な学部になると思う。	教育内容（学科の特色等）
この学校のこの学科でしか学べないことは何か	教育内容（学科の特色等）
この大学のこの学部だからこそ唯一無二の魅力は感じられない。	教育内容（学科の特色等）
これからの沖縄にとっては良い学科だと思う。	教育内容（学科の特色等）
さまざまな体験が出来るのに、すごいと思いました。	教育内容（学科の特色等）
どこで研修するのか何を勉強するのか必要単位数は？	教育内容（学科の特色等）
どんな学科か、どんな授業、実践授業はあるか、学費	教育内容（学科の特色等）
もし経済的に余裕があり、文系に進んでいたなら進学していたと思う。自分のような「国際的な観光」に興味がある人は楽しそうな学科だと思う。	教育内容（学科の特色等）
ヨーロッパの観光客に向けたことをやると良い。	教育内容（学科の特色等）
リーフレットを見て、海外研修に力を入れているところや企業・団体へのインターンシップなどがあり、とても楽しそうで良いと思った。	教育内容（学科の特色等）
異文化体験、外国の方との交流はとても魅力的だと感じました。	教育内容（学科の特色等）
英語科と保育科だけでなく新しい学科も作ったことによって2つ以外のことも学ぶことができるようになったのはいいと思いました。	教育内容（学科の特色等）
沖縄キリスト教学院大学に観光文化学科ができることで興味がある人の進路の幅が広がると思うので、とてもいいと思いました。また、SDGs的なものも勉強できるのは、これからの未来にとっても役立つと思うのでとてもいいと思います。	教育内容（学科の特色等）
沖縄では、観光業が重視されているので、すごくいい取り組みだと思います。	教育内容（学科の特色等）
沖縄で観光を学ぶことができるのがすごく良いと思う。充実したカリキュラムが組まれていると思う。	教育内容（学科の特色等）
沖縄で観光を学べるのは良いと思った。	教育内容（学科の特色等）
沖縄で観光学が学べる所があまりないから良いと思った	教育内容（学科の特色等）
沖縄に、観光客多いから、良いと思う。	教育内容（学科の特色等）
沖縄にあっていいと思います。	教育内容（学科の特色等）
沖縄について深く知れ、海外での活動もしっかりしていい	教育内容（学科の特色等）
沖縄にぴったりの学科だと思う。	教育内容（学科の特色等）
沖縄に観光学科ができたのがうれしい。	教育内容（学科の特色等）
沖縄の観光のためにいいと思います。	教育内容（学科の特色等）
沖縄の観光業をさらに活気づけることが期待できそうなので、観光文化学科の設立はいいと思う。	教育内容（学科の特色等）
沖縄の観光産業を発展させる良いものだと思う。	教育内容（学科の特色等）
沖縄の観光産業活性化にはいいと思う！	教育内容（学科の特色等）

	コメント分類
沖縄の観光文化を探究できる部分がとても素晴らしいと思った。	教育内容（学科の特色等）
沖縄は、観光で、栄えているから、観光について知れるいい機会でもあるし、沖縄についても知れていいと思う！	教育内容（学科の特色等）
学べることがとても充実していて、興味をもった。	教育内容（学科の特色等）
学べる内容が濃く、とても良いと思った。	教育内容（学科の特色等）
観光や国際的な事をたくさん学べそうで興味がある。	教育内容（学科の特色等）
観光業がさかんな沖縄で仕事を行う際、このような大学・学科を卒業できるのは良いと思います。	教育内容（学科の特色等）
観光業が盛んな沖縄で観光関連について学べるのはとても良いなと思った。観光の中でも語学にも特化していると感じると思う。	教育内容（学科の特色等）
観光文化学科の内容について知りたいと思いました。	教育内容（学科の特色等）
観光文化学科は何を学ぶのですか？	教育内容（学科の特色等）
語学関係となりがちがうのか。C Aになるには、どっちをとればいいのか。	教育内容（学科の特色等）
航空会社などで経験できるのが楽しそう。	教育内容（学科の特色等）
講師や教授の方々がどのような方か知りたい。言語について「文法的」な座学なのか「実践的」なカリキュラムなのか知りたい。	教育内容（学科の特色等）
国際関係の仕事につきたい人にとっては、交流や実践が充実していて学びになる学部だと思う。	教育内容（学科の特色等）
国際的な視野を取り入れていて、良いなと思いました。	教育内容（学科の特色等）
国際文化や旅行会社で、働くためのことを学んだりするのは楽しそうと思った	教育内容（学科の特色等）
国際文化交流ができる学科はあまりないのでとても良いと思う！！	教育内容（学科の特色等）
国際文化交流の「海外研修」が楽しそう。	教育内容（学科の特色等）
資料の「学科の特色」の3番にある海外研修で、自分の行きたい国を選択肢から選べるといった制度にしたらとてもいいと思う。	教育内容（学科の特色等）
実践的な教育ができるところがいいと思う。	教育内容（学科の特色等）
実践的な授業が多くて良いなと思いました。	教育内容（学科の特色等）
受験科目を書いてほしい	教育内容（学科の特色等）
授業内容や他の学科との違い。	教育内容（学科の特色等）
授業内容等をもっとくわしく知りたい	教育内容（学科の特色等）
色んな職場での体験が充実していて、いいと思った。	教育内容（学科の特色等）
色々な地域と関わることができていいと思った。	教育内容（学科の特色等）
世界の文化や語学が学べて、海外研修やインターンシップで実践もできるのは、こういう分野での就職を考えている人には良いと思います。	教育内容（学科の特色等）
専門学校とどのような所がちがうのですか	教育内容（学科の特色等）
他の学校、学科と、何が違うのか書いておけば、みんな興味を持って入学したいと言う生徒が増えると思います。	教育内容（学科の特色等）
他の学校と少し違ったら良いと思う。	教育内容（学科の特色等）
他の国の異文化を学べるのは面しろそうと思いました	教育内容（学科の特色等）
他の人文学部観光文化学科と違うところは何か？	教育内容（学科の特色等）
他国との交流が多くていいと思う	教育内容（学科の特色等）
他国の文化や宗教について学べるのは良いと思う。資格・検定も充実していると思う。	教育内容（学科の特色等）
第三次産業のことがたくさん学べると思いました。	教育内容（学科の特色等）
沢山の言葉を学べてすごいと思う。海外研修が必修で、異文化体験を通して学びを学べるのがいいと思った。	教育内容（学科の特色等）
単位数や教科など	教育内容（学科の特色等）
短期の海外研修ができるのは、学びが広がってとてもいいなと思いました。	教育内容（学科の特色等）
同時通訳はどういう風に授業するんですか？	教育内容（学科の特色等）
幅広く学べて、資格や検定なども充実していて良かった。	教育内容（学科の特色等）
目指せる資格が多いし、必修で海外研修あっていいと思います。	教育内容（学科の特色等）
良いと思う。具体的にどんなことを学ぶのか知りたい。	教育内容（学科の特色等）
パンフレットでは、大まかな内容しか分かりませんでしたので、より具体的な内容を加えることで興味が湧くと思います。例えば、予定の教授についてやキャンパスの写真など	教育内容（学科の特色等）
どんなことをするところなんですか。新たにつくった理由はなんですか。	教育内容（学科の特色等）
”海外研修。があるので、海外との交流もあってすてきでした。	海外研修
必修となっている「海外研修」で、どのようなことをするのかになります。又、授業内容（どのように理論・実践を学ぶのか）をもう少し具体的に知りたいと感じました。	海外研修
すごく良いと思う。海外研修できるのが良い経験になると思う。	海外研修
海外研修が必修という点がいいなと感じた。	海外研修
海外研修が必修なのが良かった。	海外研修
海外研修が必修はとても良いと思います！！	海外研修
海外研修が必修科目にあるのがすごいと思いました。旅行業に就職できるのいいと思いました。	海外研修

	コメント分類
海外研修やインターンシップなど、実際に企業側としての体験ができることは、ありがたい。	海外研修
海外研修や実践の授業があってとても楽しそうだなと思います。	海外研修
必修の海外研修があってとてもいいと思った。	海外研修
海外研修は、どこ国に行くことが、選択肢としてあるのか？	海外研修
海外研修があるのはいいと思ったけど具体的にどこに行くかをおしえてほしい。	海外研修
姉妹校等への留学制度があると魅力的	海外研修
留学制度がほしい。	海外研修
海外研修というのは自費なのか。	海外研修（費用）
海外研修が必修と書いてあるが全部自己負担か。	海外研修（費用）
海外研修の費用は、入学金に含まれているんですか？途中で、学ぶ語学を変えることはできますか？	海外研修（費用）
色んな国の言語を学べるのはとてもいいと思いました。	語学
様々な言語が学べるのは良いと思う。	語学
色んな言語、基礎的な事を学べて良いと思った。	語学
観光業に外国語が必要だと思うので良いと思います。	語学
語学に強くなれる点で良いと思った。	語学
英語がこれから必要だと思うからいい学科だと思います。	語学
英語に触れる機会が増えると思うから、英語を話せるようになりそう。	語学
英語をいかけた観光業などに興味があったのでとても良いと思う。	語学
英語を学びたいので良いと思います。	語学
3か国語は選択か、全てとらないといけないのが気になる。	語学
3か国語を学べるのがとても良いなと思いました。	語学
3か国語学べところや、いろんな実践があるところがとても魅力的でした！もし、私立でなければ、視野に入れてたと思います。	語学
3か国語学べるのは良いと思います。	語学
この大学で英語、中国語、韓国語を学べることがすごいなと思いました。	語学
資格や検定、学科の特色も充実していて、おもしろそう。特に英語・韓国語・中国語の3か国語学べるのは良いと思った。	語学
「英語」「韓国語」「中国語」の3か国の言葉を学べるってすごいと思いました。	語学
英語だけでなく、中国語、韓国語も学べるのは良いと思います。	語学
英語、中国語、韓国語がまなべるのがいいとおもった。	語学
英語、中国語、韓国語と3か国語を学べるのは良いと思った。	語学
英語、中国語、韓国語はどのレベルまで学べるのか。（学校で）	語学
英語・韓国語・中国語が学べるのがいいと思った。	語学
沖縄は観光客が多いので、こういった所で、他の国の言語を学べるのは良い事だと思います。	語学
外国語の運用など、観光と聞いて想いつかない能力も身に付けられるんだなと思った。	語学
外国語の運用能力が身につけられるのが良いと思った。	語学
外国語を3か国語だけではなく、もっと増やしたら魅力的だと思う。	語学
外国語を学べて海外に行けたり、資格取得ができたりするのはとてもいいと思います。	語学
外国語を勉強したい人にはとても良い学科だと思った。	語学
観光文化学科に入学したら様々な言語に触れる事が出来て、様々な資格もとることができてとても興味引かれる学科だと思いました。	語学
韓国語を学べるのはいいと思う。	語学
韓国語を学べる大学はめずらしいので良いと思う	語学
韓国語学べるのは良い。	語学
最近、韓国語を学びたい学生も増えているからいいと思います。	語学
英語、中国語、韓国語の3か国語しか学べないのですか？	語学
検定で中国語検定の他にも韓国語とかドイツ語とかの検定もとりたかった。検定の種類が多くて良いなと思った。	語学
アジアの言語にタイ語を増やしてほしい	語学
ヨーロッパ、アフリカの公用語は学べないのか。	語学
ヨーロッパ系の語学も学べるようにしてほしい	語学
言語を学べて資格もとれるのは良いと思う。	語学
TOEICがとれるのは良いと思いました。	語学
「目指せる資格・検定」の種類が豊富なのは良いと思った。	資格
いろんな資格、検定がとれていいと思った。	資格
様々な資格取得ができそうでとてもいいと思う	資格
たくさんの資格や検定が取れるのが魅力的だと思います。	資格
とれる資格が多くて楽しそう。	資格

	コメント分類
取れる資格や検定が多くていいと思います。TOEICや中国語検定などめったにうけないと思うのでいいと思います。	資格
目指せる資格、検定が多い	資格
目指せる資格が多くて良いと思った	資格
目指せる資格や検定が多くて良いと思った	資格
とれる資格が良いものだと思う。さらに多くの資格をとることができれば、進学希望者も増えると思う。	資格
観光で役立つ資格取得ができるという点で、いいと思った。	資格
取得できる資格を、もう少し観光で活かせるものを増やした方がいいと思う。	資格
資格・検定の獲得は必須ですか？	資格
国家資格をとれるのかどうか。	資格
教員免許とれますか？	資格
英文学科の方がよかった。教員免許とりたかった。キリ学で！！	資格
教員免許取得もあれば、より人が集まるといった。	資格
教員免許はとれますか。	資格
他の科に通っていたとしても、観光文化学科にある秘書技能検定などを取得できるのか知りたいです。	資格
新設学科なのでどこに就職できるか不安だと思った。	就職
どのような所に就職できますか	就職
どんな勉強をして将来どのような職業に就けるのかわしく知れないと、受験を検討できない。	就職
沖縄で就職に有利かなと思った。	就職
活動が活発で、就職先も多いので進路先として良いと思う	就職
観光業は、沖縄県内の就職率が高そう。確実に安定した将来があるとは言えない。	就職
観光文化学科で教える教職員の方々が、今までどんなホテルで働いていたかなどの過去の実績を知りたいです。	就職
観光文化学科で学ぶどこに就職できるのか	就職
観光文化学科を卒業した後は、どのような仕事をできるのか知りたい	就職
客室乗務員のお仕事も良いなと思っているのですが、就職に向けてどのような取り組みをしているのかもっと知れるパンフレットになっていると良いと思いました。	就職
空港の仕事、（客室乗務員）などの勉強も出来ますか	就職
県外への就職も目指せますか？	就職
現場体験が豊富で、経験も積むことができ、就職にいいなと思いました。また、語学を3カ国学べていいなと思いました。	就職
志願者の得意分野で、より多くの就職先が現れそうだから、開設はとてもいいと思います。	就職
自分は英語が好きなので、今後英語に関わる就業は考えていませんが、とても興味はあります。	就職
就職の際に有利そう	就職
就職実績や就職先を知りたい。	就職
就職先が安定してなさそう	就職
就職先が豊富ですごいと思った。	就職
将来どんな仕事につける？	就職
将来就職職場などにも行けて、良いなと思った。	就職
興味のある分野で、学びの内容もとても良いと思いますが、学費が高い所が進学するとなると難しいと感じます。	学費
なぜ、同分野大学に比べて、学費がこんなに安いのか。	学費
もう少し学費を安くしてほしいです。	学費
沖縄だからもっと納金を安くした方がいい	学費
沖縄に観光文化学科があると、他県に行かなくてすむから費用もあんまりかからなくて良いと思います。	学費
学納金が少し高めなので、入学したいかと聞かれると、少し考えると思う。	学費
学納金他よりも安い金学なのは生徒の目にもとりやすい。	学費
学費が気になる	学費
学費が高い	学費
学費はどれくらいですか。	学費
学費を安く！	学費
興味のある学科なのですが学費が高すぎる。	学費
奨学金制度の有無は、あったほうが良い。	学費
他の大学よりも授業料や学納金が安くて良いと思いました。	学費
奨学金制度はあるのか？	学費

	コメント分類
どこにあるかわからない。	立地
駅から近いのは良いと思った。	立地
立地がいい	立地
「光を観る」という理念がとて素晴らしいと思いました。	感想
コロナで観光業が打撃をうけていたのを見て、観光業に興味はあったけど、心配になって進路を変えた。	感想
コロナの流行で、観光行が大打撃をうけたのを見て、これからの将来、また新しいウイルスが流行した時に、観光行は安定した職だとは思えない。だけど、沖縄の第3次産業を支えるためには、必要な学科だと思う。	感想
とても楽しそうで、行きたいと思う。	感想
沖縄に新しい分野を学べるところが進路に選択肢が増えたことは良いことだと思いました	感想
沖縄のすばらしさを広げることにつながるから良いと思います。	感想
沖縄の観光産業と結びついていて人気が出そうと思ったが、コロナの影響もあり、観光業界に少し不安がある。	感想
沖縄は観光業が盛んであるからその中で観光について学べるのはいいなと思った。	感想
沖縄県において観光は今後もますます重要な産業になると思うので学問として学ぶことも大切だと思う。	感想
沖縄県は観光に力をいれているのでいい学科になると思う。	感想
沖縄県は観光業が盛んなので開設することでもっと盛りあがると思うから良いことだと思う。	感想
楽しそうだなと感じました。興味あります。	感想
観光に関する学科がある大学は多くないのでいいと思う。	感想
観光業にあるから沖縄に増えるのはうれしい。名桜の観光専攻と交流とかもほしいし、したい。	感想
観光名所である沖縄に、このような学科がなかったのが不思議なくらいだ。	感想
国際交流などの関係についてとても良いことだと思いました。少し興味をもったので進路に少し考えてみたいと思います。	感想
このような学科を期待していました。	感想
最近では、アジア圏が日本の中でも人気な点もあり、県外へ進学してこの分野を学びたい。と思っていたが、沖縄でも大学でこの分野を学べるという点がすごくいい着眼点だと思った。また、学科の特色も良いと思ったし、施設もよくなる。	感想
私は観光業（航空系）に興味があり、沖縄県内には航空業界+英語を学べる大学が1つもないため、とてもいい新しい学科だと思う。入学したい。	感想
自分の学びたい分野だから、視野が広がった。	感想
初めての観光学科と聞いて、とても気になります。	感想
初めて知ったので、気になる場所だと思った。	感想
新設学科への不安は大きい	感想
絶対つくってほしい	感想
専門学校じゃないのに、このようなことを学べるのは良いと思う。	感想
入学します！！！！	感想
魅力的だと思う。沖縄キリスト教学院大学も視野に入れたい。	感想
入試科目が知りたい。	その他
入試科目にはどんなものがありますか。	その他
オープンキャンパスありますか？	その他
オープンキャンパスがあるなら行きたいです。	その他
オンラインのオープンキャンパスを試してみたい。	その他
出来たら説明会とかには行ってみたい	その他
どんな校風ですか。	その他
沖縄に住んで仕事をするのならとてもすばらしい学科だが、県外の人に行く人がやるものではないと思った。	その他
授業は全部英語ですか？	その他
新型コロナが流行している中で観光業への就職をどのように支援するのか。	その他

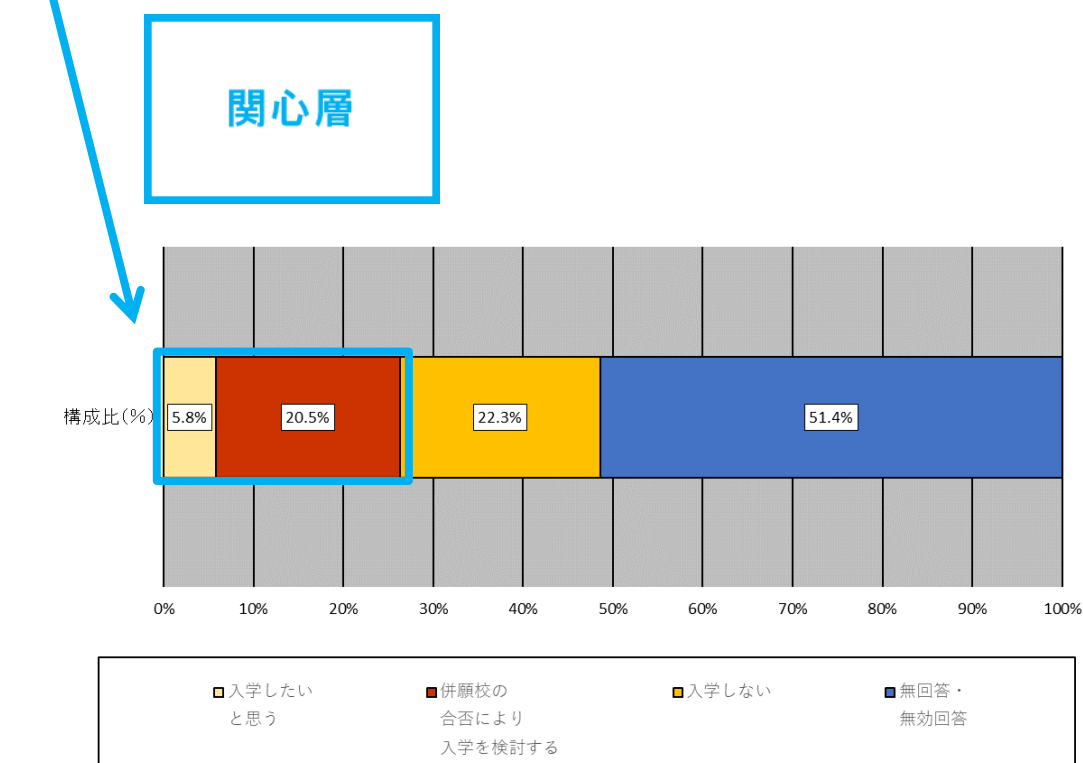
3. 沖縄キリスト教学院大学 人文学部 観光文化学科(仮称)への関心分析

○人文学部 観光文化学科(仮称)の関心層

沖縄キリスト教学院大学 人文学部 観光文化学科(仮称)への関心进行分析するため、次のとおり「関心層」を定義する。Q7)において、「入学したいと思う」、「併願校の可否により入学を検討する」を選択した合計 2,102 人(26.3%)を「関心層」と定義し、次項より「関心層」の傾向进行分析する。

Q7) 沖縄キリスト教学院大学 人文学部 観光文化学科に合格した場合、入学したいと思いますか。

	回答数(人)	構成比(%)
全体	7,982	100.0%
入学したいと思う	465	5.8%
併願校の可否により入学を検討する	1,637	20.5%
入学しない	1,780	22.3%
無回答・無効回答	4,100	51.4%



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*次頁以降の集計は、各設問から無回答・無効回答を除いて集計

Q3) 高校卒業後の進路×Q7) 人文学部 観光文化学科(仮称)への進学意向

関心層の高校卒業後の進路は、「大学への進学」1,362人(65.4%)が最も多く、次いで「専門学校への進学」462人(22.2%)、さらに「短期大学への進学」92人(4.4%)と続いている。また、dif(関心層での比率－全体での比率)では、関心層と高校卒業後の進路で「大学への進学」を選択した層に相関性がみられる。

Q3) 高校卒業後の進路と Q7) 人文学部 観光文化学科(仮称)への進学意向との相関性

単位：(人) (%)

Q3) 高校卒業後の進路	全体平均		入学したいと思う		併願校の可否により入学を検討する		関心層		d i f	入学しない	
調査数	3,845	100.0%	462	100.0%	1,620	100.0%	2,082	100.0%		1,763	100.0%
大学への進学	2,277	59.2%	268	58.0%	1,094	67.5%	1,362	65.4%	6.2%	915	51.9%
短期大学への進学	160	4.2%	34	7.4%	58	3.6%	92	4.4%	0.3%	68	3.9%
専門学校への進学	989	25.7%	99	21.4%	363	22.4%	462	22.2%	-3.5%	527	29.9%
就職	216	5.6%	30	6.5%	45	2.8%	75	3.6%	-2.0%	141	8.0%
その他	203	5.3%	31	6.7%	60	3.7%	91	4.4%	-0.9%	112	6.4%

上記は、表頭(表の上側)に「Q7) 人文学部 観光文化学科(仮称)への進学意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*無回答・無効回答を除いて集計

*dif=関心層での比率－全体での比率

Q4)進学希望分野(第1希望)×Q7)人文学部 観光文化学科(仮称)への進学意向

関心層の進学希望分野(第1希望)は、「語学関係(外国語・言語学・国際関係)」323人(16.6%)が最も多く、「経済学・経営学・商学」254人(13.1%)、「文学・人文科学(観光関連を含む)」215人(11.1%)と続いている。また、dif(関心層での比率－全体での比率)では、関心層と進学希望分野(第1希望)で「語学関係(外国語・言語学・国際関係)」を選択した層に相関性がみられ、「文学・人文科学(観光関連を含む)」を選択した層にやや相関性がみられる。

Q4)進学希望分野(第1希望)とQ7)人文学部 観光文化学科(仮称)への進学意向との相関性

単位：(人) (%)

Q4)進学希望分野(第1希望)	全体平均		入学したいと思う		併願校の可否により入学を検討する		関心層		dif	入学しない	
調査数	3,523	100.0%	407	100.0%	1,537	100.0%	1,944	100.0%		1,579	100.0%
文学・人文科学(観光関連を含む)	277	7.9%	67	16.5%	148	9.6%	215	11.1%	3.2%	62	3.9%
史学・哲学	30	0.9%	1	0.2%	19	1.2%	20	1.0%	0.2%	10	0.6%
語学関係(外国語・言語学・国際関係)	409	11.6%	97	23.8%	226	14.7%	323	16.6%	5.0%	86	5.4%
教育学(幼児教育を含む)	167	4.7%	20	4.9%	68	4.4%	88	4.5%	-0.2%	79	5.0%
保育学	188	5.3%	28	6.9%	71	4.6%	99	5.1%	-0.2%	89	5.6%
心理学	118	3.3%	16	3.9%	55	3.6%	71	3.7%	0.3%	47	3.0%
法学・政治学	125	3.5%	6	1.5%	62	4.0%	68	3.5%	-0.1%	57	3.6%
経済学・経営学・商学	439	12.5%	30	7.4%	224	14.6%	254	13.1%	0.6%	185	11.7%
社会学・福祉学	58	1.6%	9	2.2%	23	1.5%	32	1.6%	0.0%	26	1.6%
理学・工学	259	7.4%	12	2.9%	101	6.6%	113	5.8%	-1.5%	146	9.2%
農学・水産学	62	1.8%	3	0.7%	25	1.6%	28	1.4%	-0.3%	34	2.2%
医学・歯学・薬学	98	2.8%	6	1.5%	39	2.5%	45	2.3%	-0.5%	53	3.4%
看護学	223	6.3%	24	5.9%	89	5.8%	113	5.8%	-0.5%	110	7.0%
医療技術(リハビリ・臨床検査など)	160	4.5%	14	3.4%	59	3.8%	73	3.8%	-0.8%	87	5.5%
食物学・栄養学	140	4.0%	12	2.9%	64	4.2%	76	3.9%	-0.1%	64	4.1%
家政学関係(被服・住居)	18	0.5%	1	0.2%	5	0.3%	6	0.3%	-0.2%	12	0.8%
体育学・健康科学	186	5.3%	11	2.7%	66	4.3%	77	4.0%	-1.3%	109	6.9%
芸術学(美術・音楽・デザイン)	181	5.1%	18	4.4%	73	4.7%	91	4.7%	-0.5%	90	5.7%
その他	385	10.9%	32	7.9%	120	7.8%	152	7.8%	-3.1%	233	14.8%

上記は、表頭(表の上側)に「Q7)人文学部 観光文化学科(仮称)への進学意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*無回答・無効回答を除いて集計

*dif=関心層での比率－全体での比率

Q4) 進学希望分野(第2希望) × Q7) 人文学部 観光文化学科(仮称)への進学意向

関心層の進学希望分野(第2希望)は、「文学・人文科学(観光関連を含む)」276人(14.4%)、「語学関係(外国語・言語学・国際関係)」236人(12.3%)、「経済学・経営学・商学」159人(8.3%)と続いている。また、dif(関心層での比率－全体での比率)では、関心層と進学希望分野(第2希望)で「文学・人文科学(観光関連を含む)」「語学関係(外国語・言語学・国際関係)」を選択した層にやや相関性がみられる。

Q4) 進学希望分野(第2希望)と Q7) 人文学部 観光文化学科(仮称)への進学意向との相関性

単位：(人) (%)

Q4)進学希望分野(第2希望)	全体平均		入学したいと思う		併願校の可否により入学を検討する		関心層		dif	入学しない	
調査数	3,427	100.0%	398	100.0%	1,514	100.0%	1,912	100.0%		1,515	100.0%
文学・人文科学(観光関連を含む)	337	9.8%	74	18.6%	202	13.3%	276	14.4%	4.6%	61	4.0%
史学・哲学	80	2.3%	19	4.8%	33	2.2%	52	2.7%	0.4%	28	1.8%
語学関係(外国語・言語学・国際関係)	342	10.0%	60	15.1%	176	11.6%	236	12.3%	2.4%	106	7.0%
教育学(幼児教育を含む)	283	8.3%	27	6.8%	125	8.3%	152	7.9%	-0.3%	131	8.6%
保育学	161	4.7%	14	3.5%	64	4.2%	78	4.1%	-0.6%	83	5.5%
心理学	216	6.3%	17	4.3%	113	7.5%	130	6.8%	0.5%	86	5.7%
法学・政治学	164	4.8%	18	4.5%	86	5.7%	104	5.4%	0.7%	60	4.0%
経済学・経営学・商学	307	9.0%	29	7.3%	130	8.6%	159	8.3%	-0.6%	148	9.8%
社会学・福祉学	114	3.3%	12	3.0%	50	3.3%	62	3.2%	-0.1%	52	3.4%
理学・工学	108	3.2%	4	1.0%	50	3.3%	54	2.8%	-0.3%	54	3.6%
農学・水産学	76	2.2%	3	0.8%	24	1.6%	27	1.4%	-0.8%	49	3.2%
医学・歯学・薬学	89	2.6%	6	1.5%	36	2.4%	42	2.2%	-0.4%	47	3.1%
看護学	124	3.6%	15	3.8%	49	3.2%	64	3.3%	-0.3%	60	4.0%
医療技術(リハビリ・臨床検査など)	170	5.0%	10	2.5%	72	4.8%	82	4.3%	-0.7%	88	5.8%
食物学・栄養学	118	3.4%	15	3.8%	51	3.4%	66	3.5%	0.0%	52	3.4%
家政学関係(被服・住居)	42	1.2%	4	1.0%	21	1.4%	25	1.3%	0.1%	17	1.1%
体育学・健康科学	169	4.9%	18	4.5%	58	3.8%	76	4.0%	-1.0%	93	6.1%
芸術学(美術・音楽・デザイン)	178	5.2%	21	5.3%	74	4.9%	95	5.0%	-0.2%	83	5.5%
その他	349	10.2%	32	8.0%	100	6.6%	132	6.9%	-3.3%	217	14.3%

上記は、表頭(表の上側)に「Q7) 人文学部 観光文化学科(仮称)への進学意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*無回答・無効回答を除いて集計

*dif=関心層での比率－全体での比率

Q5) 進学先決定時の重視要因×Q7) 人文学部 観光文化学科(仮称)への進学意向

* Q5) 複数選択可(2 つまで)

関心層の進学先決定時の重視要因は、「学科、コース等の学びの分野」1,239 人(32.4%)が最も多く、「技術・資格の取得」800 人(20.9%)、「学費(入学金・授業料)」448 人(11.7%)と続いている。また、dif(関心層での比率－全体での比率)では、関心層と進学先決定時の重視要因で「入試の難易度・入試科目」を選択した層にやや相関性がみられる。

Q5) 進学先決定時の重視要因と Q7) 人文学部 観光文化学科(仮称)への進学意向との相関性

単位：(人) (%)

Q5) 進学先決定時の重視要因	全体平均		入学したいと思う		併願校の可否により入学を検討する		関心層		d i f	入学しない	
調査数	6,844	100.0%	815	100.0%	3,007	100.0%	3,822	100.0%		3,022	100.0%
学科、コース等の学びの分野	2,194	32.1%	274	33.6%	965	32.1%	1,239	32.4%	0.4%	955	31.6%
技術・資格の取得	1,490	21.8%	172	21.1%	628	20.9%	800	20.9%	-0.8%	690	22.8%
就職実績	631	9.2%	77	9.4%	269	8.9%	346	9.1%	-0.2%	285	9.4%
校舎・施設の充実	295	4.3%	36	4.4%	131	4.4%	167	4.4%	0.1%	128	4.2%
設置形態(国公立・私立)	174	2.5%	12	1.5%	85	2.8%	97	2.5%	0.0%	77	2.5%
学費(入学金・授業料)	756	11.0%	92	11.3%	356	11.8%	448	11.7%	0.7%	308	10.2%
奨学金制度の有無	238	3.5%	27	3.3%	101	3.4%	128	3.3%	-0.1%	110	3.6%
学校の伝統・知名度	73	1.1%	6	0.7%	32	1.1%	38	1.0%	-0.1%	35	1.2%
入試の難易度・入試科目	436	6.4%	65	8.0%	216	7.2%	281	7.4%	1.0%	155	5.1%
担任や進路指導の先生の意見	44	0.6%	5	0.6%	19	0.6%	24	0.6%	0.0%	20	0.7%
家族の意見	261	3.8%	26	3.2%	102	3.4%	128	3.3%	-0.5%	133	4.4%
アクセス・立地	171	2.5%	16	2.0%	84	2.8%	100	2.6%	0.1%	71	2.3%
その他	81	1.2%	7	0.9%	19	0.6%	26	0.7%	-0.5%	55	1.8%

上記は、表頭(表の上側)に「Q7) 人文学部 観光文化学科(仮称)への進学意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*無回答・無効回答を除いて集計

*dif＝関心層での比率－全体での比率

Q6) 人文学部 観光文化学科(仮称)の受験意向

×Q7) 人文学部 観光文化学科(仮称)への進学意向

関心層の人文学部 観光文化学科(仮称)への受験意向では、「受験したいと思う」が281人(13.5%)、「どちらともいえない」が1,560人(75.2%)、「受験したいと思わない」は234人(11.3%)となっている。また、dif(関心層での比率－全体での比率)では、関心層と受験意向で「どちらともいえない」を選択した層に非常に高い相関性がみられ、「受験したいと思う」を選択した層に相関性がみられる。

Q6) 人文学部 観光文化学科(仮称)の受験意向と

Q7) 人文学部 観光文化学科(仮称)への進学意向との相関性

単位：(人) (%)

Q6) 受験意向	全体平均		入学したいと思う		併願校の可否により入学を検討する		関心層		d i f	入学しない	
調査数	3,793	100.0%	452	100.0%	1,623	100.0%	2,075	100.0%		1,718	100.0%
受験したいと思う	291	7.7%	171	37.8%	110	6.8%	281	13.5%	5.9%	10	0.6%
どちらともいえない	2,104	55.5%	257	56.9%	1,303	80.3%	1,560	75.2%	19.7%	544	31.7%
受験したいと思わない	1,398	36.9%	24	5.3%	210	12.9%	234	11.3%	-25.6%	1,164	67.8%

上記は、表頭(表の上側)に「Q7) 人文学部 観光文化学科(仮称)への進学意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*無回答・無効回答を除いて集計

*dif=関心層での比率－全体での比率

Q8) 人文学部 観光文化学科(仮称)を受験したいと思わない理由

×Q7) 人文学部 観光文化学科(仮称)への進学意向

関心層の人文学部 観光文化学科(仮称)を受験したいと思わない理由では、「興味・関心のある学問分野ではないから」458人(45.4%)、「もっと詳しい情報を得た上で検討したいから」204人(20.2%)、「興味・関心のある学問分野ではあるが、他の大学への進学を検討しているから」は168人(16.7%)となっている。また、dif(関心層での比率－全体での比率)では、関心層と受験したいと思わない理由で「もっと詳しい情報を得た上で検討したいから」「興味・関心のある学問分野ではあるが、他の大学への進学を検討しているから」を選択した層に相関性がみられる。

Q8) 人文学部 観光文化学科(仮称)を受験したいと思わない理由

×Q7) 人文学部 観光文化学科(仮称)への進学意向との相関性

単位：(人) (%)

Q8) 受験しない理由	全体平均		入学したいと思う		併願校の合否により入学を検討する		関心層		dif	入学しない	
調査数	2,590	100.0%	156	100.0%	852	100.0%	1,008	100.0%		1,582	100.0%
興味・関心のある学問分野ではないから	1,637	63.2%	56	35.9%	402	47.2%	458	45.4%	-17.8%	1,179	74.5%
興味・関心のある学問分野ではあるが、他の大学への進学を検討しているから	263	10.2%	21	13.5%	147	17.3%	168	16.7%	6.5%	95	6.0%
新設学科に進学するのは不安だから	22	0.8%	8	5.1%	8	0.9%	16	1.6%	0.7%	6	0.4%
自宅の通学が不便そうだから	76	2.9%	9	5.8%	39	4.6%	48	4.8%	1.8%	28	1.8%
もっと詳しい情報を得た上で検討したいから	269	10.4%	36	23.1%	168	19.7%	204	20.2%	9.9%	65	4.1%
大学進学以外の進路を検討しているから	64	2.5%	2	1.3%	20	2.3%	22	2.2%	-0.3%	42	2.7%
学費が高いから	94	3.6%	18	11.5%	38	4.5%	56	5.6%	1.9%	38	2.4%
有名な大学でないから	57	2.2%	1	0.6%	12	1.4%	13	1.3%	-0.9%	44	2.8%
その他	108	4.2%	5	3.2%	18	2.1%	23	2.3%	-1.9%	85	5.4%

上記は、表頭(表の上側)に「Q7) 人文学部 観光文化学科(仮称)への進学意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*無回答・無効回答を除いて集計

*dif＝関心層での比率－全体での比率

Q6「受験したいと思う」×Q7「併願校の可否により入学を検討する」×Q9「意見・要望」の抽出

ポジティブな意見

Q 6	Q 7	Q 9	コメント分類
1	2	学べることがとても充実していて、興味をもった。	教育内容（学科の特色等）
1	2	観光文化学科の内容について知りたいと思いました。	
1	2	なにについて学ぶか知りたいです。	
1	2	どんな学科か、どんな授業、実践授業はあるか、学費	
1	2	グローバルになっていく中、こういう観光の事を学んで行くのはとても良いと思う。	
1	2	“海外研修、があるので、海外との交流もあってすてきでした。	海外研修
1	2	3か国語が学べてすごいと思ったし、海外研修は楽しそうだった。	
1	2	海外への留学もあると良いと思う	
1	2	海外研修が必修はとても良いと思います！！	
1	2	海外研修があるのはいいと思ったけど具体的にどこに行くかをおしえてほしい。	
1	2	海外研修の費用は、入学金に含まれているんですか？途中で、学ぶ語学を変えることはできますか？	海外研修（費用）
1	2	学費が気になる	学費
1	2	3か国語は選択か、全てとらないといけないのが気になる。	語学
1	2	自分は英語が好きなので、今後英語に関わる就業は考えていませんが、とても興味はあります。	就職
1	2	○入試科目が知りたい。	入試
1	2	沖縄は観光がさかんだからいいと思った。	感想
1	2	このような学科を期待していました。	
1	2	魅力的だと思います	
1	2	コロナの流行で、観光行が大打撃を受けたのを見て、これからの将来、また新しいウイルスが流行した時に、観光業は安定した職だとは思えない。だけど、沖縄の第3次産業を支えるためには、必要な学科だと思う。	
1	2	がんばっていききたい	
1	2	興味が湧いた。	
1	2	たのしそうですね。	
1	2	すごくいいと思います。開設したら、入学できる人達がうらやましいです。	
1	2	いいと思います！	
1	2	出来たら説明会とかには行ってみたい	
1	2	沖縄	その他

4. 進学需要分析

「Q6) 人文学部 観光文化学科(仮称)の受験意向」及び「Q7) 人文学部 観光文化学科(仮称)の進学意向」から、何らかの進学意向のある層が合計 1,841 人で、「受験したいと思う」かつ「入学したいと思う」人数は 171 人で、このうち 105 人は「Q3) 高校卒業後の進路」として「大学への進学」を選択している。

Q6) 受験意向	Q7) 進学意向	人数
受験したいと思う	入学したいと思う	171
受験したいと思う	併願校の可否により入学を検討する	110
どちらともいえない	入学したいと思う	257
どちらともいえない	併願校の可否により入学を検討する	1,303
	計	1,841

Q3) 高校卒業後の進路	人数
大学への進学	105
短期大学への進学	18
専門学校への進学	29
就職	6
その他	11
計	169

(次ページへ続く)

Q4) 進学希望分野(第1希望)	人数	Q4) 進学希望分野(第2希望) ※第1希望で①③を選んだ層は除く	人数
文学・人文科学(観光関連を含む)	31	文学・人文科学(観光関連を含む)	3
史学・哲学	1	史学・哲学	1
語学関係(外国語・言語学・国際関係)	41	語学関係(外国語・言語学・国際関係)	5
教育学(幼児教育を含む)	3	教育学(幼児教育を含む)	1
保育学	1	保育学	2
心理学	3	心理学	1
法学・政治学	2	法学・政治学	4
経済学・経営学・商学	10	経済学・経営学・商学	1
社会学・福祉学	1	社会学・福祉学	2
理学・工学	2	理学・工学	0
農学・水産学	0	農学・水産学	0
医学・歯学・薬学	1	医学・歯学・薬学	2
看護学	1	看護学	2
医療技術(リハビリ・臨床検査など)	1	医療技術(リハビリ・臨床検査など)	1
食物学・栄養学	3	食物学・栄養学	1
家政学関係(被服・住居)	0	家政学関係(被服・住居)	1
体育学・健康科学	0	体育学・健康科学	0
芸術学(美術・音楽・デザイン)	2	芸術学(美術・音楽・デザイン)	2
その他	0	その他	1
無回答・無効回答	2	無回答・無効回答	3
計	105	計	33

専門分野及び教育・研究の特色の面からみた人文学部 観光文化学科(仮称)への進学層は、「文学・人文科学(観光関連を含む)」及び「語学関係(外国語・言語学・国際関係)」を進学希望分野とする層と考えられるが、「Q4) 進学希望分野」では前述の105人のうち、第1希望:72人+第2希望:8人=合計80人がこの分野を選択している。

また、この分野を選択していない残り25人のうち14人は「Q5) 進学先決定時の重視要因」として「学科、コース等の学びの分野」を選択しておらず、残り11人のうち9人は「技術・資格の取得」「就職実績」「入試の難易度・入試科目」等も併せて「Q5) 進学先決定時の重視要因」として選択していることから、総合的な判断で人文学部 観光文化学科(仮称)への進学を希望していると考えられる。

なお、105人のうち2人は「学科、コース等の学びの分野」のみを進学先決定時の重視要因としており、かつ、進学希望分野で「文学・人文科学(観光関連を含む)」及び「語学関係(外国語・言語学・国際関係)」以外を選択もしくは未記入としていることから、保守的にこれを除いても103人が人文学部 観光文化学科(仮称)への進学者数となる。この数値は人文学部 観光文化学科(仮称)の入学定員90人を上回っており、沖縄キリスト教学院大学 人文学部 観光文化学科(仮称)への一定の進学需要があるといえる。

5. 補記

アンケート説明文 1/4



沖縄キリスト教学院大学
OKINAWA CHRISTIAN UNIVERSITY

県内私立大学初の観光系学科！

人文学部
観光文化学科 (仮称)
2024(令和6)年4月開設予定







OKINAWA CHRISTIAN UNIVERSITY

* 学科の名称、定員等の記載内容は現時点での計画であり変更することがあります。

■ 観光文化学科とは？

キリスト教教育による他者との協働、平和な地域社会・国際社会の実現へ貢献する人材の育成を土台にして、アジア圏観光客に対応できる「外国語の運用能力」を身につけ、国内でも有数の観光地の沖縄県を主な題材に、「文化資源領域」で観光のソフトパワーの知識を身につけ、「ホスピタリティ領域」でビジネス能力や文化資源・観光資源の活用方法を修得し、「持続可能領域」で文化と社会の動きを把握し、持続的な文化振興及び観光振興の発展に貢献できる能力を身につけることを目的とした学科です。

■ 学部・学科の構成



沖縄キリスト教学院大学

人文学部

観光文化学科

学位:学士(観光文化学)

入学定員(予定)

90人

収容定員(予定)

360人

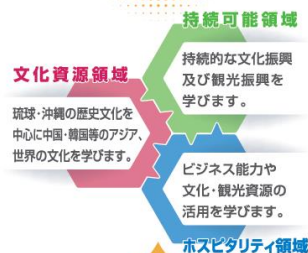
～ 学科の特色 ～

1



アジア、世界の観光客を視野に、「英語」「中国語」「韓国語」の3か国語を学べます。

2



「観光文化」について、文化資源・ホスピタリティ・持続可能の3つの領域で学びます。



■ 目指せる資格・検定

- TOEIC
- 実用英語技能検定
- TOPIK (韓国語能力試験)
- 中国語検定
- 世界遺産検定
- 秘書技能検定
- グローバル人材ビジネス実務検定
- 国内旅行業務取扱管理者
- フードツーリズムマイスター
- ホテル・マネジメント技能検定
- サービス接遇実務検定

■ 養成する人材像

「光を観る」という観光の学びとして、歴史・文化の本質を理解したうえで、文化資源や観光資源の光の価値を認識し、国内外へ発信できる人材、さらに、他の地域との比較から新たな価値を創出し、文化振興や観光振興に貢献できる人材を育成します。また、企業・団体等職員による授業や海外研修、インターシップなどの実践的な教育を強化することで、大学の教育・研究と地域社会の実態との差を無くし、観光産業発展に寄与できる優れた人材を育成します。

3



国際文化交流を目的とした短期の「海外研修」が必修で、異文化体験を通して学びを深めます。

4



航空会社・旅行会社・宿泊業での経験が豊富で、確かな専門性を教授できる教員陣が、理論と実践の授業を提供します。

5



企業・団体等職員の協力による授業や現場体験ができるインターシップなど実践的な教育を強化します。

■ 想定される就職先

地方公共団体
観光協会
文化振興や観光振興系の団体・NPO法人等
宿泊業（ホテル等）
旅行業（旅行代理店、ツアーコンダクター等）
運輸業（客室乗務員、航空会社、船会社等）
製造・小売業
レジャー業 など



アンケート説明文 4/4



■ 学納金について

- 初年度学納金(想定) -

学部・学科	入学金	授業料他	初年度総額
人文学部 観光文化学科	¥ 130,000.-	¥ 844,660.-	¥ 974,660.-

- 同分野の大学・学部・学科の初年度学納金(※2022年度) -

大学名	学部・学科名	所在地	入学金	授業料他	初年度総額
長崎国際大学	人間社会学部国際観光学科	長崎県	250,000	910,000	1,160,000
西南学院大学	人文学部観光文化学科	福岡県	270,000	920,000	1,190,000
大阪成蹊大学	国際観光学部	大阪府	250,000	1,209,660	1,459,660
文化学園大学	国際文化・観光学科	東京都		1,350,900	1,350,900

※ 他大学の学費は各大学ホームページ掲載情報(2022年4月時点)、諸経費は含まない

■ 設置予定地



OCU 沖縄県中頭郡
西原町字翁長777

■ 那覇バスターミナルから

97番 琉大線 キリスト教短大入口下車 徒歩5分
333番 那覇西原線 翁長(坂田小)下車 徒歩約10分
346番 那覇西原線 翁長(坂田小)下車 徒歩約10分

■ 首里駅から

94番 首里駅琉大快速線 キリスト教短大入口下車 徒歩約5分
346番 那覇西原線 翁長(坂田小)下車 徒歩約10分

■ てだこ浦西駅から ※モノレールでも通学できます

徒歩約25分
または駅=(徒歩10分)=徳佐田入口97番(琉球大学行き)
キリスト教短大入口下車 徒歩約5分



■ 普天間方面から

25番 普天間空港線 西原入口でのりかえ。
97番にのりかえて、キリスト教短大入口下車 徒歩約5分

■ 泡瀬・具志川方面から

30番 泡瀬東線 西原入口でのりかえ。
333番、346番で、翁長(坂田小)下車 徒歩約10分

■ お問い合わせ

沖縄キリスト教学院大学 大学設置室

〒903-0207 沖縄県中頭郡西原町字翁長777

TEL : 098-946-4161

FAX : 098-946-1241

e-mail : oci-secchi@ocjc.ac.jp

URL : <https://www.ocjc.ac.jp/>



LINE



Instagram



公式サイト

沖縄キリスト教学院大学

アンケート調査票 1/2

沖縄キリスト教学院大学 人文学部観光文化学科設置計画に係る高校生進学意向調査

沖縄キリスト教学院大学では、2024 年 4 月から人文学部へ新たに「観光文化学科」（仮称）を設置することを検討しています。この調査は、高校生のみなさんの進路選択等の意見をお伺いし、計画検討の参考とさせていただくために行うものであり、この調査で得られた回答内容は、統計資料としてのみに使い、他の目的で使用することはありません。また、回答内容が本学の受験や入学に影響を及ぼすことはありませんので、ぜひ皆さんの率直なご意見をお聞かせください。

※アンケートやリーフレットに記載されている観光文化学科に関する事項は、すべて予定であり内容は変更になる可能性があります。

【質問1】 あなたの性別は、どちらですか。いずれかに○を付けてください。

- 1 男性 2 女性 3 未回答

【質問2】あなたのお住まいは（現住所）、どちらですか。いずれかに○を付けてください。

- | | | |
|-------|--------|----------|
| 1 沖縄県 | 2 福岡県 | 3 熊本県 |
| 4 長崎県 | 5 佐賀県 | 6 大分県 |
| 7 宮崎県 | 8 鹿児島県 | 9 その他() |

【質問3】あなたは高校卒業後どのような進路を考えていますか。1つ選び○を付けてください。

- 1 大学への進学 2 短期大学への進学 3 専門学校への進学
4 就職 5 その他()

*【質問4】以降は、【質問3】で「1. 大学への進学」「2. 短期大学への進学」「3. 専門学校への進学」と回答した方のみお答えください。

【質問 4】 あなたの進学したい分野は次のうちのどれですか。

第1希望、第2希望の該当する欄にそれぞれ1つずつ○を付けてください。

	分野	第1希望	第2希望
1	文学・人文科学(観光関連を含む)		
2	史学・哲学		
3	語学関係(外国語・言語学・国際関係)		
4	教育学(幼児教育を含む)		
5	保育学		
6	心理学		
7	法学・政治学		
8	経済学・経営学・商学		
9	社会学・福祉学		
10	理学・工学		
11	農学・水産学		
12	医学・歯学・薬学		
13	看護学		
14	医療技術(リハビリ・臨床検査など)		
15	食物学・栄養学		
16	家政学関係(被服・住居)		
17	体育学・健康科学		
18	芸術学(美術・音楽・デザイン)		
19	その他		

裏面へ続く

アンケート調査票 2/2

【質問 5】あなたは進学先を決定する際に、どのような要因を重視しますか。次の中から 2 つまで 選び ○ を付けてください。

- | | | |
|------------------|----------------|---------------|
| 1 学科、コース等の学びの分野 | 2 技術・資格の取得 | 3 就職実績 |
| 4 校舎・施設の充実 | 5 設置形態(国公立・私立) | 6 学費(入学金・授業料) |
| 7 奨学金制度の有無 | 8 学校の伝統・知名度 | 9 入試の難易度・入試科目 |
| 10 担任や進路指導の先生の意見 | 11 家族の意見 | 12 アクセス・立地 |
| 13 その他() | | |

次の【質問 6】以降は、別紙リーフレットをご覧ください、ご記入ください。

沖縄キリスト教学院大学 人文学部 観光文化学科について

【質問 6】沖縄キリスト教学院大学 人文学部 観光文化学科を受験したいと思いますか。次の中から 1 つ選び ○ を付けてください。

- 1 受験したいと思う 2 どちらともいえない 3 受験したいと思わない

【質問 7】は、【質問 6】で「1 受験したいと思う」「2 どちらともいえない」と回答した方のみお答えください。その他の方は【質問 8】へお進みください。

【質問 7】沖縄キリスト教学院大学 人文学部 観光文化学科に合格した場合、入学したいと思いますか。次の中から 1 つ選び ○ を付けてください。

- 1 入学したいと思う 2 併願校の可否により入学を検討する 3 入学しない

【質問 8】沖縄キリスト教学院大学 人文学部 観光文化学科を受験したいと思わない理由をお答えください。1 つ選び ○ をつけてください。

- 1 興味・関心のある学問分野ではないから
2 興味・関心のある学問分野ではあるが、他の大学への進学を検討しているから
3 新設学科に進学するのは不安だから 4 自宅からの通学が不便そうだから
5 もっと詳しい情報を得た上で検討したいから
6 大学進学以外の進路を検討しているから
7 学費が高いから 8 有名な大学ではないから
9 その他()

【質問 9】沖縄キリスト教学院大学 人文学部 観光文化学科に対するご意見・ご要望をお聞かせください。

質問は以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。

沖縄キリスト教学院大学
企画推進課

資料6 人文科学分野の動向

出典：中央教育審議会大学分科会 将来構想部会（第9期～）（第6回）配付資料 資料4-2 高等教育に関する基礎データ（地域別・分野別）

人文科学	北海道			東北			北関東			東京圏		
進学者数（H28）	2,446			3,657			4,023			26,092		
構成比	11.9%			10.4%			12.1%			14.3%		
国公私別	196	69	2,181	818	201	2,638	514	276	3,233	819	665	24,608
構成比	8%	3%	89%	22%	5%	72%	13%	7%	80%	3%	3%	94%
進学者数推計（H45）	1,806			2,653			3,114			24,801		
国公私別	145	51	1,611	593	146	1,913	398	214	2,503	778	632	23,390
進学者減少推計（H45）	-640			-1,004			-909			-1,291		
入学定員（H28）	1,548			1,605			1,305			35,130		
構成比	8.2%			6.3%			7.3%			14.7%		
国公私別	0	0	1,548	775	0	830	635	200	470	1,005	1,550	32,575
構成比	0%	0%	100%	48%	0%	52%	49%	15%	36%	3%	4%	93%
入学者数（H28）	1,370			1,736			1,397			37,392		
構成比	7.3%			6.8%			7.7%			14.6%		
国公私別	0	0	1,054	822	0	914	689	236	472	1,068	933	35,391
構成比	0%	0%	100%	47%	0%	53%	49%	17%	34%	3%	2%	95%
入学者推計（H45）	1,054			1,299			1,144			33,307		
国公私別	0	0	1,370	615	0	684	564	193	386	951	831	31,524
入学者減少推計（H45）	-316			-437			-253			-4,085		
進学者収容力（H28）	63.3%			43.9%			32.4%			134.6%		
進学者収容力推計（H45）	85.7%			60.5%			41.9%			141.6%		
定員充足率（H28）	88.5%			108.2%			107.0%			106.4%		
定員充足率推計（H45）	68.1%			80.9%			87.7%			94.8%		

人文科学	甲信越			北陸			東海			近畿		
進学者数（H28）	2,916			1,406			10,008			17,609		
構成比	12.4%			10.2%			13.8%			15.9%		
国公私別	406	272	2,238	264	126	1,016	1,029	708	8,271	894	578	16,137
構成比	14%	9%	77%	19%	9%	72%	10%	7%	83%	5%	3%	92%
進学者数推計（H45）	2,152			1,091			8,392			14,013		
国公私別	300	201	1,652	205	98	788	863	594	6,935	711	460	12,841
進学者減少推計（H45）	-764			-315			-1,616			-3,596		
入学定員（H28）	1,390			315			7,565			22,009		
構成比	10.7%			3.1%			13.5%			18.0%		
国公私別	380	690	320	185	0	130	840	440	6,285	1,370	685	19,954
構成比	27%	50%	23%	59%	0%	41%	11%	6%	83%	6%	3%	91%
入学者数（H28）	1,486			339			8,030			22,944		
構成比	11.2%			3.2%			13.9%			17.9%		
国公私別	405	805	276	196	0	143	868	479	6,683	1,446	734	20,764
構成比	27%	54%	19%	58%	0%	42%	11%	6%	83%	6%	3%	90%
入学者推計（H45）	1,200			263			6,728			18,363		
国公私別	327	650	223	152	0	111	727	401	5,599	1,157	587	16,618
入学者減少推計（H45）	-286			-76			-1,302			-4,581		
進学者収容力（H28）	47.7%			22.4%			75.6%			125.0%		
進学者収容力推計（H45）	64.6%			28.9%			90.2%			157.1%		
定員充足率（H28）	106.9%			107.6%			106.1%			104.2%		
定員充足率推計（H45）	86.3%			83.6%			88.9%			83.4%		

人文科学	中国			四国			九州			全国		
進学者数 (H28)	4,367			2,060			7,873			84,523		
構成比	13.1%			12.3%			13.1%			13.7%		
国公私別	464	314	3,589	177	232	1,651	635	805	6,433	6,365	4,302	73,856
構成比	11%	7%	82%	9%	11%	80%	8%	10%	82%	8%	5%	87%
進学者数推計 (H45)	3,645			1,581			7,052			71,555		
国公私別	387	262	2,996	136	178	1,267	569	721	5,762	5,388	3,642	62,525
進学者減少推計 (H45)	-722			-479			-821			-12,968		
入学定員 (H28)	3,284			855			5,772			80,778		
構成比	11.1%			8.1%			11.6%			13.6%		
国公私別	500	114	2,670	0	150	705	330	753	4,689	6,020	4,582	70,176
構成比	15%	3%	81%	0%	18%	82%	6%	13%	81%	7%	6%	87%
入学者数 (H28)	3,045			762			6,022			84,523		
構成比	10.3%			7.3%			11.9%			13.7%		
国公私別	523	128	2,394	0	163	599	348	824	4,850	6,365	4,302	73,856
構成比	17%	4%	79%	0%	21%	79%	6%	14%	81%	8%	5%	87%
入学者推計 (H45)	2,538			609			5,303			71,807		
国公私別	436	107	1,995	0	130	479	306	726	4,271	5,237	3,626	62,945
入学者減少推計 (H45)	-507			-153			-719			-12,716		
進学者収容力 (H28)	75.2%			41.5%			73.3%			95.6%		
進学者収容力推計 (H45)	90.1%			54.1%			81.9%			112.9%		
定員充足率 (H28)	92.7%			89.1%			104.3%			104.6%		
定員充足率推計 (H45)	77.3%			71.3%			91.9%			88.9%		

- ・ 進学者数 (H28)：各地域に所在する高校等を卒業した者で H28 に全国いずれかの大学に進学した者の数（過年度卒業者等を含む）
- ・ 進学者数推計 (H45)：各県における H45 の大学進学率が H27 と同率と仮定した場合の各地域における H45 の大学進学者数
- ・ 進学者減少推計 (H45)：「進学者数推計 (H45)」－「進学者数 (H28)」
- ・ 入学定員 (H28)：各地域に所在する大学の入学定員（学部所在地による。学部内の学科の分野が複数の大分類にまたがる場合は、入学定員数が最も多い分野・地域に集計するなど補正している。）
- ・ 入学者数 (H28)：H28 に、各地域に所在する大学（入学した学部の所在地による。）に入学した者の数（過年度卒業者等を含む）
- ・ 入学者数推計 (H45)：各県における H45 の大学進学率が H27 と同率と仮定した場合の各地域における H45 の大学入学者数
- ・ 入学者減少推計 (H45)：「入学者数推計 (H45)」－「入学者数 (H28)」
- ・ 進学者収容力 (H28)：進学者数 (H28) に対する入学定員 (H28) の割合
- ・ 進学者収容力推計 (H45)：進学者数推計 (H45) に対する入学定員 (H28) の割合
- ・ 定員充足率 (H28)：入学定員 (H28) に対する入学者数 (H28) の比率
- ・ 定員充足率推計 (H45)：入学定員 (H28) に対する入学者数推計 (H45) の比率

資料7 学部・学科トレンド分析

出典①：リクルート進学総研 カレッジマネジメント特集記事より 学部・学科トレンド 2021 (Vol.232 掲載)
「図表1 学科の78学問分類と2018-2021 トrend一覧」

出典②：リクルート進学総研 カレッジマネジメント特集記事より 学部・学科トレンド 2019 (Vol.216 掲載)
「図表1 学科の78学問分類と2016-2018 トrend一覧」

出典③：リクルート進学総研 カレッジマネジメント特集記事より 学部・学科トレンド 2021 (Vol.232 掲載)
「図表2-8a 社会・マスコミ系統の動向」

資料8 18歳人口及び進学率の動向

出典①：リクルート進学総研 マーケットレポート Vol.94 2022年5月号

「18歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向」より抜粋

- ・18歳人口予測（全体：全国：2021～2033年）
- ・18歳人口予測（全体：都道府県別：2021→2033年）
- ・地元残留率（全体：大学・短期大学入学者数：都道府県別：2021年）
- ・18歳人口減少率×地元残留率（大学入学者：都道府県別：2021→2033年）

出典②：リクルート進学総研 マーケットレポート Vol.105 2022年6月号

「18歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向 九州沖縄版」より抜粋

- ・進学者数・進学率（現役）の推移（全体：県別：2012～2021年）

資料9 地方公共団体、関係団体からの賛同・要望

賛同書・要望書一覧

	種別	地方公共団体、関係団体名
1	賛同書	沖縄県文化観光スポーツ部
2	要望書	一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー
3	要望書	西原町

沖縄キリスト教学院大学 人文学部 観光文化学科(仮称)
設置に係るニーズ調査報告書（事業所編）

2023 年 2 月

丸善雄松堂株式会社
Research & Innovation 本部
コンサルティング部

 **MARUZEN-YUSHODO**

目次

1. 調査概要	2
2. 全体集計結果	3
3. 採用需要分析	16
4. 沖縄キリスト教学院大学 人文学部 観光文化学科(仮称)への関心分析	17
5. 補記	23

1. 調査概要

(1) 調査目的

沖縄キリスト教学院大学 人文学部 観光文化学科(仮称)設置計画検討のため、本アンケート調査により事業所の人材需要等を把握し、定員増員計画の基礎資料とすることを目的とする。

(2) 調査対象

沖縄キリスト教学院大学 人文学部 観光文化学科(仮称)の卒業生の実績等を参考に選定した企業・事業所。

(3) 実施時期

2022 年 10 月 20 日～2022 年 11 月 9 日

(4) 回収状況

本調査では 500 事業所を対象にアンケート調査票を配布し、131 件のアンケートを回収することができた。(回収率 26.2%)

(5) 調査方法

調査票による定量調査。(アンケート調査)

(6) 利用調査票

添付アンケート調査票参照。

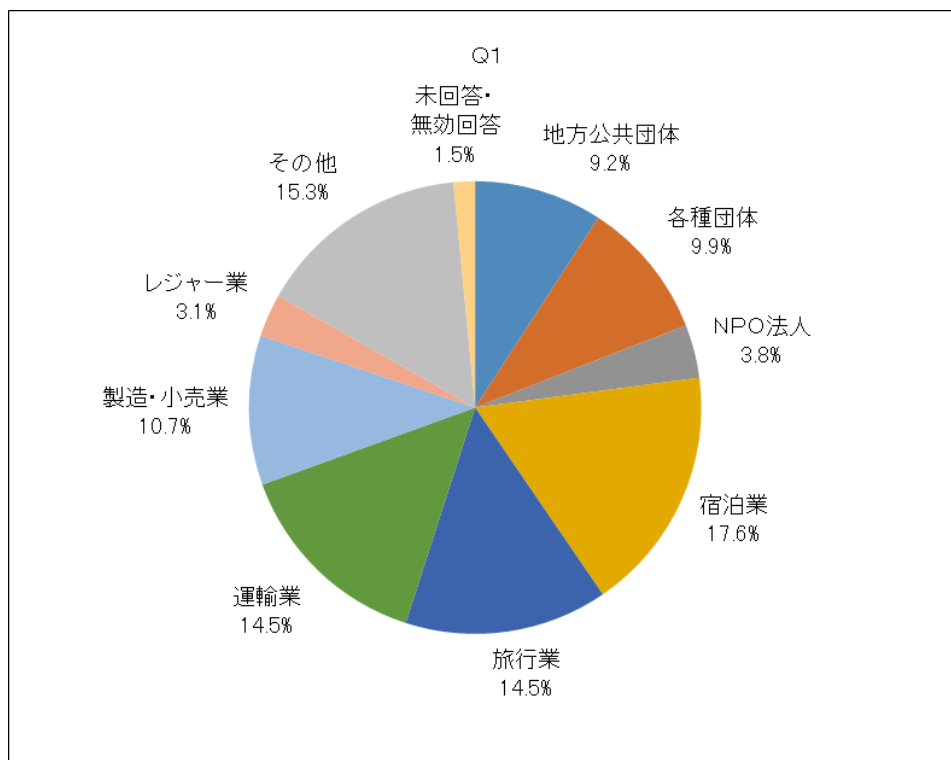
2. 全体集計結果

Q1) 事業所の種別

回答事業所の種別は、「宿泊業」23 事業所(17.6%)が最も多く、次に「その他」20 事業所(15.3%)、更に「旅行業」「運輸業」がそれぞれ 19 事業所(14.5%)と続いている。

Q1) 貴事業所の主たる種別は次のどれですか。

Q 1	回答数（事業所）	構成比（％）
全体	131	100.0%
地方公共団体	12	9.2%
各種団体	13	9.9%
N P O 法人	5	3.8%
宿泊業	23	17.6%
旅行業	19	14.5%
運輸業	19	14.5%
製造・小売業	14	10.7%
レジャー業	4	3.1%
その他	20	15.3%
未回答・無効回答	2	1.5%



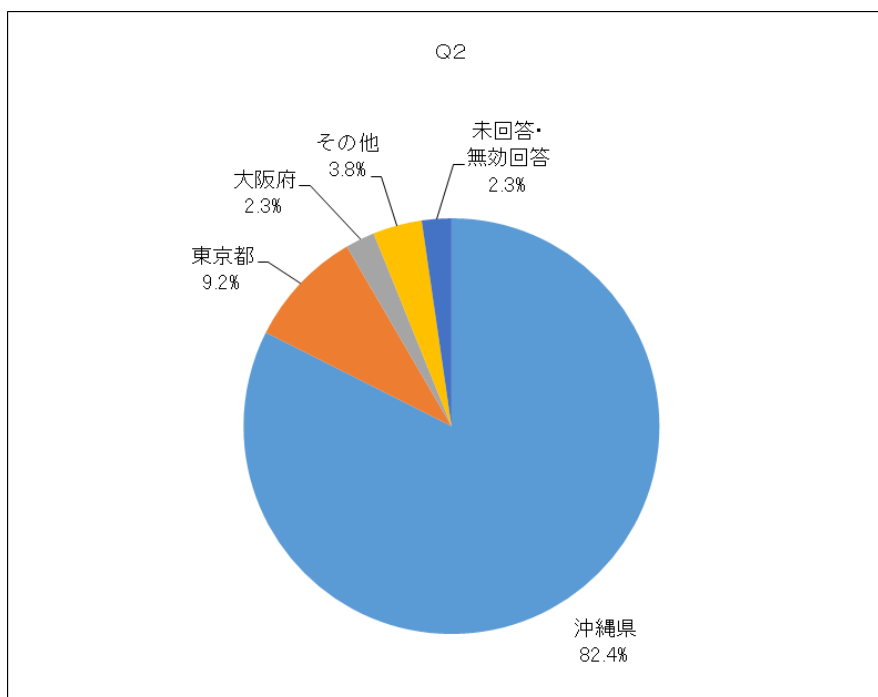
*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q2) 事業所の所在地

回答事業所の所在地は、「沖縄県」が 108 事業所 (82.4%) と最も多く 8 割以上となっており、次いで「東京都」12 事業所 (9.2%)、「その他」5 事業所 (3.8%) となっている。

Q2) 貴事業所の主たる所在地をお教えてください。

	回答数（事業所）	構成比（％）
全体	131	100.0%
沖縄県	108	82.4%
東京都	12	9.2%
大阪府	3	2.3%
その他	5	3.8%
未回答・無効回答	3	2.3%



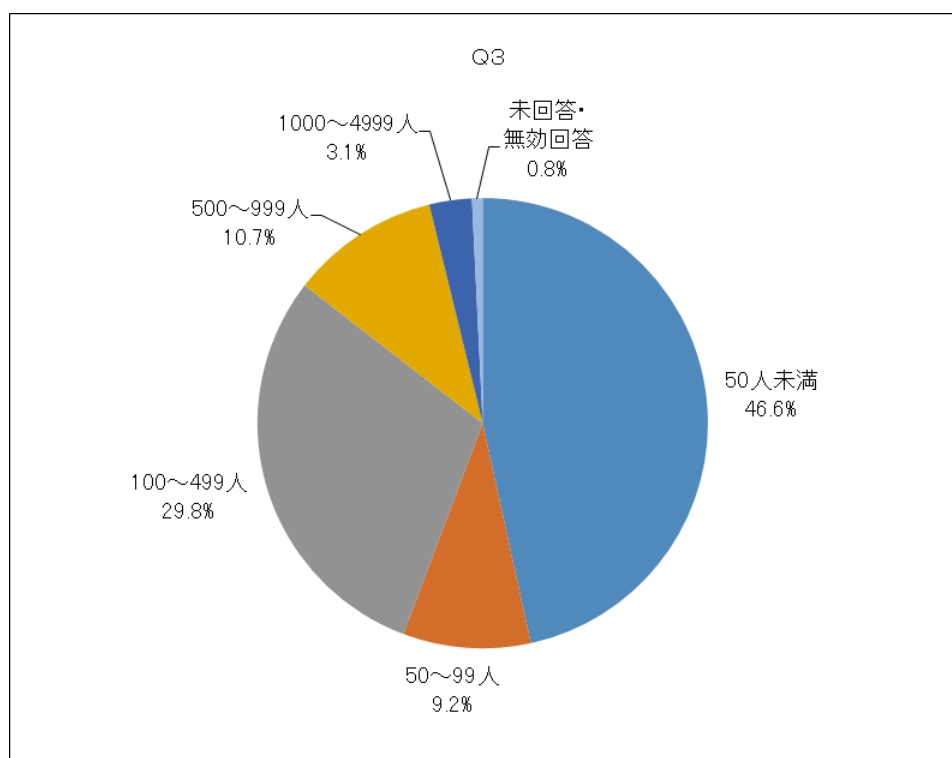
*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q3) 事業所の規模

回答事業所の規模は、「50 人未満」61 事業所 (46. 6%) が最も多く、「100～499 人」39 事業所 (29. 8%)、「500～999 人」14 事業所 (10. 7%) と続いている。

Q3) 貴事業所の従業員数（正規職員）について、該当するものを 1 つ選び○をつけてください。

	回答数（事業所）	構成比（％）
全体	131	100.0%
50人未満	61	46.6%
50～99人	12	9.2%
100～499人	39	29.8%
500～999人	14	10.7%
1000～4999人	4	3.1%
5000人以上	0	0.0%
未回答・無効回答	1	0.8%



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q4) 過去 3 年間の年度別四年制大学新卒者採用人数

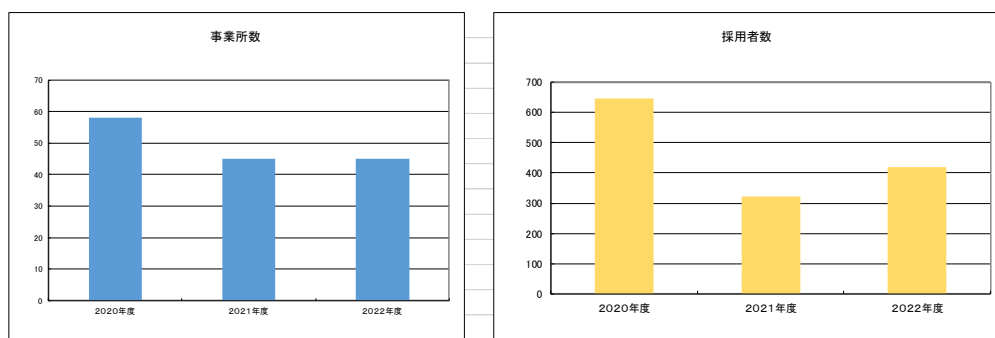
回答事業所の過去 3 年間の年度別四年制大学新卒者採用人数は、2020 年度が 58 事業所 646 人、2021 年度が 45 事業所 323 人、2022 年度が 45 事業所 418 人で、2020 年度から 2021 年度にかけては採用人数が半減したものの、2022 年度には増加に転じている状況であることがわかる。

Q4) 貴事業所では、過去 3 年間で四年制大学新卒者を何人採用されましたか。

該当する欄に採用人数をご記入ください。＊詳細がご不明な場合は概数をご記入ください。

年度別採用数(事業所・人)

2020年度			2021年度			2022年度		
	事業者数(事業所)	採用人数(人)		事業者数(事業所)	採用人数(人)		事業者数(事業所)	採用人数(人)
合計	58	646	合計	45	323	合計	45	418



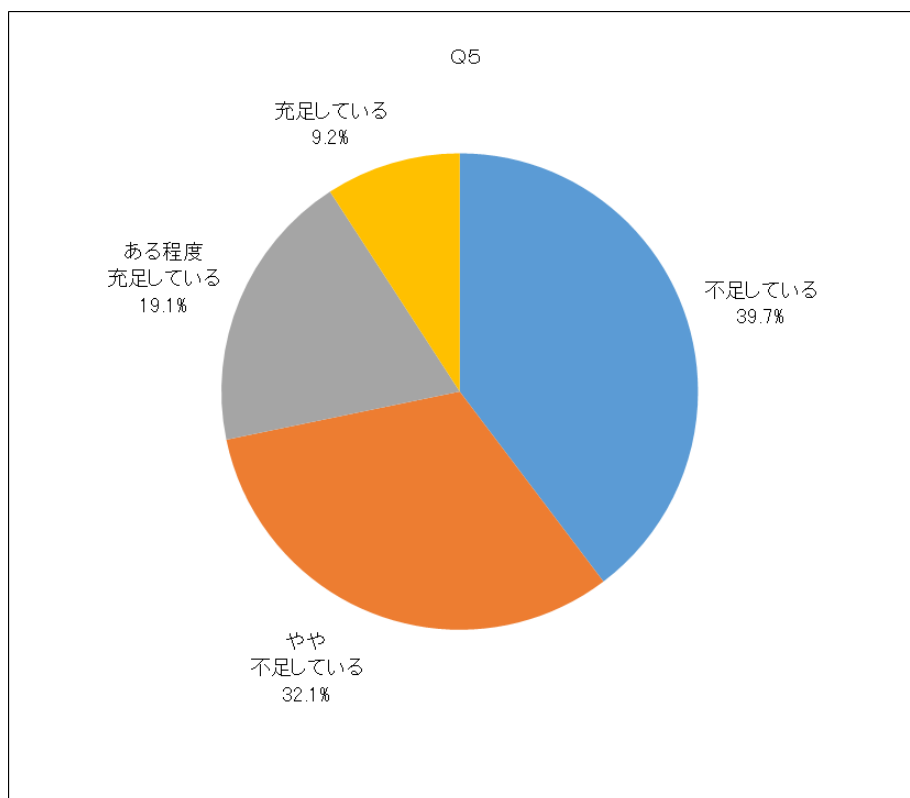
＊パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q5) 過去 3 年間の人材採用充足状況

過去 3 年間の人材採用充足状況は、「不足している」が 52 事業所 (39.7%)、「やや不足している」が 42 事業所 (32.1%) で、これらの合計は 94 事業所 (71.8%) で 7 割以上となっている。一方、「ある程度充足している」は 25 事業所 (19.1%)、「充足している」は 12 事業所 (9.2%) で、これらの合計は 37 事業所 (28.3%) となっている。

Q5) 貴事業所では、過去 3 年間の人材採用の充足状況についてどのようにお考えですか。

	回答数（事業所）	構成比（％）
全体	131	100.0%
不足している	52	39.7%
やや不足している	42	32.1%
ある程度充足している	25	19.1%
充足している	12	9.2%
未回答・無効回答	0	0.0%



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

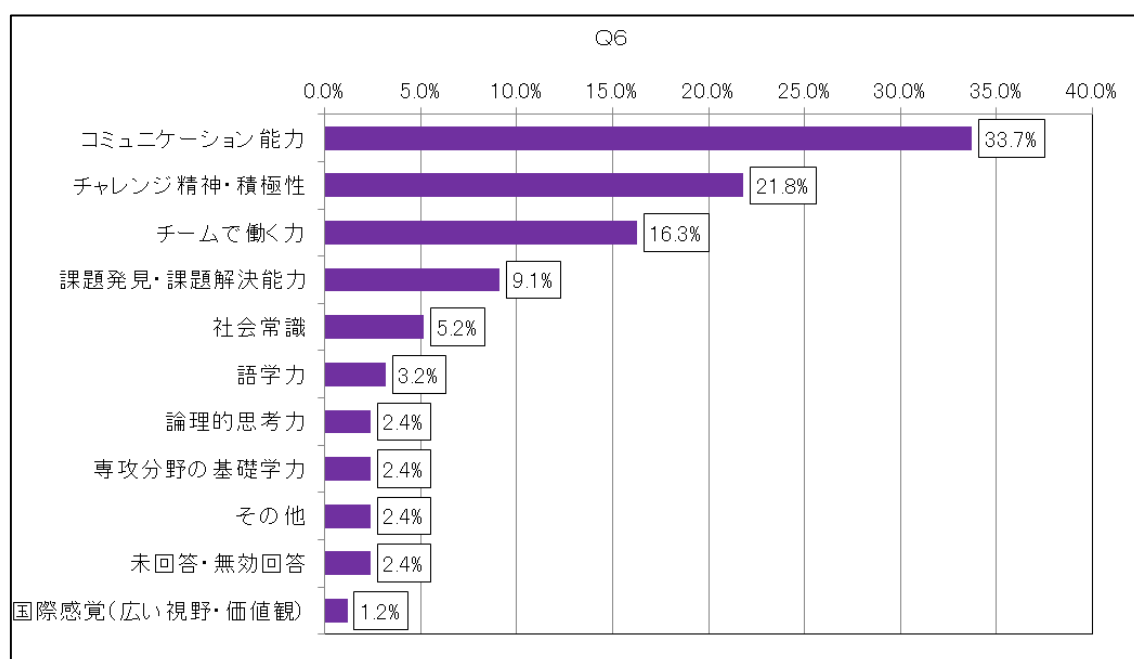
Q6) 人材採用時の重視点 *複数選択可(2つまで)

回答事業所の人材採用時の重視点は、「コミュニケーション能力」85 事業所 (33.7%) が最も多く、「チャレンジ精神・積極性」55 事業所 (21.8%)、「チームで働く力」41 事業所 (16.3%) と続いている。

Q6) 貴事業所では人材採用の際、どのような点を重視されていますか。

次の中から2つまで選び、○をつけてください。

	回答数（事業所）	構成比（％）
全体	252	100.0%
コミュニケーション能力	85	33.7%
チャレンジ精神・積極性	55	21.8%
チームで働く力	41	16.3%
課題発見・課題解決能力	23	9.1%
社会常識	13	5.2%
語学力	8	3.2%
論理的思考力	6	2.4%
専攻分野の基礎学力	6	2.4%
その他	6	2.4%
未回答・無効回答	6	2.4%
国際感覚（広い視野・価値観）	3	1.2%



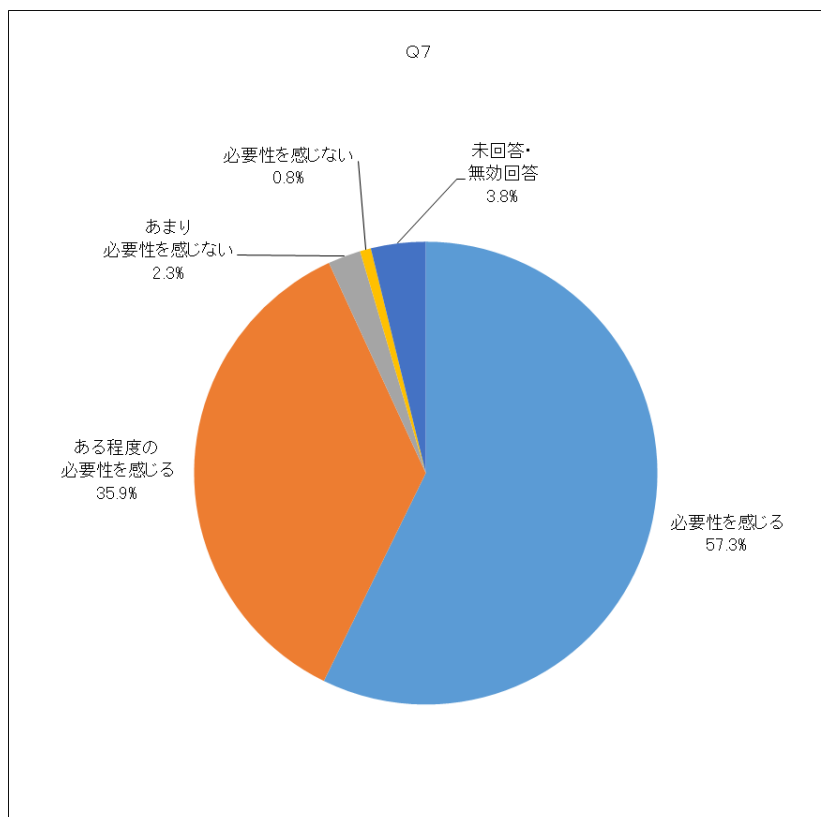
*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q7) 沖縄キリスト教学院大学 人文学部 観光文化学科(仮称)設置の必要性

沖縄キリスト教学院大学 人文学部 観光文化学科(仮称)設置の必要性について、「必要性を感じる」が75事業所(57.3%)と最も多く、次いで「ある程度の必要性を感じる」が47事業所(35.9%)となっており、これらの合計が122事業所(93.2%)と、9割以上の事業所が新学科設置について何らかの必要性を感じている。一方、「あまり必要性を感じない」は3事業所(2.3%)、「必要性を感じない」は1事業所(0.8%)でこれらの合計は4事業所(3.1%)となっており、5事業所(3.8%)は未回答・無効回答となっている。

Q7) 沖縄キリスト教学院大学 人文学部 観光文化学科(仮称)の設置計画について どの程度必要性を感じますか。

	回答数（事業所）	構成比（％）
全体	131	100.0%
必要性を感じる	75	57.3%
ある程度の必要性を感じる	47	35.9%
あまり必要性を感じない	3	2.3%
必要性を感じない	1	0.8%
未回答・無効回答	5	3.8%



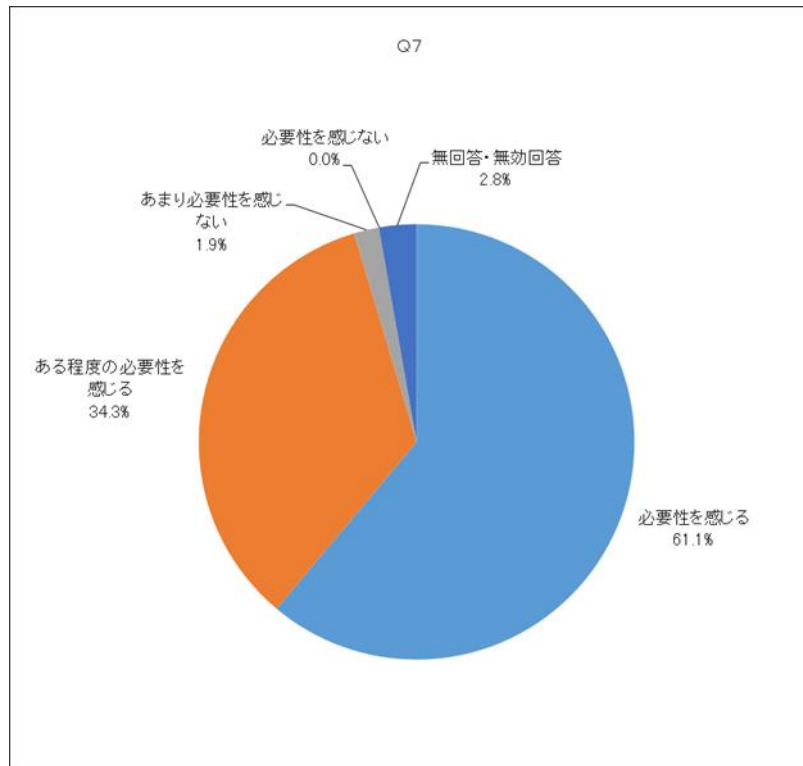
*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

(参考) 沖縄県の事業所の学科設置の必要性に関する回答

沖縄キリスト教学院大学 人文学部 観光文化学科(仮称)設置の必要性について、Q2で「沖縄県」と回答した事業所の、Q7) 学科設置の必要性に関する回答結果は以下のとおり。「必要性を感じる」が 66 事業所(61.1%)と最も多く、次いで「ある程度の必要性を感じる」が 37 事業所(34.3%)となっており、これらの合計が 103 事業所(95.4%)と、9 割以上の事業所が新学科設置について何らかの必要性を感じている。一方、「あまり必要性を感じない」は 2 事業所(1.9%)、「必要性を感じない」と回答した事業所はなかった。なお、3 事業所(2.8%)は無回答・無効回答となっている。

**Q7) 沖縄キリスト教学院大学 人文学部 観光文化学科(仮称)の設置計画について
どの程度必要性を感じますか。**

Q2)にて 「沖縄県」 と回答した層 (108事業所)	Q7)学科設置の必要性	回答数(事業所)	構成比(%)
	必要性を感じる	66	61.1%
	ある程度の必要性を感じる	37	34.3%
	あまり必要性を感じない	2	1.9%
	必要性を感じない	0	0.0%
	無回答・無効回答	3	2.8%



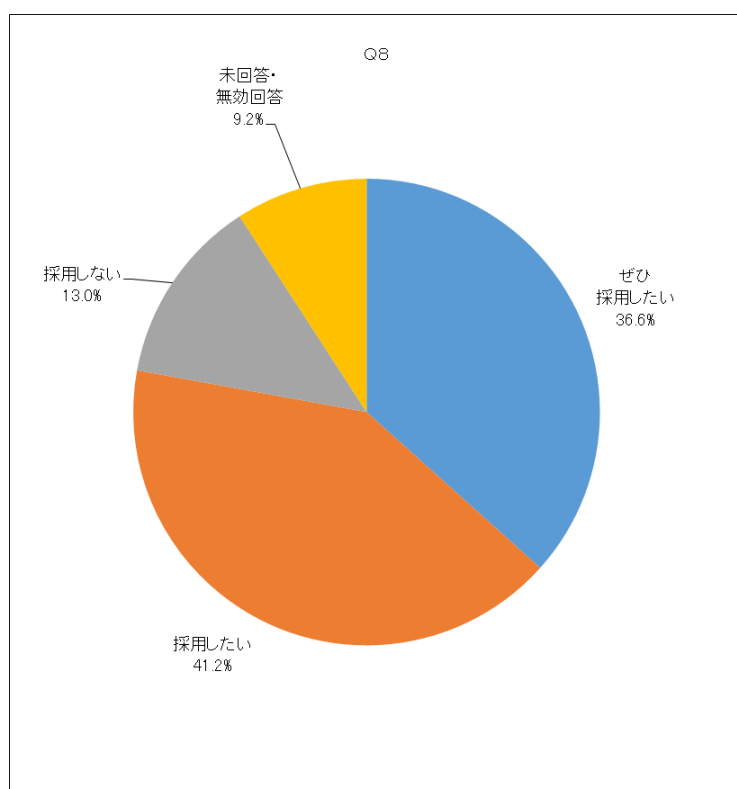
*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q8) 沖縄キリスト教学院大学 人文学部 観光文化学科(仮称)卒業生の採用意向

沖縄キリスト教学院大学 人文学部 観光文化学科(仮称)卒業生の採用意向について、「ぜひ採用したい」が48事業所(36.6%)、「採用したい」が54事業所(41.2%)で、何らかの採用意向を持つこれらの合計が102事業所(77.8%)で8割近くとなっている。一方、「採用しない」は17事業所(13.0%)で、12事業所(9.2%)は未回答・無効回答となっている。

Q8) 沖縄キリスト教学院大学 人文学部 観光文化学科を卒業した人材を、貴機関・貴社において採用したいと思われますか。

	回答数(事業所)	構成比(%)
全体	131	100.0%
ぜひ採用したい	48	36.6%
採用したい	54	41.2%
採用しない	17	13.0%
未回答・無効回答	12	9.2%



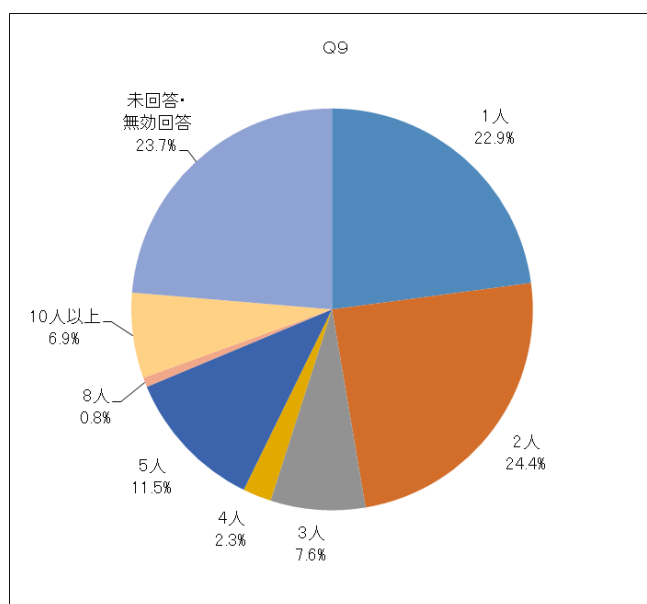
*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q9) 沖縄キリスト教学院大学 人文学部 観光文化学科 (仮称) 卒業生の採用意向人数

沖縄キリスト教学院大学 人文学部 観光文化学科 (仮称) 卒業生の採用意向人数は、「2 人」が 32 事業所 (24. 4%) と最も多く、「未回答・無効回答」が 31 事業所 (23. 7%)、「1 人」が 30 事業所 (22. 9%) と続いており、1 事業所あたりの採用可能人数は多くないものの、「ぜひ採用したい」及び「採用したい」と回答した層の採用希望人数は合計で 322 人となっている。

Q9) 質問 8 において選択肢 1 または 2 の場合、今後何人程度が採用可能と思われますか。

	回答数 (事業所)	構成比 (%)
全体	131	100.0%
1人	30	22.9%
2人	32	24.4%
3人	10	7.6%
4人	3	2.3%
5人	15	11.5%
6人	0	0.0%
7人	0	0.0%
8人	1	0.8%
9人	0	0.0%
10人以上	9	6.9%
未回答・無効回答	31	23.7%



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q8)採用意向	採用希望人数内訳 (人)	
ぜひ採用したい	48事業所→計229人	内、1事業所→未回答
採用したい	54事業所→計93人	内、3事業所→未回答
合計	322人	

Q10) 沖縄キリスト教学院大学 人文学部 観光文化学科(仮称)への意見・要望

Q10) 沖縄キリスト教学院大学 人文学部 観光文化学科(仮称)に対するご意見・ご要望をお聞かせください。

・リゾートウェディングも沖縄観光業の一部を担っていると自負しているので、リゾートウェディングのコマを1コマでもあるとうれしいです！（その際、協力できることがあれば協力します！）・コロナ禍で観光業界へのイメージが下がっている中、どれだけの志望者がいるのかは少し不安が残ります。	教育内容について
・語学堪能でその分野でも対応できる、グローバルな人材を育成し沖縄経済の礎を作り出してほしい。	教育内容について
※2018年度より各事業所での配属となっております。直接の採用は難しいです。※琉球村は登録有形文化財の古民家が8棟あり、沖縄の歴史、文化を肌で感じられる施設です。お客様とのふれあいを大切に日々頑張っています。外国からのお客様もいますので外国語が話せるスタッフがいれば心強いです。	教育内容について
弊社は、那覇空港駅を玄関口として国内外多くのお客様に御利用いただいています。語学力やおもてなし力を兼ね備えた人材の育成に期待いたします。	教育内容について
日本の語学教育は英語中心であるが、実態として人の流動はアジア圏が多数を占めている。中国語、韓国語を学ぶことは日本の旅行業にとって大変重要だと考える。また、コロナ禍は日本の旅行業界を根底から変える機会となった。オンライン中心の販売形態、DXを活用したビジネス展開等、時代に合った感覚で観光業の活性を考えられる人材の輩出を期待します。	教育内容について
語学教育に注力頂けると幸いです。	教育内容について
従来より、貴校卒の皆様は語学力があると、実感しております。国際人材の輩出、活躍を願っております。	教育内容について
・文化資源が多く多くの県民にとって近い存在ではなかったり十分に観光等に活かされてはいないのが現状と思われるので、文化は文化、観光等は観光等と縦割りではなく、他分野との連携を図ることができるなど、文化振興に必要な職能を有する担い手（マネジメント・プロモート人材等）の育成を行っていただきたいです。・人材育成にあたっては、文化関係団体や県立芸術大学、国立劇場、OCVBなどの現場との連携が有益と思います。	教育内容について
これからの日本の経済を支える、観光の重要性、リスク、日本文化を支える礎であることを理解した人材の育成をお願いしたい。	教育内容について
ホテルでの仕事の楽しさや大変さを感じとれる様、是非長期のインターンシップを企画されては如何でしょうか	教育内容について
沖縄における観光の重要性を理解し、自然、歴史、文化等を学ぶ場所として学生の共育をお願いしたい。また、現在観光業に従事する人向けに授業内容などをWeb講座等で学ぶ機会を作っていただくとありがたいと思います。	教育内容について
沖縄の観光を安売りしない様価値のある人材の育成が必要だと思う。ホスピタリティ	教育内容について
沖縄の文化・歴史を専門的に学び、学芸員の資格を取得し文化財・歴史資料等観光の視点で保存・継承・発信できる人材をぜひ育成して頂きたい。	教育内容について
沖縄は観光が経済基盤のため、経済発展を含めた沖縄の未来像を描けるカリキュラムを作してほしい。	教育内容について
沖縄県内では観光に関する事業者が多いが、観光を学ぶ機会／場所が少ないと感じる。もちろん、専門知識を最初に持っていても、その人次第で活躍できる業界ではあるが、観光について学ぶ学生を増やすことは、沖縄県全体のメリットであると思う。県外・海外で活躍していく人も含め、学校生活ではぜひ沖縄と日本の魅力について学ぶ・感じる機会を多く与えて欲しいと思います。	教育内容について
沖縄県内の観光系企業は小中規模のところが多いので、簿記までの資格取得も目指して欲しいと思います。オールマイティな人材を育てて下さい！	教育内容について

可能な限り実践的なカリキュラムなどを取入れて欲しい。又、行政というよりも現場を目指す人材育成を望む。	教育内容について
華やかなイメージだけでなく、モノづくりを通して観光産業を見る力も養なってほしい	教育内容について
観光に関係する人材は今後、益々不足します。アフターコロナにおける人材確保・育成に引き続きご協力を宜しくお願い致します。	教育内容について
観光も大事だが、コロナ禍にあたり、経済が衰退した沖縄では、観光に依存しない、別の産業も考える必要があり、それを見据えた人材育成が必要。3ヵ月～1年程度のインターンを入れたほうが、卒業後即戦力として実務のプラスになる。	教育内容について
観光業がまた活発になると予想されるので、専門的な分野を開拓するのは良いと思う。観光系の専門学校や、既に高校で観光を学んでいる学生も多くいると思うので、大学としての、大学ならではのカリキュラムをどう組めるのが気になった。	教育内容について
観光業の発展に貢献いただけると期待しています。伸びしろのあるインバウンド需要の伸長に寄与できる能力のある人材育成を希望します	教育内容について
専門性のある先生方のご指導、インターン等の実践的なキャリア教育があることで、即戦力となる人材となると思います。	教育内容について
即戦力となる人材を育成してほしい。	教育内容について
伝統文化や工芸品等と説明（歴史的アプローチ）で出来る人材を育てて欲しいです。	教育内容について
2024新卒採用は年明けより開始します。全国にレストラン・ホテルがございます 良いご縁をいただけますと幸いです。	採用関連
ぜひ会社説明会を実施させていただきたいです。	採用関連
観光文化学科の学生さんを是非採用できますと幸いです。今後ともよろしくお願い致します。	採用関連
貴校の学生様は観光業界で働きたいという情熱を持っているので、ぜひ沢山採用したいです。沖縄の観光を担うために何ができるのか、きちんと目的を学生様に伝えて育成して欲しいです。	採用関連
弊社では採用者に学部制限はありませんが、グループ企業に観光事業を有している会社があるため、そちらでは活躍を期待できるかと思えます。	採用関連
インターンシップ（有償・無償）、ホテル見学、その他ご協力できることがございましたら、お気軽にお申し付け下さいませ。	協力意向
もしも単位連動型の長期インターンシップ（アルバイト的なもの）をお考えでしたら、ぜひお声がけ下さい。	協力意向
沖縄という独自の文化を持つ場所で人材を育成していただき、1ターン、2ターンにつながればいいです。インターンシップなどもご協力させて頂きますので、ぜひお声がけください。	協力意向
石垣へは新卒の方の応募が少なく、あっても最終的に本土へ、行く方が多いのでぜひ離島のリゾートホテルへ、来ていただきたい。インターンシップ生も受け入れております。	協力意向
これからの沖縄の観光産業において、大事な事だと思います。とても良い案だと思います。	感想等
コロナの状況で専門学校の観光科が閉講となり、観光に特化した人材を育成していただける機関が新たに創設されるのはありがたいです。	感想等
ぜひ、営業に特化したカリキュラムを充実させ、即戦力の人材を育成していただきたいです。	感想等
沖縄において必要不可欠な学科だと思いますので、今後に期待しております。	感想等
沖縄にとってとても良いことだと思います。ただ、沖縄、全国的にみても観光業の収入が低く離職が多い。四年大学卒業しても給与があわないことが問題！！他業種へ流れていく。根本的な収入アップが必要！！	感想等
沖縄に多数あるホテルも、働きたい！と思う方が居て、ゲストが楽しめてやっと成立しますが、今、ホテルで働く気持ちのある方が、とても少ないです。とても、やりがいのある仕事ですので、楽しさ、おもてなしの気持ち、サービスの喜びが伝わる学科ですと素敵だと思います。	感想等

沖縄の観光は県民中心となって盛り上げて頂きたいので貴校学生のご活躍を期待しております	感想等
沖縄の産業を牽引していく観光業ですが、観光に関する学科ができることは、沖縄県にとっても大変意義があることと感じました。	感想等
沖縄ホスピタリティを担う人材が必要であり、観光産業発展に寄与できる優れた人材育成に期待しております。	感想等
沖縄県の基幹産業である観光に関わる、専門とする学科が新たに設けられることは大変嬉しいことと存じます。今後とも様々な情報交換やキャリア形成のお役に立てればと思います。	感想等
観光に特化した新学科の設立は、コロナで大きな影響を受けた観光業界にとって希望になります。観光人材が育っていくことを楽しみにしています。	感想等
観光学部等が、乱立しているが、本来の観光の能力を持っている者は少ない。当団体では「観光まちづくり」をしているが、観光の本質を学んでほしいし、人材がほしい。	感想等
基幹産業である観光地沖縄にふさわしい学科、ニーズ多し。	感想等
期待しております！！沖縄県の基幹産業である観光への若い世代への理解を深めるために、大学における観光学科の設置は大切な取り組みだと思います。	感想等
県内での人材育成で人材の流出を減らせたらと考えます。ぜひ、開設できるよう、期待しております。	感想等
人材育成の教育機関とし素晴らしいと思います。沖縄の多ジャンルにおける活躍が人材を育てることが期待できる学科だとも思います。	感想等
特化した教育を受けるという事で学生が自信を持つことが企業の活性化に繋がると思います。	感想等
今後、文化振興・観光振興に力を入れていく必要があるが、採用後、文化・観光に特化した部署以外に配置することもあるため、設置の必要性や採用についての回答（質問7～9）は未回答とさせていただきます。	感想等

3. 採用需要分析

沖縄キリスト教学院大学 人文学部 観光文化学科(仮称)の卒業生の採用需要は下記のとおり。

Q8)採用意向	採用希望人数内訳 (人)	
ぜひ採用したい	48事業所→計229人	内、1事業所→未回答
採用したい	54事業所→計93人	内、3事業所→未回答
合計	322人	

実際に採用に至るか否かについては就職希望者個人の人格や能力が大きく影響すると思われるが、ここでは「ぜひ採用したい」に加えて、「採用したい」までを採用需要として定義する。上記の採用意向で人数が未回答であった事業所の採用希望人数を保守的に1事業所当たり1人と仮定した場合、推計採用意向人数(採用の可能性のある人数)は下記のとおりとなる。

Q8)採用意向	採用希望人数内訳 (人)
ぜひ採用したい 48事業所	48事業所229人 + 1事業所1人 = 230人
採用したい 54事業所	54事業所93人 + 3事業所3人 = 96人
合計	326人

沖縄キリスト教学院大学 人文学部 観光文化学科(仮称)卒業生の採用需要は「ぜひ採用したい」のみで230人、「採用したい」まで含めると326人で、「ぜひ採用したい」が沖縄キリスト教学院大学 人文学部 観光文化学科(仮称)の入学定員(90人)の2.6倍、「採用したい」まで含めると3.6倍となり、沖縄キリスト教学院大学 人文学部 観光文化学科(仮称)卒業生に対する一定の採用需要があるといえる。

4. 沖縄キリスト教学院大学 人文学部 観光文化学科(仮称)への関心分析

○沖縄キリスト教学院大学 人文学部 観光文化学科(仮称)の採用意向事業所

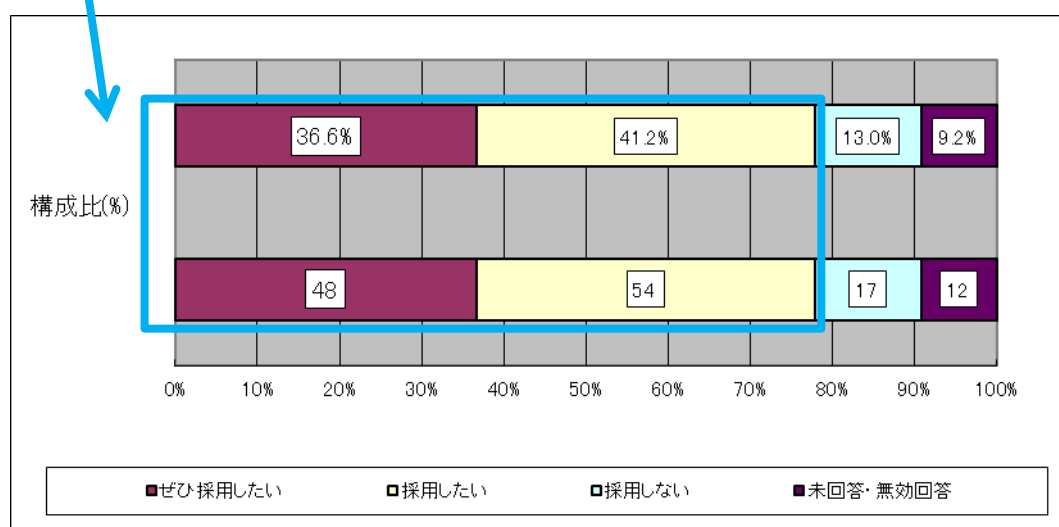
沖縄キリスト教学院大学 人文学部 観光文化学科(仮称)への関心を分析するため、次のとおり「採用意向事業所」を定義する。

Q8)において、卒業生を「ぜひ採用したい」48 事業所(36.6%)、「採用したい」54 事業所(41.2%)と回答した計 102 事業所(77.8%)を「採用意向事業所」と定義し、次項より「採用意向事業所」の傾向を分析する。

Q8) 沖縄キリスト教学院大学 人文学部 観光文化学科を卒業した人材を、貴機関・貴社において採用したいと思われますか。

	回答数（事業所）	構成比（％）
全体	131	100.0％
ぜひ採用したい	48	36.6％
採用したい	54	41.2％
採用しない	17	13.0％
未回答・無効回答	12	9.2％

採用意向事業所



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*次頁以降の集計は、各設問から未回答・無効回答を除いて集計

Q1)事業所の種別×Q8)人文学部 観光文化学科(仮称)卒業生の採用意向

採用意向事業所の事業所の種別は「宿泊業」23 事業所(22.8%)が最も多く、次いで「その他」17 事業所(16.8%)、「運輸業」15 事業所(14.9%)となっている。また、dif(採用意向事業所での比率－全体での比率)では、採用意向事業所と事業所の種別として「宿泊業」「その他」「地方公共団体」と回答した層にやや相関性がみられる。

Q1)事業所の種別と Q8)人文学部 観光文化学科(仮称)卒業生の採用意向との相関性

単位：(事業所) (%)

Q1)種別	全体平均		ぜひ採用したい		採用したい		採用意向事業所		dif	採用しない	
調査数	118	100.0%	48	100.0%	53	100.0%	101	100.0%		17	100.0%
地方公共団体	7	5.9%	0	0.0%	7	13.2%	7	6.9%	1.0%	0	0.0%
各種団体	13	11.0%	3	6.3%	7	13.2%	10	9.9%	-1.1%	3	17.6%
NPO法人	5	4.2%	0	0.0%	2	3.8%	2	2.0%	-2.3%	3	17.6%
宿泊業	23	19.5%	21	43.8%	2	3.8%	23	22.8%	3.3%	0	0.0%
旅行業	18	15.3%	6	12.5%	7	13.2%	13	12.9%	-2.4%	5	29.4%
運輸業	18	15.3%	5	10.4%	10	18.9%	15	14.9%	-0.4%	3	17.6%
製造・小売業	12	10.2%	6	12.5%	4	7.5%	10	9.9%	-0.3%	2	11.8%
レジャー業	4	3.4%	2	4.2%	2	3.8%	4	4.0%	0.6%	0	0.0%
その他	18	15.3%	5	10.4%	12	22.6%	17	16.8%	1.6%	1	5.9%

上記は、表頭(表の上側)に「Q8)人文学部 観光文化学科(仮称)卒業生の採用意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載した。構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*未回答・無効回答を除いて集計

*dif=採用意向事業所での比率－全体での比率

Q2) 事業所の所在地×Q8) 人文学部 観光文化学科(仮称)卒業生の採用意向

採用意向事業所の事業所の所在地は、「沖縄県」89 事業所 (88.1%) が最も多く、次いで「東京都」8 事業所 (7.9%)、「その他」3 事業所 (3.0%) となっている。また、dif(採用意向事業所での比率－全体での比率)では、採用意向事業所と事業所の所在地として「沖縄県」と回答した層にやや相関性がみられる。

Q2) 事業所の所在地と Q8) 人文学部 観光文化学科(仮称)卒業生の採用意向との相関性

単位：(事業所) (%)

Q2)所在地	全体平均		ぜひ採用したい		採用したい		採用意向事業所		dif	採用しない	
調査数	116	100.0%	48	100.0%	53	100.0%	101	100.0%		15	100.0%
沖縄県	99	85.3%	43	89.6%	46	86.8%	89	88.1%	2.8%	10	66.7%
東京都	11	9.5%	2	4.2%	6	11.3%	8	7.9%	-1.6%	3	20.0%
大阪府	3	2.6%	1	2.1%	0	0.0%	1	1.0%	-1.6%	2	13.3%
その他	3	2.6%	2	4.2%	1	1.9%	3	3.0%	0.4%	0	0.0%

上記は、表頭(表の上側)に「Q8) 人文学部 観光文化学科(仮称)卒業生の採用意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載した。構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*未回答・無効回答を除いて集計

*dif=採用意向事業所での比率－全体での比率

(参考)採用意向事業所の採用希望人数

Q2)にて 「沖縄県」 と回答した層 (89事業所)	Q8)採用意向	採用希望人数内訳(人)	
	ぜひ採用したい	43事業所→計180人	内、1事業所→未回答
	採用したい	46事業所→計82人	内、2事業所→未回答
	合計	262人	

Q4) 過去 3 年間の年度別四年制大学新卒者採用事業所数・採用人数×Q8) 人文学部 観光文化学科(仮称)卒業生の採用意向

採用意向事業所の過去 3 年間の年度別四年制大学新卒者採用事業所数は「2020 年度」46 事業所(40.4%)が最も多く、「2022 年度」36 事業所(31.6%)、「2021 年度」32 事業所(28.1%)と続いている。また、dif(採用意向事業所での比率－全体での比率)では、採用意向事業所と過去 3 年間の年度別四年制大学新卒者採用事業所数として「2020 年度」と「2022 年度」に採用実績のあった層にわずかに相関性がみられる。

採用意向事業所の過去 3 年間の年度別四年制大学新卒者採用人数では、「2020 年度」438 人(47.9%)が最も多く、次いで「2022 年度」305 人(33.4%)、「2021 年度」171 人(18.7%)となっている。また、dif(採用意向事業所での比率－全体での比率)では、採用意向事業所と過去 3 年間の年度別四年制大学新卒者採用人数として「2022 年度」に採用実績のあった層にわずかに相関性がみられる。

Q4) 過去 3 年間の四年制大学新卒者採用数と Q8) 人文学部 観光文化学科(仮称)卒業生の採用意向との相関性

単位：(事業所) (%)

Q4)年度別事業所数	全体平均		ぜひ採用したい		採用したい		採用意向事業所		dif	採用しない	
調査数	126	100.0%	74	100.0%	40	100.0%	114	100.0%		12	100.0%
2020年度	50	39.7%	28	37.8%	18	45.0%	46	40.4%	0.7%	4	33.3%
2021年度	37	29.4%	20	27.0%	12	30.0%	32	28.1%	-1.3%	5	41.7%
2022年度	39	31.0%	26	35.1%	10	25.0%	36	31.6%	0.6%	3	25.0%

単位：(人) (%)

Q4)年度別採用人数	全体平均		ぜひ採用したい		採用したい		採用意向事業所		dif	採用しない	
調査数	929	100.0%	620	100.0%	294	100.0%	914	100.0%		15	100.0%
2020年度	445	47.9%	273	44.0%	165	56.1%	438	47.9%	0.0%	7	46.7%
2021年度	176	18.9%	104	16.8%	67	22.8%	171	18.7%	-0.2%	5	33.3%
2022年度	308	33.2%	243	39.2%	62	21.1%	305	33.4%	0.2%	3	20.0%

上記は、表頭(表の上側)に「Q8) 人文学部 観光文化学科(仮称)卒業生の採用意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載した。構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*未回答・無効回答を除いて集計

*dif＝採用意向事業所での比率－全体での比率

(参考) 過去３年間に四年制大学新卒者採用した採用意向事業所の採用希望人数

Q4)にて 採用実績あり と回答した層 <2020年度> (46事業所)	Q8)採用意向	採用希望人数内訳 (人)	
	ぜひ採用したい	28事業所→計141人	人数未回答事業所なし
	採用したい	18事業所→計41人	人数未回答事業所なし
	合計	182人	
Q4)にて 採用実績あり と回答した層 <2021年度> (32事業所)	Q8)採用意向	採用希望人数内訳 (人)	
	ぜひ採用したい	20事業所→計109人	人数未回答事業所なし
	採用したい	12事業所→計31人	人数未回答事業所なし
	合計	140人	
Q4)にて 採用実績あり と回答した層 <2022年度> (36事業所)	Q8)採用意向	採用希望人数内訳 (人)	
	ぜひ採用したい	26事業所→計146人	人数未回答事業所なし
	採用したい	10事業所→計30人	人数未回答事業所なし
	合計	176人	

Q5) 過去3年間の人材採用充足状況×Q8) 人文学部 観光文化学科(仮称)卒業生の採用意向

採用意向事業所の過去3年間の人材採用充足状況は、「不足している」が48事業所(47.1%)、「やや不足している」が37事業所(36.3%)で、これらの合計は85事業所(83.4%)となっている。一方、「ある程度充足している」が13事業所(12.7%)、「充足している」が4事業所(3.9%)で、これらの合計は17事業所(16.6%)となっている。また、dif(採用意向事業所での比率－全体での比率)では、採用意向事業所と過去3年間の人材採用充足状況として「不足している」と回答した層と「やや不足している」と回答した層にやや相関性がみられる。

Q5) 過去3年間の人材採用充足状況とQ8) 人文学部 観光文化学科(仮称)卒業生の採用意向との相関性

単位：(事業所) (%)

Q5)充足状況	全体平均		ぜひ採用したい		採用したい		採用意向事業所		dif	採用しない	
調査数	119	100.0%	48	100.0%	54	100.0%	102	100.0%		17	100.0%
不足している	52	43.7%	32	66.7%	16	29.6%	48	47.1%	3.4%	4	23.5%
やや不足している	42	35.3%	10	20.8%	27	50.0%	37	36.3%	1.0%	5	29.4%
ある程度充足している	15	12.6%	4	8.3%	9	16.7%	13	12.7%	0.1%	2	11.8%
充足している	10	8.4%	2	4.2%	2	3.7%	4	3.9%	-4.5%	6	35.3%

上記は、表頭(表の上側)に「Q8) 人文学部 観光文化学科(仮称)卒業生の採用意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載した。構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*未回答・無効回答を除いて集計

*dif＝採用意向事業所での比率－全体での比率

(参考) 採用意向事業所の過去3年間の人材充足状況と採用希望人数

Q5)にて 「不足している」 と回答した層 (48事業所)	Q8)採用意向	採用希望人数内訳(人)	
	ぜひ採用したい	32事業所→計154人	内、1事業所→未回答
	採用したい	16事業所→計27人	内、1事業所→未回答
	合計	181人	
Q5)にて「やや 不足している」 と回答した層 (37事業所)	Q8)採用意向	採用希望人数内訳(人)	
	ぜひ採用したい	10事業所→計40人	人数未回答事業所なし
	採用したい	27事業所→計45人	内、1事業所→未回答
	合計	85人	

5. 補記

アンケート説明文 1/4



沖縄キリスト教学院大学
OKINAWA CHRISTIAN UNIVERSITY

県内私立大学初の観光系学科！

人文学部
観光文化学科（仮称）
2024(令和6)年4月開設予定





* 学科の名称、定員等の記載内容は現時点での計画であり変更することがあります。

■ 観光文化学科とは？

キリスト教教育による他者との協働、平和な地域社会・国際社会の実現へ貢献する人材の育成を土台にして、アジア圏観光客に対応できる「外国語の運用能力」を身につけ、国内でも有数の観光地の沖縄県を主な題材に、『文化資源領域』で観光のソフトパワーの知識を身につけ、『ホスピタリティ領域』でビジネス能力や文化資源・観光資源の活用方法を修得し、『持続可能領域』で文化と社会の動きを把握し、持続的な文化振興及び観光振興の発展に貢献できる能力を身につけることを目的とした学科です。

■ 学部・学科の構成



沖縄キリスト教学院大学

人文学部

観光文化学科

学位:学士(観光文化学)

入学定員(予定)

90人

収容定員(予定)

360人

～ 学科の特色 ～

7



アジア、世界の観光客を視野に、
「英語」「中国語」「韓国語」
の3か国語を学べます。

2

文化資源領域

琉球・沖縄の歴史文化を中心に中国・韓国等のアジア、世界の文化を学びます。

持続可能領域

持続的な文化振興及び観光振興を学びます。

ビジネス能力や文化・観光資源の活用を学びます。

ホスピタリティ領域

「観光文化」について、文化資源・ホスピタリティ・持続可能の3つの領域で学びます。



■ 目指せる資格・検定

- TOEIC
- 実用英語技能検定
- TOPIK (韓国語能力試験)
- 中国語検定
- 世界遺産検定
- 秘書技能検定
- グローバル人材ビジネス実務検定
- 国内旅行業務取扱管理者
- フードツーリズムマイスター
- ホテル・マネジメント技能検定
- サービス接遇実務検定

■ 養成する人材像

「光を観る」という観光の学びとして、歴史・文化の本質を理解したうえで、文化資源や観光資源の光の価値を認識し、国内外へ発信できる人材、さらに、他の地域との比較から新たな価値を創出し、文化振興や観光振興に貢献できる人材を育成します。また、企業・団体等職員による授業や海外研修、インターンシップなどの実践的な教育を強化することで、大学の教育・研究と地域社会の実態との差を無くし、観光産業発展に寄与できる優れた人材を育成します。

3



国際文化交流を目的とした短期の「海外研修」が必修で、異文化体験を通して学びを深めます。

4



航空会社・旅行会社・宿泊業での経験が豊富で、確かな専門性を教授できる教員陣が、理論と実践の授業を提供します。

5



企業・団体等職員の協力による授業や現場体験ができるインターンシップなど実践的な教育を強化します。

■ 想定される就職先

地方公共団体
観光協会
文化振興や観光振興系の団体・NPO法人等
宿泊業（ホテル等）
旅行業（旅行代理店、ツアーコンダクター等）
運輸業（客室乗務員、航空会社、船会社等）
製造・小売業
レジャー業 など



アンケート説明文 4/4



■ 学納金について

- 初年度学納金(想定) -

学部・学科	入学金	授業料他	初年度総額
人文学部 観光文化学科	¥ 130,000.-	¥ 844,660.-	¥ 974,660.-

- 同分野の大学・学部・学科の初年度学納金(※2022年度) -

大学名	学部・学科名	所在地	入学金	授業料他	初年度総額
長崎国際大学	人間社会学部国際観光学科	長崎県	250,000	910,000	1,160,000
西南女学院大学	人文学部観光文化学科	福岡県	270,000	920,000	1,190,000
大阪成蹊大学	国際観光学部	大阪府	250,000	1,209,660	1,459,660
文化学園大学	国際文化・観光学科	東京都		1,350,900	1,350,900

※ 他大学の学費は各大学ホームページ掲載情報(2022年4月時点)、諸経費は含まない

■ 設置予定地



OCU 沖縄県中頭郡
西原町字翁長777



■ 那覇バスターミナルから

- 97番 琉大線 キリスト教短大入口下車 徒歩5分
- 333番 那覇西原線 翁長(坂田小)下車 徒歩約10分
- 346番 那覇西原線 翁長(坂田小)下車 徒歩約10分

■ 首里駅から

- 94番 首里駅琉大快速線 キリスト教短大入口下車 徒歩約5分
- 346番 那覇西原線 翁長(坂田小)下車 徒歩約10分

■ てだこ浦西駅から ※モノレールでも通学できます

- 徒歩約25分
- または駅=(徒歩10分)=徳佐田入口97番(琉球大学行き)
- キリスト教短大入口下車 徒歩約5分

■ 普天間方面から

- 25番 普天間空港線 西原入口でのりかえ。
- 97番にのりかえて、キリスト教短大入口下車 徒歩約5分

■ 泡瀬・具志川方面から

- 30番 泡瀬東線 西原入口でのりかえ。
- 333番、346番で、翁長(坂田小)下車 徒歩約10分

■ お問い合わせ

沖縄キリスト教学院大学 大学設置室

〒903-0207 沖縄県中頭郡西原町字翁長777

TEL : 098-946-4161

FAX : 098-946-1241

e-mail : oci-secchi@ocjc.ac.jp

URL : <https://www.ocjc.ac.jp/>



LINE



Instagram



公式サイト

沖縄キリスト教学院大学 検索

アンケート調査票 1/2

沖縄キリスト教学院大学 人文学部観光文化学科設置計画に係る事業所採用需要調査

沖縄キリスト教学院大学では、2024 年 4 月から人文学部へ新たに「観光文化学科」（仮称）を設置することを検討しています。この調査は、事業所の人事担当者の皆様からのご意見をお伺いし、計画検討の参考とさせていただくために行うものであり、この調査で得られた回答内容は、統計資料としてのみに用い、他の目的で使用することはありません。また、集計結果と特定の企業様・事業所様を関連付けることはなく、ご回答いただいた人数の採用を求めるものではありませんので、ぜひ皆さまの率直なご意見をお聞かせください。

※アンケートやリーフレットに記載されている観光文化学科に関する事項は、すべて予定であり内容は変更になる可能性があります。

【質問 1】貴事業所の主たる種別は次のどれですか。1 つ選び○をつけてください。

- | | | |
|----------|---------|----------|
| 1 地方公共団体 | 2 各種団体 | 3 NPO法人 |
| 4 宿泊業 | 5 旅行業 | 6 運輸業 |
| 7 製造・小売業 | 8 レジャー業 | 9 その他() |

【質問 2】貴事業所の所在地をお教えてください。1 つ選び○をつけてください。

- 1 沖縄県 2 東京都 3 大阪府 4 その他()

【質問 3】貴事業所の従業員数（正規職員）について、該当するものを 1 つ選び○をつけてください。

- | | | |
|--------------|------------------|--------------|
| 1 50人未満 | 2 50 ～ 99人 | 3 100 ～ 499人 |
| 4 500 ～ 999人 | 5 1,000 ～ 4,999人 | 6 5,000人以上 |

【質問 4】貴事業所では、過去 3 年間で四年制大学新卒者を何人採用されましたか。該当する欄に採用人数をご記入ください。＊詳細がご不明な場合は概数をご記入ください。

2020年度	2021年度	2022年度
()人	()人	()人

【質問 5】貴事業所では、過去 3 年間の人材採用の充足状況についてどのようにお考えですか。次の中から 1 つ選び○をつけてください。

- | | | |
|----------|------------|--------------|
| 1 不足している | 2 やや不足している | 3 ある程度充足している |
| 4 充足している | | |

裏面へ続く⇒

アンケート調査票 2/2

【質問 6】貴事業所では人材採用の際、どのような点を重視されていますか。

次の中から 2 つまで選び、○をつけてください。

- | | |
|---------------|------------------|
| 1 コミュニケーション能力 | 2 語学力 |
| 3 課題発見・課題解決能力 | 4 チームで働く力 |
| 5 チャレンジ精神・積極性 | 6 国際感覚(広い視野・価値観) |
| 7 論理的思考力 | 8 専攻分野の基礎学力 |
| 9 社会常識 | 10 その他() |

次の【質問 7】以降は、別紙リーフレットをご覧ください、ご記入ください。

沖縄キリスト教学院大学 人文学部 観光文化学科について

【質問 7】沖縄キリスト教学院大学 人文学部 観光文化学科の設置計画についてどの程度必要性を感じますか。

次の中から 1 つ選び○をつけてください。

- | | | |
|------------|----------------|---------------|
| 1 必要性を感じる | 2 ある程度の必要性を感じる | 3 あまり必要性を感じない |
| 4 必要性を感じない | | |

【質問 8】沖縄キリスト教学院大学 人文学部 観光文化学科を卒業した人材を、貴機関・貴社において採用したいと思われますか。次の中から 1 つ選び○をつけてください。

- | | | |
|-----------|---------|---------|
| 1 ぜひ採用したい | 2 採用したい | 3 採用しない |
|-----------|---------|---------|

【質問 9】質問 8 において選択肢 1 または 2 の場合、今後何人程度が採用可能と思われますか。1 つ選び○をつけてください。

なお、回答によって実際の採用人数をお約束いただくものではございません。

- | | | | | |
|------|------|------|------|--------------|
| 1 1人 | 2 2人 | 3 3人 | 4 4人 | 5 5人 |
| 6 6人 | 7 7人 | 8 8人 | 9 9人 | 10 10人以上()人 |

【質問 10】沖縄キリスト教学院大学 人文学部 観光文化学科に対するご意見・ご要望をお聞かせください。

質問は以上で終わります。ご協力ありがとうございました。

沖縄キリスト教学院大学
企画推進課

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額基本給 （千円）	現 職 （就任年月）
—	学長	キム ヨンス 金 永秀 ＜令和6年4月＞		Doctor of Ministry （米国）		沖縄キリスト教学院大学 学長 （令和2.4～令和6.3）

審査意見への対応を記載した書類（7月）

（目次）人文学部観光文化学科

1. 学生確保の見通し等を記載した書類（本文）の1.（4）「1）学生確保の見通しの調査結果」において、本学の観光文化学科の学生確保の見通しについて、沖縄県内の高等学校 60 校の2年生を対象としたアンケート調査に基づいて、97名の進学授業があることを説明している。しかしながら、この97名は「Q6）受験意向」を「受験したいと思う」、「Q7）入学意向」を「入学したいと思う」、「Q3）高校卒業後の進路」を「大学への進学」、「Q4）進学希望分野」（第1志望及び第2志望）を「文学・人文科学（観光関係を含む）」又は「語学関係（外国語・言語学・国際関係）」と回答した入学見込みが高い80名のほか「Q6）受験意向」を「受験したいと思う」、「Q7）入学意向」を「併願校の可否により入学を検討する」と回答した者110名のうち、「第一志望以外で入学する層」として進学が見込まれる17名を合算したものとなっている。「第一志望以外で入学する層」の人数の試算では、本学の既設学科である人文学部英語コミュニケーション学科の在学学生を対象に調査した結果得られた、英語コミュニケーション学科への入学に当たっての進学志望度として示された、「第一志望」での入学者に対する「第一志望以外」の入学者の割合を、前述の80名に乗じて得られた17名を根拠に説明しているが、「観光文化学科」の進学動向を試算する根拠として教育内容等が異なる「英語コミュニケーション学科」の進学志望度を用いることの妥当性について説明がなされておらず、観光文化学科の入学者についても、同様の第一志望と第一志望以外の比率となることの妥当性が示されていないことから、アンケートの結果により得られた前述の80名に対して当該比率を乗じて得た17名を進学者数の根拠とすることに疑義がある。このため、本学科に進学を希望する者の数を客観的な根拠を踏まえて改めて明確に示すとともに、本学科の学生確保の見通しについて改めて説明すること。（人文学部観光文化学科）（是正事項）・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

（是正事項）人文学部観光文化学科

1. 学生確保の見通し等を記載した書類（本文）の1.（4）「1）学生確保の見通しの調査結果」において、本学の観光文化学科の学生確保の見通しについて、沖縄県内の高等学校 60 校の 2 年生を対象としたアンケート調査に基づいて、97 名の進学授業があることを説明している。しかしながら、この 97 名は「Q 6）受験意向」を「受験したいと思う」、「Q 7）入学意向」を「入学したいと思う」、「Q 3）高校卒業後の進路」を「大学への進学」、「Q 4）進学希望分野」（第 1 志望及び第 2 志望）を「文学・人文科学（観光関係を含む）」又は「語学関係（外国語・言語学・国際関係）」と回答した入学見込みが高い 80 名のほか「Q 6）受験意向」を「受験したいと思う」、「Q 7）入学意向」を「併願校の可否により入学を検討する」と回答した者 110 名のうち、「第一志望以外で入学する層」として進学が見込まれる 17 名を合算したものとなっている。「第一志望以外で入学する層」の人数の試算では、本学の既設学科である人文学部英語コミュニケーション学科の在学学生を対象に調査した結果得られた、英語コミュニケーション学科への入学に当たっての進学志望度として示された、「第一志望」での入学者に対する「第一志望以外」の入学者の割合を、前述の 80 名に乗じて得られた 17 名を根拠に説明しているが、「観光文化学科」の進学動向を試算する根拠として教育内容等が異なる「英語コミュニケーション学科」の進学志望度を用いることの妥当性について説明がなされておらず、観光文化学科の入学者についても、同様の第一志望と第一志望以外の比率となることの妥当性が示されていないことから、アンケートの結果により得られた前述の 80 名に対して当該比率を乗じて得た 17 名を進学者数の根拠とすることに疑義がある。このため、本学科に進学を希望する者の数を客観的な根拠を踏まえて改めて明確に示すとともに、本学科の学生確保の見通しについて改めて説明すること。（人文学部観光文化学科）

（対応）

審査意見において付された指摘を踏まえ、本学の観光文化学科の学生確保の見通しについて、本学科に進学を希望する者の数の客観的な根拠として、以下のように新たな分析を加えた説明を追記する。また、当初に想定していたアンケート結果の分析方法の根拠についても、その妥当性が明確になるように説明内容を改める。

それらに加えて、今回の指摘に鑑み、観光文化学科の学生確保をより確実なものとするために、学生確保に向けた具体的な取組として、アンケート調査における自由意見記述の内容と県内の実業系（商業・工業・農林）や総合学科を擁する高等学校への訪問結果から得られた高校生のニーズを踏まえた取組方策を行うことを追記する。

①県内における観光系分野の志願者・志願状況を踏まえた分析（追加分析）

沖縄県では、公立の名桜大学が 2023 年度より国際学部国際観光産業学科を入学定員 160 人で開設するほか、国立の琉球大学が学部・学科内で観光が学べるプログラム（プログラムとしての定員設定はない）を設けている。それら国公立大学には、県外からの志願者も多く、高い競争率の状況が想定され、観光系分野を志望する県内出身者においては、結果として多数の者が併願先の大学への進学することが想定できる。

しかし、沖縄県には、併願先となる観光系分野を有する私立大学は存在しないため、本学に観光文化学科が設置された際には、この分野の志望者、特に県内大学へ進学を希望している者にとって、併願先は本学の観光文化学科のみとなり、本学の観光文化学科以外の選択肢はないことになる。

具体的には、観光系の学科として定員を設けている名桜大学国際学部国際観光産業学科の場合、入学定員 160 人に対して、2023 年度入学試験の志願者は 356 名であり、合格者 199 名、入学者は 171 名であった。同大学の入学者は多くの公立大と同様に、半数以上が県外出身者であることから、県内出身の入学者は 85 名程度に留まると考えられる。受験者・合格者の半数が県外出身者であるとした場合、県内出身の不合格者として 80 名程度は、併願校に進学することが想定される。そのうち、県内大学へ進学を希望する場合、前述のとおり、観光系学科の併願先は、本学の観光文化学科のみとなるため、地元残留率（45.9%）を考慮すると、35 名程度の入学者が見込めると考えられる。

このため、本学の観光文化学科への進学者は、入学見込みが高い 80 名と合わせると 115 名程度となると考えられる。

②「併願校の可否により入学を検討する」と回答した者の分析について

入学見込みが高い 80 名のほか、「併願校の可否により入学を検討する」と回答した者のうち、「第一志望以外で入学する層」として 17 名を合算した理由としては、大学受験においては、複数の大学を受験する併願が行われており、受験結果によっては第一志望以外の大学に入学することがあることから、「併願校の可否により入学を検討する」と回答した者のうち、一定数は本学へ入学する見込みがあると考えたためである。その際の入学者数としては、アンケートで得られた「併願校の可否により入学を検討する」と回答した者（110 名）の内数となるため、以下③と④の考えにもとづき、最終的にその内数が最少となる「英語コミュニケーション学科」の進学志望度を用いることにした。

③「英語コミュニケーション学科」の進学志望度を用いる妥当性について

①のとおり、県内における観光系分野を持つ国公立の志願状況分析の他、参考として本学既設学科である英語コミュニケーション学科の進学志望度を用いて「第一志望以外で入学する層」の分析を試みた。英語コミュニケーション学科と観光文化学科では、教育内容等が異なるものの、英語教育（語学関連の学び）や歴史・文化関連の学びという人文科学系としての共通性がある。また、本学は人文学部一学部一学科の大学であり、観光文化学科も人文学部に設置するものであり、学生募集圏が狭い沖縄県においては、同一大学・同一学部の既設学科に対する受験動向や進学志望度の傾向は、新増設の観光文化学科にも引き継がれ、類似する可能性が高いと考えた。

④「英語コミュニケーション学科」と同様の志望比率になることの妥当性について

在学生調査の結果、既設学科である英語コミュニケーション学科の進学志望度は、第一志望の比率が極めて高く、第一志望以外、つまり併願校の可否により入学する可

能性があるのは、2割にも満たないことが分かった。③において、「英語コミュニケーション学科」の進学志望度を用いることの妥当性を述べているが、進学志望度を同様の比率とした場合でも、2割未満と低い数値であり、現実性を見込める最低限の低い比率を採用しており、少なからず発生する第一志望以外の大学に入学する者が起こり得る割合としては妥当な比率であると考察した。その結果、本学観光文化学科への進学者は、入学見込みが高い80名に、その比率から求められる17名を合わせ、少なくとも97名程度となると考えた。

⑤アンケート調査における自由意見記述に基づく分析（追加分析）

本アンケート調査において、「Q6）受験意向」を「受験したいと思う」、「Q7）入学意向」を「併願校の可否により入学を検討する」と回答した者110名のうち、Q9（意見・要望／自由記述）にコメントを記載している者は26名であった（【別紙】：学生確保（資料）p32）。この26名のコメントを確認したところ、本学観光文化学科における海外研修や語学の授業などの教育内容について興味・関心の高い回答者が多く、17件は本学科にポジティブな意見であった。このことから、①～④の分析と同様に「併願校の可否により入学を検討する」と回答者のうち、併願校の結果によって、実際に本学に入学する者が一定数は見込まれることが考えられる。また、ポジティブな意見、高い関心を示す意見に応えるべく丁寧な広報活動を継続して行うことで確実に併願者の入学を確保することができると考え、それらに応じた学生確保に向けた具体的な取組を行う。

以上のように、県内の志願状況及びアンケートに基づく併願者の分析から進学が見込まれる人数は17～35名程度と見込まれ、④による比率で算出した人数である「第一志望以外で入学する層」として進学が見込まれる17名（最少）を合算することは、①で示した人数（35名）の内数で、かつその半数以下であることから、決して過剰な人数ではなく、妥当性を有していると言える。

⑥県内の高等学校への訪問結果とオープンキャンパスの状況分析に基づく学生確保の取組方策（追加方策）

沖縄県内の高校では、実業系（商業・工業・農林）や総合学科の高校生の進学意識が高まる傾向にあり、当該科を擁する高等学校を訪問した際には、進路担当教員より、観光と琉球やアジアの文化を学び、大学卒という資格を得て地域に貢献できる観光系に就職したいという高校生のニーズにマッチし、観光文化学科に関心を寄せる生徒は多いと思うとの見解を得ている。

また、実施済みのオープンキャンパスでは、3月、5月、6月の3回でのべ79名、高校内説明会では42名、会場型ガイダンスでは68名、高校内ガイダンスでは21名、合計のべ210名の高校生が観光文化学科に関心を寄せている。高校生からは、県内の私立大学に観光系の学科の設置計画があると聞いて進路の方向が定まった、ぜひ実現して欲しいといった声が多数寄せられていることから、それらの高校生により興味を持ってもらうよう積極的に情報を提供する学生確保に向けた具体的な取組を行うこ

とで、観光文化学科への入学者を確保する。

その主な取組みとしては、オープンキャンパスや高校内説明会、進学相談会等において、実務経験を持つ観光専門の教員による観光文化学科での学びの特徴・魅力や卒業後の進路やアンケートの自由記述に寄せられた質問にも対応した詳細な説明を行う。その説明の材料として、観光文化学科のみの別冊の大学案内を製作することで、観光分野に関心のある志願者層にピンポイントでアプローチし、学生確保につなげる。

また、広報活動においては、新聞広告や交通機関での広告による社会的な認知度を高める取組みを行うとともに、高校生向けに SNS による情報発信を積極的に行う等、学生確保の取組みを強化する。

(新旧対照表) 学生確保の見通し等を記載した書類 (6 ~ 15 ページ)

新	旧
(4) 学生確保の見通し 1) 学生確保の見通しの調査結果 (略) また、「Q6)受験意向」で「受験したいと思う」を「Q7)入学意向」で「併願校の可否により入学を検討する」を選択した層が 110 人いる。後述の競合校の状況にもあるとおり、沖縄県では、公立の名桜大学が 2023 年度より国際学部国際観光産業学科を入学定員 160 人で開設するほか、<u>国立の琉球大学が学部・学科内で観光が学べるプログラム（プログラムとしての定員設定はない）を設けているが、それら国公立大学には、県外からの志願者も多く、高い競争率の状況が想定され、後述するように名桜大学においては、半数以上が県外出身者であることから、観光系分野を志望する県内出身者においては、結果として多数の者が併願先の大学への進学となることが想定できる。しかし、沖縄県には、併願先となる観光系分野を有する私立大学は存在しないため、本学に観光文化学科が設置された際には、この分野の志望者、特に県内大学へ進学を希望している者にとって私立大学の併願先は本学の観光文化学科のみとなり、本学の観光文化学科以外の選択肢はないことになる。</u>そのため、<u>進学意向調査にお</u>	(4) 学生確保の見通し 1) 学生確保の見通しの調査結果 (略) また、「Q6)受験意向」で「受験したいと思う」を「Q7)入学意向」で「併願校の可否により入学を検討する」を選択した層が 110 人いる。後述の競合校の状況にもあるとおり、沖縄県では、公立の名桜大学が 2023 年度より国際学部国際観光産業学科を入学定員 160 人で開設するほか、<u>国立の琉球大学が学部・学科内で観光が学べるプログラムを設けているが、</u> 観光系分野を志望する県内出身者においては、国公立大学の高い競争率の状況から、結果として多数の者が併願先の大学への進学となることが想定できる。

いて「併願校の可否により入学を検討する」と回答した者のうち、一定数は本学へ入学する見込みがあると考え、その入学者の見込み数を把握するために、以下のように既設の英語コミュニケーション学科の進学志望度データを基にその人数の算出を試みた。

なお、英語コミュニケーション学科と観光文化学科では、教育内容等が異なるものの、英語教育（語学関連の学び）や歴史・文化関連の学びという人文科学系としての共通性がある。

また、本学は人文学部一学部一学科の大学であり、観光文化学科も人文学部に設置するものであり、学生募集圏が狭い沖縄県においては、同一大学・同一学部の既設学科に対する受験動向や進学志望度の傾向は、新增設の観光文化学科にも引き継がれ、類似する可能性が高いと考え、英語コミュニケーション学科の進学志望度を用いることにした。

(略)

④進学需要

③進学志望度では、本学人文学部へ第一志望で入学した比率：第一志望以外で入学した比率が 82.0%：18.0%となっている。この結果から、既設学科である英語コミュニケーション学科の進学志望度は、第一志望の比率が極めて高く、第一志望以外、つまり併願校の可否により入学する可能性があるのは、2 割に満たない低い数値であり、確実性を見込める最低限の低い比率であり、少なからず発生する第一志望以外の大学に入学する者が起こり得る割合としては妥当な比率であると考察した。そのうえで、第一志望を「観光文化学科への進学者数」、第一志望以外を「観光文化学科への進学志望者層」とし、この比率と上記「①観光文化学科への進学者数」80 人から第一志望以外で観光文化学科へ進学を志望

そのため、実

際にはこの層からも一定数の入学が見込まれことから、以下のように既設の英語コミュニケーション学科の進学データを基にその人数の算出を試みた。

(略)

④進学需要

③進学志望度では、本学人文学部へ第一志望で入学した比率：第一志望以外で入学した比率が 82.0%：18.0%となっている。

第一志望を「観光文化学科への進学者数」、第一志望以外を「観光文化学科への進学志望者層」とし、この比率と上記「①観光文化学科への進学者数」80 人から第一志望以外で観光文化学科へ進学を志望

する人数を算出すると、 第一志望 82.0 % : 第一志望以外 18.0%=80 人 : <u>17 人</u> となる。これより、<u>進学意向調査において「併願校の可否により入学を検討する」を選択した者は 110 人であるが、そのなかから第一志望以外で入学する層として、少なくとも 17 人の進学が見込まれると想定した。</u> 以上から、観光文化学科への進学需要は、$80+17=97$ 人で入学定員 90 人の 1.07 倍となり、定員充足する進学需要があることが窺われる。 なお、進学意向調査において、「<u>Q6) 受験意向</u>」を「<u>受験したいと思う</u>」、「<u>Q7) 入学意向</u>」を「<u>併願校の可否により入学を検討する</u>」と回答した者 110 人のうち、<u>Q9 (意見・要望／自由記述)</u> にコメントを記載している者は 26 人であった (<u>【資料 5】 p 32</u>)。この 26 人のコメントを確認したところ、本学観光文化学科における海外研修や語学の授業などの教育内容について興味・関心の高い回答者が多く、17 件は本学科にポジティブな意見であった。このことから、前述の分析と同様に「併願校の可否により入学を検討する」と回答者のうち、併願校の結果によって、実際に本学に入学する者が一定数は見込まれることが考えられる。また、ポジティブな意見、高い関心を示す意見に応えるべく丁寧な広報活動を継続して行うことで確実に併願者の入学を確保することができると考えている。	する人数を算出すると、 第一志望 82.0 % : 第一志望以外 18.0%=80 人 : <u>17 人</u> となる。これより、「併願校の可否により入学を検討する」を選択した 110 人からも第一志望以外で入学する層として 17 人の進学が見込まれると想定した。 以上から、観光文化学科への進学需要は、$80+17=97$ 人で入学定員 90 人の 1.07 倍となり、定員充足する進学需要があることが窺われる。
---	--

(新旧対照表) 学生確保の見通し等を記載した書類 (9～10ページ)

新	旧
4) 競合校の状況 (略) 2022 年度時点では、図表 7 のとおり「観光」を称する学部・学科は県内大学ではなく、学部・学科内の観光が学べるプログラムや専攻として<u>設置されている(専攻やプログラムであり定員設定はない)</u>。いずれも国立大学と公立大学であるとともに、学部学科とは違い専攻等における動向等は公表されておらず、詳細な入学志願状況を把握することは難しい。 しかし、公立の名桜大学が学群・専攻から学部・学科へ改編し、2023 年度より国際学部国際観光産業学科を入学定員 160 人で開設する。2023 年度入学志願状況は以下のとおりであり、<u>入学定員 160 人に対して、志願者は 356 人であり、合格者 199 人、入学者は 171 人であった。</u>志願倍率は高く観光系分野の進学需要が窺える【図表 8】。ただし、多くの公立大と同様に名桜大学国際学群・人間健康学部の地域別在学生数(2019 年 5 月 1 日現在)をみると、半数以上が県外出身者であることから【図表 9】、<u>県内出身の入学者は 85 人程度に留まると予測できる。</u>この場合、観光系分野を志望する県内出身者においては、高い競争率の状況から、結果として多数の者が併願先の大学への進学となることが想定でき、<u>名桜大学国際学部国際観光産業学科の受験者及び合格者のおよそ半数が県外出身者であるとした場合、県内出身の不合格者として 80 人程度は、併願校に進学することが想定される。</u>そのうち、<u>県内大学へ進学を希望する場合、前述のとおり、観光系学科の併願先(私立大学)は、本学の観光文化学科のみとなるため、地元残留率(45.9%)を考慮すると、名桜大学との併願者の受験結果によって、35 人程度の入学者が見込めると考</u>	4) 競合校の状況 (略) 2022 年度時点では、図表 7 のとおり「観光」を称する学部・学科は県内大学ではなく、学部・学科内の観光が学べるプログラムや専攻として<u>設置されている。</u>いずれも国立大学と公立大学であるとともに、学部学科とは違い専攻等における動向等は公表されておらず、詳細な入学志願状況を把握することは難しい。 しかし、公立の名桜大学が学群・専攻から学部・学科へ改編し、2023 年度より国際学部国際観光産業学科を入学定員 160 人で開設する。2023 年度入学志願状況は以下のとおりであり、 志願倍率は高く観光系分野の進学需要が窺える【図表 8】。ただし、多くの公立大と同様に名桜大学国際学群・人間健康学部の地域別在学生数(2019 年 5 月 1 日現在)をみると、約半数が県外出身者であることから【図表 9】、<u>入学定員 160 人に対して県内出身入学者は 80 名程度に留まると予測できる。</u>この場合、観光系分野を志望する県内出身者においては、高い競争率の状況から、結果として多数の者が併願先の大学への進学となることが想定できる。

えられる。

なお、これまで沖縄県に観光系分野を有する私立大学が存在しなかったため、この分野の志望者の併願先は県外の大学が対象となり、大学進学における人口の流出にもつながっていたが、前述の高校生進学意向調査において、「受験したいと思う」かつ「併願校の可否により入学を検討する」と回答した高校生が 110 人おり、前述の既設英語コミュニケーション学科の進学志望度を用いた分析からは「第一志望以外で入学する層」のうちからは、少なくとも 17 人の進学が見込まれると想定しており、本学の観光文化学科がそれらの学生も取り込んでいくことが可能であると考えている。このようにして、観光系分野を志望する県内出身者にとって、私立大学に設置する観光文化学科の貢献度は高いと推察する。

(略)

【図表 8】公立名桜大学国際学部国際観光産業学科の 2023 年度入学志願状況

選抜区分	入試種別	募集人員	志願者数	合格者数	入学者数	志願倍率
総合型選抜	—	15	53	30	30	3.5
学校推薦型選抜	一般推薦	40	30	30	30	0.8
	専門高校及び総合学科推薦	5	7	7	7	1.4
	北部枠推薦	15	12	12	12	0.8
社会人特別選抜	—	若干人	2	2	2	—
帰国生徒特別選抜	—	若干人	0	—	—	—
外国人留学生特別選抜	—	5	3	2	1	0.6
一般選抜	前期日程 (A 方式)	50	101	83	65	2.0
	前期日程 (B 方式)	20	34	23	18	1.7
	後期日程	10	114	10	6	11.4
合 計		160	356	199	171	2.2

(略)

その際、これまで沖縄県に観光系分野を有する私立大学が存在しなかったため、この分野の志望者の併願先は県外の大学が対象となり、大学進学における人口の流出にもつながっていたが、前述の高校生進学意向調査において、「受験したいと思う」かつ「併願校の可否により入学を検討する」と回答した高校生が 110 人いるようなことから、

本学の観光文化学科がそれらの学生も取り込んでいくことが可能であると考えている。このようにして、観光系分野を志望する県内出身者にとって、私立大学に設置する観光文化学科の貢献度は高いと推察する。

(略)

【図表 8】公立名桜大学国際学部国際観光産業学科の 2023 年度入学志願状況 (2023.2.15 現在)

選抜区分	入試種別	募集人員	志願者数	志願倍率
総合型選抜	—	15	53	3.5
学校推薦型選抜	一般推薦	40	30	0.8
	専門高校及び総合学科推薦	5	7	1.4
	北部枠推薦	15	12	0.8
社会人特別選抜	—	若干人	2	—
帰国生徒特別選抜	—	若干人	0	—
外国人留学生特別選抜	—	5	3	0.6
一般選抜	前期日程 (A 方式)	50	101	2.0
	前期日程 (B 方式)	20	34	1.7
	後期日程	10	114	11.4

(略)

(新旧対照表) 学生確保の見通し等を記載した書類 (12～15 ページ)

新	旧
(5) 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果 学生確保に向けた取り組みとしては、これまでの実績から、①大学案内や進学相談会で本学に興味を持ち、②高校内説明会で確認、③オープンキャンパス参加により志願決定・受験対策、④早期の受験日程で受験、という構図ができており、詳細については以下に示す。観光文化学科においても同様に高校生との接触機会を増やし、オープンキャンパスで体験授業や先輩との交流を経て本学を知ってもらう取り組みを実施し学生を確保する。<u>入試広報において必要不可欠な大学案内については、観光文化学科のみの別冊を製作することで、詳細に説明するための材料とし、観光分野に関心のある志願者層にピンポイントでアプローチし、学生確保につなげる計画である。</u> <u>また、ホームページや SNS を利用した Web 広報活動や、新聞・交通広告を利用した広報活動により観光文化学科の設置を幅広く周知し認知度の向上を目指す。</u> <u>2023 年 7 月現在において、観光文化学科に興味のある高校生は、オープンキャンパスでは、3 月、5 月、6 月の 3 回でのべ 79 人、高校内説明会では 42 人、会場型ガイダンスでは 68 人、高校内ガイダンスでは 21 人、合計のべ 210 人の高校生が観光文化学科に関心を寄せており、高校生からは、県内の私立大学に観光系の学科の設置計画があると聞いて進路の方向が定まった、ぜひ実現して欲しいといった声が多数寄せられている。これまで私立大学の観光系を志望する県内の高校生は県外へ志願しなければならず、中には県外という立地により希望する進路を諦めた高校生もいるだろう。そのような状況で本学の観光文化学科が県内で志願できる受け皿を担うことは新たな受験者の開拓にもつながる。</u>	(5) 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果 学生確保に向けた取り組みとしては、これまでの実績から、①大学案内や進学相談会で本学に興味を持ち、②高校内説明会で確認、③オープンキャンパス参加により志願決定・受験対策、④早期の受験日程で受験、という構図ができており、詳細については以下に示す。観光文化学科においても同様に高校生との接触機会を増やし、オープンキャンパスで体験授業や先輩との交流を経て本学を知ってもらう取り組みを実施し学生を確保する。

以下の取り組みを通して、全国でも有数の観光地である沖縄県において専門知識を学ぶ意義、実務経験を多く有する教員による魅力ある授業など観光文化学科の特色を積極的に提供することで入学者を確保する。

1) オープンキャンパスの実施

(略)

観光文化学科においても、実際のキャンパスを見て、まずは観光の専門家である教員から観光の持つポテンシャルや可能性を踏まえた学科の教育内容や特徴を説明し、教員の専門分野を生かしたホテルや航空関連、クルーズ船、観光分野に必要な語学等の体験授業を実施する。2023 年度は、新型コロナに関する規制も落ち着くことから、参加人数も増加する見込みである。

2) 高校訪問・高校内説明会

入試課職員 3 人が担当制で定期的に高校進路指導部を訪問し、オープンキャンパスの案内や意見交換を行っている。進路指導部の担当教員は通常 2 年程度で交代するため新任で担当される先生が多く、本学のことだけではなく他大学を含めた入試制度や変更点、奨学金等の情報提供を積極的に行い、信頼関係が構築されている。また、沖縄県内の高校では、実業系（商業・工業・農林）や総合学科の高校生の進学意識が高まる傾向にあり、当該科を擁する高校訪問をした際には、進路担当教員より、観光と琉球やアジアの文化を学び、大学卒という学位を得て地域に貢献できる観光系に就職したいという高校生のニーズにマッチし、観光文化学科に関心を寄せる生徒は多いと思うとの見解が寄せられている。

(略)

2021 年度は、延べ 41 校で実施し、高校 3 年生を中心に 330 人が参加し、2022 年度は、オープンキャンパス前の 5 月から 7 月にかけて

1) オープンキャンパスの実施

(略)

観光文化学科においても、実際のキャンパスを見て、まずは教育内容や学科の特徴を知ってもらう形のオープンキャンパスを実施する。2023 年度は、新型コロナに関する規制も落ち着くことから、参加人数も増加する見込みである。

2) 高校訪問・高校内説明会

入試課職員 3 人が担当制で定期的に高校進路指導部を訪問し、オープンキャンパスの案内や意見交換を行っている。進路指導部の担当教員は通常 2 年程度で交代するため新任で担当される先生が多く、本学のことだけではなく他大学を含めた入試制度や変更点、奨学金等の情報提供を積極的に行い、信頼関係が構築されている。

(略)

2021 年度は、延べ 41 校で実施し、高校 3 年生を中心に 330 人が参加し、2022 年度は、オープンキャンパス前の 5 月から 7 月にかけて

て、延べ 40 校で実施し、356 名が参加した。
2023 年度総合型選抜（A 日程）入試に出願した既卒生を除く高校生 63 名のうち 36 名が高校内での説明会にも参加し、全員が入学見込みである。

前述の「高校生進学意向調査」では、高校生が回答するにあたって必要な観光文化学科の情報を明示していたが、概要に留まり詳細な教育内容等までは把握できないため、調査結果の自由記述では、ポジティブな意見に加えて興味・関心を伺わせる具体的な教育内容への質問が多くみられた。それは、「Q6）受験意向」を「受験したいと思う」、「Q7）入学意向」を「併願校の可否により入学を検討する」と回答した者 110 人のうち、Q9（意見・要望／自由記述）にコメントを記載していた 26 人においても同様であった（【資料 5】p 32）。そのため、まずは進路指導部の担当教員に対して観光文化学科の内容に対する理解を促し、高校内説明会において入学意向がある高校生にはもちろんのこと、併願希望の高校生に対しても丁寧に説明していく。説明にあたっては、大学案内や自由記述を参考にした Q&A をもとに、入試課職員に加えて観光文化学科に配属予定の教員が協力し、観光の専門家である教員の経験を踏まえた観光の持つ魅力や可能性、また、大学進学によりアカデミックな専門性を身につけて社会で働くことの意義などを具体的に説明することで確実な学生確保につなげていく。

次年度以降も積極的に高校側へアピールし、高校内説明会が開催可能な高校の増加に努めることでこれまで以上の学生確保を目指す。

3）進学相談会

離島を含む沖縄県内各地で企業や団体が実施する有料の進学相談会に入試課職員と教員が積極的に参加している。高校生と接触

て、延べ 40 校で実施し、356 名が参加した。
2023 年度総合型選抜（A 日程）入試に出願した既卒生を除く高校生 63 名のうち 36 名が高校内での説明会にも参加し、全員が入学見込みである。

次年度以降も積極的に高校側へアピールし、高校内説明会が開催可能な高校の増加に努めることで学生確保につなげていく。

3）進学相談会

離島を含む沖縄県内各地で企業や団体が実施する有料の進学相談会に積極的に参加している。高校生と接触する機会を増やすこ

する機会を増やすことで、本学に興味のなかった高校生へのアプローチにもつながっている。2020 年度は新型コロナにより相次いで中止となったものの、2021 年度は、会場型に 29 回、高校内相談会に 42 回参加し、延べ約 850 名の高校生と接触することができた。2022 年度は、会場型に 42 回、高校内相談会に 73 回参加し、延べ約 1800 名の高校生と接触することができた。名簿が取得できた参加者のその後の状況を見ると、2023 年度総合型選抜（A 日程）入試に出願した既卒生を除く高校生 63 名のうち 31 名が何らかの進学相談会に参加しており、入学見込みである。近年は、語学・国際や社会・観光学等の高校生の職業選択のための分野別進学相談会も増加しており、本学では観光文化学科の設置を踏まえて、観光、ホテル、航空系の仕事等の分野別進学相談会のオファーを受けるようになり、教員が積極的に参加している。本学の認知度を上げるために次年度以降も積極的に参加する。

4）地域・社会への広報活動

新設の観光文化学科について、新聞広告、バス等の交通広告を利用して高校生を含む幅広い層への周知を図り、まずは地域・社会全体への認知度の向上を目指す。また、本学ホームページでは特設ページを設けて広くアピールするとともに、電子版大学案内に加え、「高校生進学意向調査」の自由記述で寄せられている質問に対して応えられる情報掲載を目指し、高校生への興味・関心を促す。

さらに、近年、本学の広報活動では SNS 発信に注力している。実際に高校生個人からの直接の質問等への対応もみられるため、引き続き、積極的に発信していくことで学生確保につなげていく。

とで、本学に興味のなかった高校生へのアプローチにもつながっている。2020 年度は新型コロナにより相次いで中止となったものの、2021 年度は、会場型に 29 回、高校内相談会に 42 回参加し、延べ約 850 名の高校生と接触することができた。2022 年度は、会場型に 42 回、高校内相談会に 73 回参加し、延べ約 1800 名の高校生と接触することができた。名簿が取得できた参加者のその後の状況を見ると、2023 年度総合型選抜（A 日程）入試に出願した既卒生を除く高校生 63 名のうち 31 名が何らかの進学相談会に参加しており、入学見込みである。近年は、語学・国際や社会・観光学等の分野別相談会も増加しており、本学の認知度を上げるために次年度以降も積極的に参加する。

（新設）

(新旧対照表) 学生確保の見通し等を記載した書類 (資料) (32ページ)

新

旧

(調査結果追加) (【資料 5】 p 32)

【別紙】 参照

Q6「受験したいと思う」×Q7「併願校の可否により入学を検討する」×Q9「意見・要望」の抽出

ポジティブな意見

Q 6	Q 7	Q 9	コメント分類
1	2	学べることがとても充実していて、興味をもった。	教育内容 (学科の特色等)
1	2	観光文化学科の内容について知りたいと思いました。	
1	2	なにについて学ぶか知りたいです。	
1	2	どんな学科か、どんな授業、実践授業はあるか、学費	海外研修
1	2	グローバルになっていく中、こういう観光の事を学べて行くのはとても良いと思う。	
1	2	海外研修、があるので、海外との交流もあってすてきでした。	
1	2	3か国語が学べてすごいと思ったし、海外研修は楽しそうだった。	海外研修
1	2	海外への留学もあると良いと思う	
1	2	海外研修が必修はとも良いと思います！！	
1	2	海外研修があるのはいいと思ったけど具体的にどこに行くかをおしえてほしい。	海外研修 (費用)
1	2	海外研修の費用は、入学金に含まれているんですか？途中で、学ぶ語学を変えることはできますか？	
1	2	学費が気になる	
1	2	3か国語は選択か、全てとらないといけないのが気になる。	語学
1	2	自分は英語が好きなので、今後英語に関わる就業は考えていませんが、とても興味があります。	
1	2	〇入試科目が知りたい。	
1	2	沖縄は観光がさかんだからいいと思った。	入試
1	2	このような学科を期待していました。	
1	2	魅力的だと思います	
1	2	コロナの流行で、観光行が大打撃をうけたのを見て、これからの将来、また新しいウイルスが流行した時に、観光業は安定した職だとは思えない。だけど、沖縄の第3次産業を支えるためには、必要な学科だと思う。	感想
1	2	がんばっていききたい	
1	2	興味が湧いた。	
1	2	たのしそうですね。	その他
1	2	すごくいいと思います。開設したら、入学できる人達がうらやましいです。	
1	2	いいと思います！	
1	2	出来たら説明会とかには行ってみたい	その他
1	2	沖縄	

(新設)

【別紙】

Q6「受験したいと思う」×Q7「併願校の可否により入学を検討する」×Q9「意見・要望」の抽出

 ポジティブな意見

Q 6	Q 7	Q 9	コメント分類
1	2	学べることがとても充実していて、興味をもった。	教育内容（学科の特色等）
1	2	観光文化学科の内容について知りたいと思いました。	
1	2	なにについて学ぶか知りたいです。	
1	2	どんな学科か、どんな授業、実践授業はあるか、学費	
1	2	グローバルになっていく中、こういう観光の事を学んで行くのはとても良いと思う。	
1	2	“海外研修、があるので、海外との交流もあってすてきでした。	海外研修
1	2	3か国語が学べてすごいと思ったし、海外研修は楽しそうだった。	
1	2	海外への留学もあると良いと思う	
1	2	海外研修が必修はとても良いと思います！！	
1	2	海外研修があるのはいいと思ったけど具体的にどこに行くかをおしえてほしい。	海外研修（費用）
1	2	海外研修の費用は、入学金に含まれているんですか？途中で、学ぶ語学を変えることはできますか？	
1	2	学費が気になる	学費
1	2	3か国語は選択か、全てとらないといけないのが気になる。	語学
1	2	自分は英語が好きなので、今後英語に関わる就業は考えていませんが、とても興味はあります。	就職
1	2	〇入試科目が知りたい。	入試
1	2	沖縄は観光がさかんだからいいと思った。	感想
1	2	このような学科を期待していました。	
1	2	魅力的だと思います	
1	2	コロナの流行で、観光行が大打撃をうけたのを見て、これからの将来、また新しいウイルスが流行した時に、観光業は安定した職だとは思えない。だけど、沖縄の第3次産業を支えるためには、必要な学科だと思う。	
1	2	がんばっていきたい	
1	2	興味が湧いた。	
1	2	たのしそうですね。	
1	2	すごくいいと思います。開設したら、入学できる人達がうらやましいです。	
1	2	いいと思います！	
1	2	出来たら説明会とかには行ってみたい	その他
1	2	沖縄	